

レイトン

あるものなり。又『彼得前書註解』は敬虔の氣に充ち、共に清教徒の精神を湛へたるものなり。クロムウエル執政時代には、レイトンは請ふて大學の職入増加の計を得、又嘗てノックスのなしたる如く、高等教育進歩のため蘇國の各部に語學校の設立を建築し、自己の學校休暇中には大陸へ遊びツァンセン派を消息したり。後レイトンの地位は漸く一變せんとしてありしが、六一年蘇國に監督制度の設立せらるるに及びて、彼は此新設の教會に留まることを決心し、ダンブレンの監督となり、六二年十二月ンヤープ外二人と共にウェストミンスター院にて聖別式を受く。レイトンの教會の純潔なることは何人も疑はざる所、博士フリントも、ホルチットも、監督セツプも、レイトンの如く敬虔にして清高なる人は蘇國は勿論世界に稀なりと言ひ、或は少年時より聖徒、又天使の如き人なりと言ひ、或は基督の教會の眞の父と言ひ、或は人間のセラフなりと言ひ、或は其論争争議を厭ひ其上に超越せしを賞讃せり。レイトンは自己の教領を治するに極めて穩和の手段を取り、領内の二長老各區は其まことに據るべき長老會の開會する意の如く、大會議にはレイトン主等し、投票權の自由また少しも失はれず、故に分離せる非國教牧師は領内三四人ありしのみ。儀式も變らず、式文及び白衣を用ひず、外形は全く舊に依り、唯だ動力のみを新にせるのみ。然れども斯かる穩和の主義はシャープ及び其他の監督の喜ばざる所にして、之がため彼は國會及びチャールズ二世の前にて之を辯護せざるを得ざりしが、王は彼に聽きて之に『赦罪』を與ふ。然るにグラスゴウの大監督ホルチット此處置に反對せしむれば、職を罷められ、レイトンは七〇年グラスゴウの推薦受給者となり、七

レイトン

レナン

レナン

二年大監督せらる。此地位より彼は長老派と監督派との『調和策』を立て、當時のグラスゴウ大學神學教授、後のサリスボリーの監督ウルバート、ホルチットと共に之が實行に努めしが、一方には契約徒に對する政府の容赦なき壓迫あり、他方には監督制度に對する頑固なる抵抗ありて事全く成らず、彼は太く失望して倫敦に行き穩和に辭任を申し出て、王は尙一年の猶豫を勤め七四年九月其退隱を許せり。レイトンは其より暫くエザンバラ、カレッジ内に住み、次でサツセックスのアロードホルストなる其姉妹の家に暮せしが、七九年シャープ暗殺せられし時王より蘇國に行きて狂潮を和ぐべく請はれしも赴かず、八四年倫敦に行きてヘルス伯に會ひ、ホルチットより其健康の狀を祝せられしに、翌日助産院に於て二日の後ワイク街ベル旅館にて死せり。ホルチットは其『反省の助』を著くまレイトンの書に其思想の基礎を置きしと云ふ。レイトン傳にはトマス、ムリーの著あり。アルゲインの『蘇格蘭著者』マンニンの『我等の祖先の智慧』等の中にもあり。

レナン

人名 エルンスト Renan, Ernst

なる事、モーセ五經の文法及び歴史はモーセ以後のものなる事、但以耳書に默示的文學なる事等を發見したり。彼は僧となりんとし、此等の學校に學びたりしが、漸次羅馬教を離れ、四五年聖シニルヒス學院を去りてスタウイス学院に轉じたりしが、更にクラウセ學校に入り其教師となりて自ら支へたり。然れ共彼は此間尙希伯來語の研究を怠らず、四七年セミチック語に關する論文を書きてゲルチ一賞牌を得、越えて二年彼は中世に於ける希臘語の研究に關する論文を書きて賞牌を得たり。四九年佛國政府に派遣せられて以太利に往き、歸來時共に巴理に住し、著作を以て自ら支へしが、聲名漸く高く、五二年には Avenion を著して博士職を報らる。五六年マテオイセル、コルネリ、シエツプフェーと結婚す。六〇年姉と共にスリヤに往き、レバノン山脈を探検したりしが、瘧疾の氣に觸れて姉は死し、自らも亦殆ど死せんとせしが、僅に免れて巴理に歸り、六二年一月巴理大學希伯來語教授に任ぜられ、多年の宿望を達したりしが、其最初の講義に於て耶穌は比類なき人と言ひたりして羅馬教徒の反抗を招き、公安を害する者も此の理由に由りて直ちに職務を停止せられ、國民圖書館の副館長とせられしが、怒りて之に就かず。姉の遺言に従ひ『耶穌傳』の著作に着手し、六三年六月之を公にしたりしが、其年の十一月には既に六萬部を賣りたりといふ。此書には創始的の見多く、聖書及び神學に精通せるのみならず、スリヤの土地、山水、風俗及び古碑銘等をも熟知せる人の作とて、描寫生けるが如く、加ふるに行文流麗にして且平易なるを以て、讀みて面白けれ共、耶穌を以て單にインスピレーションを受けたる哲學者として描きたりしが故に、人類の渴仰

レイトン

レイトン

レナン

レナン

師依を得たる基督とは頗る異れる者となり。彼は後『使徒』六六『聖保羅』六七等著したりしが、彼は使徒等をも同じく幻想的熱心家として描寫せり。七八年彼は佛蘭西アカデミーの會員に擧げられ、八八年英國に於て『基督教に於ける羅馬の制度、思想及び教化の影響』と題するロマン語講演をなせり。彼の著書は『基督教起源史』にして、以上の三著即ち『耶穌』『使徒』『聖保羅』の外『The Antichrist』(七三)『福音書』(七七)『基督教會』(七八)『アルカス、アッレリウス』(八〇)を含有す。彼は又傳記研究の結果八年『以色列史』の著述に着手し、初巻は八七年、第三巻は九一年に出版せらる。事實及び學說の歴史には多少の缺點あれ共、宗教思想の進化に關する論文としては至大の價値を有す。此外『Histoire Générale des Langues Sémitiques』(五四)『Dialogues et Fragments Philologiques』(七六)『Draues Philosophiques』(七八)等は最も名高し。ロベソン、ダルメステツテ夫人の『レナン傳』(九七)ダブリア、バルリーの『レナン』(一九〇五)等を見よ。

レニー

人名 ロバート Rainy, Robert

此合同は一九〇年に成就したり。彼は又蘇國教會の凡ての論争に與れり。即ち一八七二年には蘇國教會に關する『アイン』スタンレーの有名な講演に答へ、ロホルトソン、スミスの異端事件の首領たり、非國教會の擴張に盡力し、又一九〇四年自由教會と一致自由教會との財産争に關する上院の判決に従ひ、教會改組の事業に牛耳を取りたり。彼は實に教會の法廷に於ける最上の辯論家なり。彼は三たび大會の議長となりたり。一九〇〇年教授の職を退けり。其著書には『カンニングハム傳』『基督教義の出生及び發達』(カンニングハム講演)『聖書及び批評』及び『古代公同教會』等あり。

レナン

地名 レナン Lebanon

レバノンの檜樹松樹及び白樺を伐り海路ヨツパに送りたり。王上五の六、代下二の八。而してソロモンはレバノンの建物を建てたりしが如し(王上九の十九、代下八の六)。以色列人が俘囚より還りたる後神殿を再築する時にも、彼等は用材として檜樹をレバノンより伐り出したる(列三の七)。檜樹の事に就ては『植物』の條、香柏の項(六二六、七五)を見よ。レバノンは北ナール、カスミエ河(又リマニエ河)に起り、南ナール、エルケセル河(古のエロイテルス河)に終る。凡そ九十五哩に亘る山脈にして、アカの平原を隔てて對レバノン山あり。對レバノンはパラダ河より起り、レバノンと相對して六十五哩に亘り、バルミラの平原に至りて盡く。レバノンは西地中海岸より漸次屋根の如くに高まり、其高さ六千呎より八千呎に至る。其嶺をエヘルムクメルと稱し、一萬二百呎に達す。六千呎に達する迄は耕作に適す。東アカに降る方面は直下にして峻嶒也。對レバノンの峻嶒なるに反し、レバノンは豐饒にして、森林繁茂し(詩七十二の十六、衆十の卅四)櫻はしき芬香あり(歌四の十一)水流れ出て(歌四の十五)又野歌に富めり(王下十六の九、衆四十の十六)。レバノンの美は又以色列人の想像に深き印象を與へ之に依りて莊嚴を表し(賽廿七の廿四)又堅固の表象せらる(詩廿九の六、何十四の五)。現今此地方は土耳其領に歸し、レバノンには基督教徒住居すれ共、對レバノンは回教徒之を占有す。

レビ

人名 レビ Levi

レビはラビウより來り『祭司』の義也といへるホムメル

レビ部

の脱ぎ、レバなる母の名を民族的に示せる也といへるリ、ハッセンの脱ぎ共、其何れも是なりと斷言し難し。レビの歴史の早期時代に起れる一事件の物語は創世四章に傳へらる。此記事に依れば、カナンの首長ハモルの子シケム、シメオン及びレビの妹デナを見て之を愛し、之を脱ぎて之を辱かしむ。ヤコブの子等之を聞て甚だ怒れり。シケム深くデナを懇ひて之を娶せんと願ひしが、シケムの父ハモル、ヤコブに來りてデナを與へてシケムの妻となさんことを求む。ヤコブの子等シケムと其父ハモルに語りて「汝等の中の男子皆割禮を受くること我儕の如くせば、汝等と婚を結びて一の民とならん」と言ふ。シケムとハモル乃ち其言の如くなし、彼等の中の男子をして皆割禮を受けしめしが、三日に及びて彼等其痛を免えし時、シメオンレビ各々劍を取り往きて不意に邑を襲ひ男子を悉く殺し、利刃を以てハモルとシケムを殺しデナを奪ひ返したりしといふ。此物語は思ふに以色列人がシケムの邑との間に結ぶたる盟約を破り、之を掠奪したりしことを記したるものなるべしと雖も、シメオンレビが奸策を回らし暴行を犯し、之がため長く排斥せらるるに至りしは明なることにして、即ちシメオンの子孫の産業はユダの子孫の産業の中に没收せられ(書十九の一九)レビの子孫も亦ユダの子孫の中にかくれ、他の諸支派の中に長く放浪せざるを得ざる(ミ)なりたりき。創四十九章に「シメオン、レビは兄弟也、其軀は暴虐の器也。……我れ彼等をヤコブの中に分ちイヌラエルの中に散らさん(五)一七」とあるも此意にして、凶暴を行へる支派に對する一般の制裁を言ひ顯はせる也。

で、此處に初めてレビ人の祭司なることを記す。此二章より知り得べき事實左の如し。(一)レビ人はユダ族の本據たるベツレヘムより來れる事(十七の七一九)。此二章及び十九の一、十八に依ればレビ人はユダと關係あり、共にベツレヘムより來れり(二)レビ人はユダに其家郷を有したりしとあれば、彼等の散居は既に初まり居りし事。(三)此頃は何人にも祭司とならざりし。故にミカは其子の一人を聖別して祭司となしたりき(十七の五)。然れ共レビ人は特に祭司職に適當の資質を有したりしが故に、之を發見し得る場合には、之を選びて其職に任じたりき(十七の十、十三、十八の十)。レビ人は報酬を得たりし處には、何れの聖所にも奉仕したりき(十七の四、十、十二、十八の四、卅)彼等が特に此職に適應せるは、神託を請ひ又之を解し(十八の五以下)且エホテ、テラビム及び諸たる儀を取りて儀式を行ひ得たるに由れり(十七の五、十八の十八、廿、卅)此處にレビ人を以てユダ族に屬する者として記されたるは解し難し。七十人譯は之を省き、クイチン。カウツは之を猶太學者の曲解に歸し、ブツは「モーセの家」とあるを改竄したるものなるべしと言へり。十八の卅には「ユダンの子孫ヤンの支派の祭司となりて北王國の祭司の時(前七三四)に及べり」と記し、而して其先をゲルシムを経てモーセに溯せり。(シロ及びレビ)にても之と均しき繼承的祭司職の立てられたる事記さる。シロの祭司職はアロンの子エホザバの子ビツハスを経てモーセの家に溯せらる。民廿五の十三、母前二の廿七、卅、卅四の卅三を見よ。創卅四、四十九章に記されたるレビが、聖所に仕ふるレビとなりしは、蓋しモーセの地位と勢力とに由り

利未記

しなるべし。モーセは以色列宗教の建設者、聖所の奉仕者にして且レビ人也。去れば祭司の聖職、禮拜に關する儀禮、神託の儀禮等が彼の家に傳へられしも疑むに足らず。然れ共祭司職はモーセの家系のみに限られたるに非ず。唯モーセが以色列人の宗教史上に占むる地位と特權とは、モーセの家系に屬せる祭司をして、自らレビ人と呼ばしめ、斯くしてモーセを始祖とせるレビの祭司族起りたるものなるべし。

利未記

Leviticus. 經名 舊約聖書

モ六經中の一書。猶太人は其冒頭の語より「*וַיְדַבֵּר יְהוָה אֶל מֹשֶׁה*」と呼ぶ。全書廿七章、十七一廿六章を除くの外祭司典より來る。分ちて三部となし、更に之を小分するを得べし。即ち左の如し。

(一) 犠牲、潔め及び贖罪に關する律法 (一—十六)。

(二) 犠牲に關する律法 (一—一六の七) 一章には「*וְעֹלֹת*」は燔祭、二章には「*זִבְחֵי*」は酬恩祭、四章には「*זִבְחֵי*」は酬恩祭を規定す。五の—十三は四章の補遺にして、五の十四—一六の七には「*זִבְחֵי*」は燔祭を規定す。

(三) 祭司職執行に關する心得 (六の八—一七の卅八) 左の八箇の規定を示さる。

祭司を獻ぐる時祭司の守るべき規定 (六の八—一七)。

祭司長の日々獻ぐる燔祭の事 (六の十九—廿三)。

酬恩祭を獻ぐる時守るべき規定 (六の廿四—卅)。

酬恩祭を獻ぐる儀式 (七の—一七)。

人々が燔祭及び酬恩祭を獻ぐる時祭司に歸すべき物の事 (七の十一—十八)。

レビ部

利未記

(一) 酬恩祭の犠牲の種類 (七の十一—廿一)。
牛半山羊の脂及び血は食すべからずとの事 (七の廿二—廿七)。
酬恩祭に於て祭司に歸すべき物の事 (七の廿八—卅四)。

(二) 祭司の聖別及び就職の事 (八—十章)。
アロン及び其子孫出廿九の—卅七の教訓に従ひ、祭司として聖別せられたる事 (八章)。
アロン及び其子孫祭司の職に就きたる事 (九章)。
ナゲアミアビリ異火を獻げたるため罰せられたる事、及び祭司等がために哭くことを禁ぜられたる事 (十の—一七)。

(三) 祭司其職を行ふ時酒を飲むを禁ぜられたる事 (十の八—十一)。
燔祭及び酬恩祭に於て祭司に歸すべき物の事 (十の十二—十五)。
罪祭を獻ぐる時肉は祭司之を食すべし事、及び贖の外に於て焼く可き事 (十の十六—廿)。
(四) 潔め及び贖罪に關する律法 (十一—十六)。
深き水と不潔なる水 (十一)。

(五) 小兒生れたる後の潔めに關する規定 (十二)。
痲病に關する律法 (十三—十四)。

(六) 一人其身に痲病の患處あり(十三の—十四)又は衣服に患處あらば(四十七—五十九)之を祭司に見する事、痲病人の潔めらるる日の規定(十四の—十五)家に痲病の患處の生じたる時の規定(卅三—五十三)。

(七) 流出ありたる後の潔めの事 (十五)。

(八) 贖罪の日の儀式の事 (十六)。

利未記

(一) 神聖律 (十七—廿六) 此十章は大體の形狀範圍に於ては祭司典に屬すも雖も、其文體、言語及び動機祭司典より異り、自ら他の部分より獨立せり。思ふに此部分の基礎となりたる古き祭司的律法ありて、祭司典の編輯者、若くは後の編輯者が祭司典と適合するやうに多少の變改を施して此部分たるものなるべし。故に斯くして爰に入りし此部分には、祭司典には唯稀にのみ發見し得べき言語頗る多く使用せられ、又特殊の教訓及び動機の特に高調せられたるを見る。此部分の他の部分に異れる特徴は、エホバが以色列人民に向て特に神聖なるべきを要め、之を以て以色列人民が他の人民に異れる特徴となし、之に依て其生活を律せんとするに在り。神聖はモーセ五經の他の部分に在りても以色列人民の義務としてエホバの要求せし處なれ共、其等の部分に在りては單に之を以て多くの命令中の一命令とせざるに過ぎざるに反し、爰には凡ての行爲の動機として特に之を高調せり。故に「*ク羅斯テルマン (Krosterman)*」は此等の章を呼び「*神聖律 (Das Heiliggesetz)*」と名けたり(一八七七)。此等の章が他の部分より獨立せる者なることは、更に内容の性質他の部分よりも確切的なる事、前に記されたる同一の主意の再び記されたる事、犠牲の地位に關する教訓を以て初むる事等の事實に依りて明也。エホバは大體に於て祭司典と關係を有すれ共、神聖律との關係は殊に著しく、彼は屢々之を引用せり。今此等の章に含まれたる神聖律の内容を略叙すれば左の如し。

十七章は左の四箇の事を記す。即ち(一) 犠牲の動物は中央聖所集會の幕屋に奉り來りて之をエホバに獻ぐるに非ざれば殺すべからず、其肉は其處にて酬

利未記

恩祭として食ふべしとの事 (一—七)。(二) 犠牲は中央聖所に於ての外獻ぐべからずとの事 (八、九)。(三) 血は食ふべからず、犠牲として獻げられざる動物の場合に在ては之を地に瀆ぐべしとの事 (十—十四)。(四) 自ら死にたる又は殺せられたる動物は食ふべからずとの事 (十五、十六)。

十八章は不法なる婚姻及び不潔なる男女關係の事を記し、廿一節には「*モロク*」の事を言へり。

十九章は以色列人の道徳的宗教的行爲に關する諸種の律法を記す。出埃及記廿一—廿三章と似たれ共此方一層倫理的也。

廿章は「*モロク*」を崇拜し、ト巫師を待み (一—七) 不法の婚姻を行ひ、不潔なる男女の交をなす者 (八—廿一) の罪を記す。廿二—廿六節は結婚論にして、廿七節は補遺也。

廿一、廿二章は祭司及び犠牲に關する五箇の規定を記す。即ち(一) 家庭生活の場合に於て祭司 (廿一の—一九) 及び祭司長 (廿一の—十五) の守るべき規定。(二) 祭司の務をなす者の有すべき身體上の條件 (廿一の十六—廿四)。(三) 犠牲に獻げられたる聖物を食ふことを得る二條件、即ち潔めを受けたるものなる事、及び祭司の家族なるべき事 (廿二の—十六)。(四) 犠牲に獻ぐる動物は全きものなるべき事 (廿二の十七—廿五)。(五) 犠牲に關する三箇の特殊の命令 (廿二の廿六—卅) 及び勸奨 (廿二の卅一—卅三) 是也。

廿三章は「*モロク*」となすべき節期、及び之を守る方法に關する規定を記す。節期とは安息日、マヌスの月一日と十四日、週節、新年節、贖罪日及び結茅節是也。此一章は祭司典と神聖律とを結合せり。思ふに二典に次げる時代に生息したる編輯者の業なる

レの部

レフォルムド教會

レフォルムド教會

レフォルムド教會

べし。九一廿、廿二、廿九、四十一、四十三は神聖律に屬し、其他は祭司典に屬す。
 廿四章は幕屋の燈火の事(一四) 供のパンの事(五九) 露液及び特殊の出来事のため人を傷けたる場合に關する律法を掲ぐ(十一、廿三)。
 廿五章は安息年の事(一七、十九、廿二) 及びヨベルの年の事(八、十八、廿三) 並にヨベルの年の制度より起る權利に關する規定(廿四、五十五)を記す。
 廿六章は偶像を作り又は之を禮拜すること勿れとの事と、安息日を守るべしとの命令(一、二)を記し、結ぶに前に示したる法令と誡命とを守りて之を行ふべしとの勸戒の言を以てす(三十一、四十五)。
 此終りの勸戒は全體として廿三の廿以下及び廿八に似たれ共、神聖律に特殊なる觀念を有し、同一編輯者の作なること明也。
 (三) 誓願及び十分一税に關する律法(廿七章) 此章は祭司典に屬す。
 此條「モーセ六經」の條を參照せよ。參考書も其餘下に出でたり、英語註釋書にて最良なるはカリッシュの著にして「エクスゴジタル、バイブル」中のケロツク又參照すべし。
レフォルムド教會 又は改革教會 The Reformed Church. **宗派名** カルヴィンの教義を奉じ、政治に於ては概して長老主義を採用する教派の名。
 (一) 歐羅巴に於けるレフォルムド派 レフォルムド派なる名稱は、獨逸に在りてはルーテル派に對してカルヴィンの神學を奉ずる者ないふ。此派は主の晚餐に於ける化體説と共に基督共在説をも排斥し、晚餐を受くる時多くは跪くことなく坐して之を受

く。又此派は儀式的簡略を賞び、祈禱書に依るより其場合に應じたる臨機の新語をなすをよしとせり。獨逸に於てはルーテル派と合同の運動起り、普蘭士其他二三の聯邦にては合同したれ共、多くの聯邦に在りては尚ルーテル派と對立せり。(獨逸に於ける此派の歴史、其ルーテル派との關係等に就ては「宗教改革」獨逸「ルーテル教會」等の條を見よ。)蘇格蘭の長老教會、佛蘭西のユグノー派及び和蘭、瑞西、波蘭諸國のプロテスタント教會は多く此派に屬す。(此等諸國の條、「長老教會」「ユグノー派」「宗教改革」の條參照)。
 (二) 米國に於けるレフォルムド派 (イ) 米國に於けるレフォルムド教會(The Reformed Church in America) ニッパムンデルダムの最初の殖民者は、學校長と病人訪問者となつて來りしが、一六二八年に至り牧師ヨナス、ミカエリス渡來して、ワロン人及び和蘭人の信徒五十人以上を集めて教會を組織せり。是れマンハッタン島の貿易港が永住的農業殖民地となりてより五年後の事にして、其より五十年間和蘭人の移住相續き、紐育州のホドソン河モホーク河流域及びニッセルシーのハッサイク河ハッタンサック河ラリータン河流域に定住せしが、母國の教會は能く此等殖民地に牧師を供給し、多年調和を保ちて確實に發達し、一六六〇年英國の該地征服も教會には何等の障害ならざりき。然るに一七一九年教師フリーリッゲンホーゼンなる者ニッセルシーにて傳道を始め、其熱誠と精神的なること由て大に成功せしが、彼も其同志も殖民地教會が和蘭に子弟を送りて教育を受けしむるよりも、自ら教師を養成し按手禮を施すべき必要を感じ、アマステルダムの長老會の許可を請ひ、數年を経てゲーッス

(Oeism)なる會派を母教會長老會の管下に屬して開くべき許可を得、かくて暫く此計劃を實行したりしが、教師及び教會會議の中には却て獨制を喜ぶ者あり。此等の人々はクーンズより分離して Conference と稱する一體を造り、兩派は激烈なる争論を擧げ、教會の進歩に之がために阻碍せられたるを、一七七〇年に至り博士エチ、リヴィングストンの努力に由て合同成り、諸教會をば自治體として結合したり。一七九三年及び一八一二年に此組織を更に完全にし、爾後續て發展せり。教會は初は紐育ニッセルシー、ペンシルヴァニア諸州の一部に存在せしが、和蘭人連りに米國に移住すること共に、次第に四方に擴がり行けり。一八六七年北米レフォルムド、プロテスタント、プロテスタント教會 (Reformed Protestant Dutch Church in North America) の稱を改めて米國レフォルムド教會 (Reformed Church in America) となせり。
 教會の組織の根本は歐洲のレフォルムド教會と同じ。各教會の小會(教會會議)は長老と執事より成る。長老は牧師と共に會員の出入を議し、戒規を行ひ、執事は慈善の事を司る。共に教會の管理者にして、財産を保持し、牧師を招聘す。「教會大會」なるものを組織し、退任長老と退任執事は大事件ある時に召集せられて諮詢を受く。或區域の諸教會より各々牧師一人長老一人を出して中會(Synod)を組織す。更に廣き區域の諸中會より各中會が四牧師四長老を出して特殊大會を組織す。更に各中會より其大小に比例して教師及び平人の代表者を出し總大會を組織し、斯くて各々其範圍内の精神上の事を司れり。
 教會には五個の信條あり。即ち使徒信條、ニカヤ信

レの部

レフォルムド教會

レフォルムド教會

レフォルムド教會

條、キクンク、ウルト (Quintque Vult) 白耳義會白(一五六一年)及びドドレト教典(一六一八—一九年)是也。又ハイデルベルヒ信仰問答(一五六三年)をば家庭及び學校にて教へ、講壇にて説き、四年にて教へたることを命ぜり。主の晚餐に列する者は此問答の綱領書を標準として信するを要し、教職は告白及び問答に調印するを要し、幼兒の受洗を求むる父母は信仰の個條を奉じ、又之に従て其子を教育することを承諾するを要す。此教會の一特色は教義と秩序とに熱心を有することなり。
 戒規は全く精神的にして、凡て洗禮を受けたる者を律す。其運用は牧師及び長老の手に在り。彼等は主の晚餐式執行毎に預め信徒が信仰不健全となり居らずや、生活亂れ居らずやを調査し、適當の處置を取るなり。之をケンヌスラ、モールドムと云ふ。又毎春の長老會にては各牧師及び長老は果して聖書の純粹教義教會にて説かれたりや、信仰問答諸壇より説明され學校にて教へられたりやを問はれ、細かに之に答へざるを得ざることをなれり。此教會には和蘭より傳へられたる式文あり、カルヴィン、フーツメル、ジャン、ラスキ等の筆を集め、更に増補したるもの也。
 此派の外國宣教は一八三二年米國聖書會社外國宣教に附して始めたりしが、一八五七年獨立して活動し、日本、支那、印度のマテラ地方に宣教せり。婦人補助傳道局の事業又盛なり。内國傳道局は一八三三年に立てられ多くの教會を補助す。
 (ロ) 合衆國レフォルムド(獨逸)教會 (The Reformed Church in the United States) 此教會の起原は半ば瑞西に於てツウィンギーが初

めて改革を唱へし時に起り、半ば獨逸に於ける改革の時に起れり。獨逸のプロテスタント教會の一部は全くルーテルの説に従ふ能はず、又全くツウィンギーの説にも容るる能はず、此を以て獨逸にてはメランクトンの下に一の傾向を生じたり。是れ後に至りてカルヴィンが其大神學者たるを以て首を表はしたる傾向なり。フリードリヒ三世が選ばるなりし時、特權選侯領の教會は此メランクトン流のものなりき。侯は領民に其教義を示さんとしてハイデルベルグ大學の兩教授ツァカリアス、ケルスマスとカスバル、オレイアヌスに命じ信仰問答を起草せしめ、一五六三年自己の監督の下に之を公にせり。此問答が獨逸のレフォルムド教會の信仰標準となり、和蘭、匈牙利、ホヘミア其他の改革教會に依て採用せられたり。合衆國日耳曼レフォルムド教會は之を唯一の信仰告白とせり。而して教會内には佛蘭西ユグノーの子孫あり。其先祖少數の團體にて米國に殖民し此教會を加はりたるなり。
 獨逸人の米國移住は既に一六八四年に始まりしが、其多くは特權選侯領の迫害を避けて遁れ來りし者なり。殖民は第十八世紀に入りて續き、紐育州アラウエア河ハイ河サスケハナ河地方、メリーランド州ツァルツニア州南北カロライナ州に殖民地を造りしが、ペンシルヴァニアは最も大なるものなりき。一七三〇年頃米國最初の獨逸レフォルムド派牧師の一人ゲオルク、ミカエル、グアイアの和蘭國大會に報告し所に依れば、米國には特權選侯領及びナッサウ、ワルテック、ウイトゲンスタイン地方より行きしレフォルムド教會の徒頗る多かりしとせり。最初の牧師はフアイッブ、スーメにして、彼は一七二〇年米國に行き、暫く學校教師に招かれ、後にホイトヘーン教會の牧

師に選ばれたり。一七四六年此教會の米國に於ける始祖ともいふヘンリッヒ、ケル、シュタット(Shattler)來り、四七年九月最初のケーッス(大會)アマステルダムの長老會附屬として組織せられたり。九三年大會は諸長老會に分轄せられ、次でオハイオ及び附近諸州大會を分設したり。兩大會は關係親しかりし有機的關係なりしが、一八六三年憲法を改正して總會を組織したり。合衆國レフォルムド教會はレフォルムド教會の一派にして、ルーテル教會とは主の晚餐の教義に關して相異り、英國教會とは教職の同等主義、政治上の長老主義及び禮拜の異なる形式に於て相異り、嚴密なるカルヴィン派レフォルムド諸教會とは極相なる預定説を取る點に於て相異れり。此派の外國傳道會社は日本、印度及び北米印度人に傳道し、内國傳道會社は重に獨逸よりの移住者に傳道せり。
 (二) レフォルムド監督教會 (The Reformed Episcopal Church) 一八七三年レフォルムド教會より分離したる教派にして、米國監督教會の監督カミンズ (Cummins) 監督教會より離れて來り投じ、舊に働くべき監督を聖別せり。此派の他のレフォルムド諸派に異る所は監督を有するに在り。此派今は凡そ一百人の教師を有す。英國にも此主義を賛成する少數の人々あり。蘇國の監督教會は之と關係を有せざれ共、其性質此運動と相同じ。
 (三) レフォルムド長老教會 (The Reformed Presbyterian Church) 「長老教會」の條を見よ。
 以上米國に於けるレフォルムド教會(レフォルムド監督教會を除く)は一八〇七年の調査に依れば、教會二千五百九十六箇、教師一千九百九十九人、會員四十三萬四千五百八十八人を有す。

煉獄説

The Doctrine of Purgatory.

羅馬教の教義にして、此教義は不完全なる信徒は樂園に入るために、中間の状態に在りて刑罰的純化的苦痛を受けざる可らずといへる教義と密接の關係を有し、此純化的過程を火又は水に陥せり。其既に以爲らく、樂園は火の海に依りて開かれ、靈魂の汚濁は天に入ることを許さるゝ前に焚き盡さる。此説の初めて起りたるは第三世紀にして、亞歷山のクレメントは世に靈火ありとのことを語り、オリゲヌスは此火は死後に繼續し、保羅、彼得の如きものさへ、凡ての罪より潔められんために此火の中を通過せざるべからずと言へり。アウグスティヌスは太十二の卅二を證とし、殘存せる罪の潔められんため煉獄の火を通過せざるべからずといへる教義は信じ難きことに非ずと言ひ、大グレゴリウスは此教義を確言せり。トマス、アウグスティヌス、ボナヴェンチュラ、ゲルソン及び其他の中世の神學者は煉獄の火は物質的也との説を唱へたり。希臘教會は羅馬教會の如く極端に走るを好まず、一四三九年フロンセスの會議に於て煉獄の火の教義を排せり。カトリック派、ワルド派及びウィクトリア派は此教義に反對し、宗教改革者は煉獄説全體を攻撃せり。之に反してトレンントの會議は此教義に反對せる者を宣明し、ハラルミンは其著『煉獄説』に於て此教義を詳論し、舊約(王上卅一の十三、五十一の三等) 經外聖書(マックカビ二書十二の四十、トコト書四の八) 新約(太十二の卅二、哥前二の十一等) 教父、宗教會議及び理性より之を證し、煉獄の火は物質的也との結論に達したり。『終末論』の條參照。

ロ の 部

ロー ウィリアム Law, William

人名 一六八六一一七六一 英國の信仰的文學の著者。ノルサムプトンシャーのキングスクリフに生れ、劍橋のエムマヌエル、カレッジに學び、其フェローとなり、一七二一年聖職に任ぜらる。ジョルジ一世に忠信誓約をなすを拒みて、友人皆離反し、教會にて昇進の途絶え、重に解職と著作に於て其生涯を送り、七十五歳を以て活潑なる心を有しつゝ死去せり。ローは英才あり、聖徒にして又力ある著作者なりき。彼は又極めて世俗的倫理的の世に在りし、純然たる神秘者なりき。傳記者オウアルトン曰く『彼を時人中に望むは、赤煉瓦の無難なる新築製造所の並へる村の中に、古きゴチック風の一大伽藍に接するが如し』と。其著『眞面目なる召命』は有名なるものにして、英語信仰的書物中『天路歷程』以外此書は高貴せられたるはなし。ギブソン、ジョンソン、ドドリッチ、ジョン、ウエズレー等皆爭つて之を推賞せり。ウエズレーはローの言に感化し所多く、初代のメソヂスト主義にはローの感化の籠れるもの少なからず。後ローはヤコブ、ヘーメに熱心心服せしが、ローの心は健全にして且つ教會的感情強かりければ、ヘーメの多くの弟子の陥りしが如き奇異なる就弱主義に陥らずして巴り。『祈禱の精神』『愛の精神』は共に其精神主義を表はしたる者にして常ならぬ力に充てり。死ぬる時には平素の如く『我

等の裏に生き得る神らしきものは、唯我等の裏に生きて呼吸せる神の靈に由て全く其生命を托するもののみ』といふ説を基督信徒、殊に牧師に勧めたりといふ。

ロアジー アルフレッド Loisy, Alfred

人名 一八五七 佛蘭天主教會の神學者。アマリエルに生る。一八八一年巴黎加特力學院の教授となり、一九〇〇年ソルボンの教授となる。近年出でたる羅馬教會著名の神學者にして、所謂『近代主義』代表者の一人也。其著書には『舊約正經史』、『新約全書論』、『舊約本文の史的批評』、『イスマエルの宗教』等あり。其近著『L'Evangile et l'Eglise』は進化論を基督教義に應用し、ハルナツクの歴史神學を駁したるものにして、彼は歴史上の耶穌に重きを置き、信仰上の基督を以て重要也となせり。其著書多くは一九〇三―四年の交法王に依りて宣明せらる。

ロイス エドワード Loys, Edward

人名 一八〇四― 九一 獨逸の歴史神學者。ストラズブルに生れ、同地大學の教授たり(一八三六―三八、一八七二―七八)。チウビンゲン派の就正統派の説を共に多少賛成したれ共、別に獨自の地位に立ちたりき。彼は佛蘭西語にて書けり。其最も重なるものは『新約聖書歴史』及び『舊約聖書歴史』也。

ロイヒン ヨハン Reuchlin, Johann

人名 一四五五―一五二二 獨逸の博識學者。ホルツハイムに生れ、一四七〇年フライブルグ大學に入り、七三年バーテン、ソルラハ伯の宮廷歌者に任ぜられ、伯の一子に従ひて巴理大學に往き、其所にて希臘語を學び、歸りて後バーゼルに住みて、廿三

ロイヒン

版に互れる拉丁字典を公にし、拉丁、希臘學識を開きしが、土地の神學者等は希臘學識は不敬の事にして人民を羅馬教會より引き去るの恐ありせしむば、彼は同市を去り先づ巴理に行き、尙暫希臘語を修め、次でオルレアンに行き、七八年より法律を研究し、八一年歸りてウルテンベルク侯に事へ、其顧問となり、羅馬に遷徙し、フイレンチエにてアラトール及び『カバラ』學に關する熱心を吹き入れられ、希伯來語をも學ぶ。九二年外交事件のため皇帝の所に使し、歓迎優待を受く。此時持ち歸りし希伯來學知識を彼は無上の寶として、九四年 De verbo mititico を公にす。九七年特權選侯の用に羅馬に在りし間に、他の猶太人學者より希伯來語を學び一五〇六年希伯來文法を公にす。獨逸にて希伯來語を學問的に研究せしは之より始まれり。其頃世界歴史及び民法の教科書、及び拉丁語の學校教科書一種 Plogmanniana scilicet を著す。廿九版を重ね、一五〇四年 De arte praefandi を公にす。宗教改革主義に傾けり。一六年 De arte cabalastica を著す。彼の受けし信用は非常にして、一五〇二年にはスアビア同盟より判士に選ばれたり。一五〇九年始めてヘッフェルコロンを知る。彼は猶太人の改宗せし者にして、ケルンの聖ウルスラ孤兒院事務員なりしが、ロイヒリンは其より憂慮悲愴の生活を遂るに至れり。ヘッフェルコロンは皇帝マキシミリアン一世より布告を受け、獨逸内の凡ての猶太人をして其職をヘッフェルコロン前に出して檢閱を受けしめ、且ヘッフェルコロンには凡て基督教反對の書物を沒收焚棄するの權を與へたり。ヘッフェルコロンはロイヒリンに此事を共にせんことを求め、ロイヒリンは之を言ひ免れしが、然も終に此事に捲き入れられた

り。皇帝はマインツの選侯を介して猶太人の書物焚棄事件に關しロイヒリンに提言を提出すべきを命じければ、ロイヒリンは之を提出せしに、帝は之をヘッフェルコロンに示せしに、彼は一五二〇年の自著『手鏡』に載せ、猛烈なる攻撃の註を加へたり。ロイヒリンは一年『眼鏡』を公にして、之に答へしが、此書の正統調查を托せられしケルン大學神學科ドミニコ派檢校官ホーグストラーターはヘッフェルコロンに對し『眼鏡』より四十三個條の非正統説を指摘し、一五二三年ホーグストラーターは公然の告誡を呈して現はれ、ロイヒリンは其より七年間及々として禁錮に落ちんとする危険中に過ごせり。即ち初め一四年三月ニバイエル法廷は彼を免し、ホーグストラーターに百十一ケルテンの罰金を申渡せしに、ホーグストラーターは法廷に訴へ、一五二四年は法廷を開きナザレンの大監督ヘニゲマス、ド、サルツリアチヌを其長となしたり。一六年七月法廷はロイヒリンを全く免罪せしが、然も法廷はドミニコ派の勢力を恐れて判決に裁可を與へず、フランク、フオン、ツッキンゲンがドミニコ派僧侶にもはや反對を止めて科料を拂ふべきを助言し、若し聽かざればフランクと友人とは自ら敢てドミニコ派僧侶に衝らんと言ひしに至りて僧侶は洗滌し科料を拂へり。ロイヒリン密閉は大なる感動を世に與へ、古典文學者等は皆彼に驚し、宗教改革の旗幟を立て一種の組織を有する一黨も起りてロイヒリン黨と唱へたり。然れ共本人は之に與らざりき。彼は終始教會に忠なりき。彼の性格には一種殉教者たり得る質ありしなり。晩年は戦争のため安らかならざりしが、一五二二年チウビンゲンの希臘教授を拜命せしも間もなく死せり。メランクトンは彼の甥の子にして

て彼は常に之を己が師とせしが、ルーナル現はるゝや此も彼を離れて改革者に歸したり。

ロギア Logia 書名 希臘語『神託』の義にして、聖書學者が會て存在したりしと假定せる耶穌の『説教』集に適用せる名。フレイヤのヘネラギリスの監督ハピアス(第二世紀前半の殉教者)は其著書の中に、使徒マタイの希伯來語(又はアラム語)にてロギアを書きたりとのことを述べたり。然れ共今日の馬太福音書は初めより希臘語にて書きたる者にて翻譯したる者に非ざれば、ハピアスの所謂ロギアに非ずとのことは一般に承認せらる。故に今日の聖書學者はマタイが希伯來語にて書きたるロギアなるものあり、耶穌の説教を集めたる者にて、現存の馬太及び路加の二福音書は馬可福音書と共に之を材料となして編輯せられたるものと論ず。是れ『二文書説』と名けられたるものにして、共観福音書の異同を解説せる最好の説也として一般に承認せらる。『共観福音書の條參照』。斯る書が實際存在したりしことは、一九〇三年グレムフェル及びハント中央埃及のメネサ(古昔のナククラーリオンカスの地)に於て二箇の耶穌の説教集を發見したりし事實に依りて確實にせらる。此二箇の説教集は一九〇四年出版せらる。 Oxyrhynchus Gospel Fragment と稱する者是也。

ロトス Logos (ὁ λόγος) 術語 希臘語。古典にては『言辭』又は『理性』の義を有し、聖書にては教義所を除くの外『言辭』の義に使用せらる。而して新約に在りては、表出せられたる言辭、言論、教訓、物語等の意義を有し、神に適用せらるる場合には特殊の神の言、又は一般の啓示、又は神の意志を示したるものとして聖書の義に用ゐらる。

ロ の 部

ロイヒリン

ロギア

ロノ部

ロノス

ロノス

ロノス

然れ共新約に於ける此語の特殊の意義は、使徒約翰が之を用いて化身前後に於ける神の子を指したるに在り。約翰は此意義にて六回之を使用せり(約一の一、一四、二四、三三、四三、五三)。而して福音書には單に『道』と稱し、約翰には『生命の道』と云ひ、黙示録には『神の道』と云へり。是等の場所に在りては此語は何れも基督に適用せられたるものなれ共、新約聖書中此語が基督に適用せられし處其他には之れあるなし。

第四福音書に依れば、耶穌基督は永遠より存在せる神格の化身にして、神は彼に依りて有限の宇宙に對する活動を現はし、彼は神の性質と意志とを完全に顯現するが故に『道』と稱せられたり。斯く約翰は約一の一、二に於て『道』の神に對する關係を示して、『太初に道あり、道は神と格に在り、道は即ち神也、此道は太初に神と格に在り』と云へり。『太初に道あり』といふは、『道』の存在は永遠にして、無限の範圍に屬するを示し、『道は神と格に在り』といふは、『道』と神との關係は永遠にして、『道』は神に非ず、然れ共神と最も密接の交通あるものなることを示し、又『道は即ち神也』といふは、『道』は其性質に於て神と均しきを示す也。三一五節は『道』と宇宙との關係を示せるものにして、之に依れば萬物は『道』に依りて造られ、世界に生命あり人類に知識あるは、『道』が其已に滿てる生命と光明とを之に與ふるがためにして、神の顯現は『道』が肉體となりて人類の間に宿れるに至りて其頂點に達したる也。

約翰の此思想は『イロノ』の『道』思想と似たる處あるを以て、亞歷山哲學の影響を受けたる者也と論ずる者あれ共、其似たるは單に表面のみにして、其

根本精神には非ず。今先づ『イロノ』の『道』思想を概説せんに、之を以て、神の思想が顯はれて吾人の眼に見ゆる宇宙とされる趣は、宛も人の思想が言語となりて顯はるゝが如し。人の裏に在る知識が言語となりて外に顯はるゝが如く、神の心にのみ存在せる世界は顯はれて吾人の眼に見ゆる宇宙となり、故に宇宙は神の理想の顯現也。而して理想世界に在りて其秩序と調和とをなす處のものは『道』にして、吾人の眼に見ゆる此宇宙に發見する秩序と調和とは又此『道』より出で來れる所のもの也。故に『道』は其内面に在りて神の思想にして、其外面に於ては神の道(言語)也。道とは吾人の眼に見ゆる宇宙に顯はれたる合理的秩序の謂にして、今日の語を以ていへば法則也。故に此法則を理解するは即ち神の理想の顯現を理解する也。『イロノ』は又神は絕對的一致也とのことを主張せるを以て、神を以て天地の終極の原因となし、天地を創造せるものは『道』也とせり。斯く彼は『道』を以て神が天地を創造するに方り用ゐたる器械となしたりしを以て、彼に依れば『道』は神と人との中間に在る者にして、神の如く生れざる者にも非ず、又人の如く生れたる者にも非ず、永遠に生れたる者、換言すれば時間内に存在せざる者にして、永遠に存在する者、而かも自ら創造せる者にして、神の創造方に依りて存在せる者、約言すれば、造られたるに非ずして永遠に生れたるもの也。而して又『道』は神の道として『神の長子』又『神の初生子』と呼ばれ、眼に見ゆる宇宙の秩序及び調和を保ち、個人及び國家の運命を支配する法則也と思惟せられたり。故に又『道』は『天の父』又『地の父』に對して『神の父』又『天の父』と稱せられ、而して神に

非ずして神の像也との點より『第二の神』と呼ばれ、又『道』は神と人との中間に在り、而して人は合理的なる存在として『道』の像也との觀念より、『道』は又神人間の仲人、仲保者又は祭司長と呼ばれたる。斯くの如く『イロノ』の『道』なる者は顯る第四福音書の思想と類似する所あるを以て、後者が前者の影響を蒙りたるが如く思惟するは一應尤なるが如くなれ共、其影響を蒙りたるは思想の表出法にして、其宗教的觀念には非ず。是れハルナツクも亦承認する處にして、彼は『新約聖書記者は希臘的教化に依りて生じたる精神的空氣を呼吸すれ共、彼等の宗教的觀念は舊約聖書に詩篇及び預言者より來れる者也』と云へり。今『イロノ』と第四福音書の相違を述べんに、『イロノ』が神を以て絕對的に人智の領解し難き者也とせざるに反し、『道』の神は神は愛也として『道』に依りて顯現せられたりといひ、『イロノ』が『道』を以て神と同一也とせざる、其活動の産物也とせざるに反し、『道』の神は『道』は神と格に在り、『道』は即ち神也といひ、又『イロノ』が神の思想たる『道』と道たる『道』を區別せるに反し、『道』の神は神の區別を設けず、『道』を以て神自らの顯現とせり。蓋し『道』なる語と思想とは當時流行はれたりしものにして、當時希臘は東方諸國を征服し、勢力隆々たりしを以て、何物も之の影響を免るゝ能はず。第四福音書記者も亦『イロノ』と共に當時流行はれたりし言語を採用したりしと雖も、彼が宗教的觀念は全然希臘的人格に於て神の最も完全なる自現を發見し、『道』なる名稱を以て最も能く神の自現の思想を表白し得べしとせり。此語を採用したりし也。

ロノ部

ロノス

露西亞

露西亞

約翰『道』思想の根源は之を舊約及び舊約以後の文書に發見するを得べし。即ち創世記に於て天地創造は神の言に歸せられたりしが、之れより天地創造及び神の攝理の詩的敘述に於ける神の言を擬人化するこゝ起れり(詩三三の六、百七の廿、百四十七の十五、百四十八の八)。更に高調せられたるは啓示の『神の言』と呼ばれたることにして、是より『エホバの言』來り、或は『イザヤの見たる言』(賽二の二、一、一、一、一)といへるが如き言語起り、神の言を講られたる、又は書かれたる言と區別するの傾向生じたり。之と共に起れるは『エホバの使』又は『契約』が或る時は神と同一視せられ、或る時は區別せられたる事(創十六の七、一三、廿一の十七、十八の十三、出三の二、一六、十四の十九、廿三の廿、廿三、廿二の廿四、書五の十四、十五、士二の一、五の廿三、六の十一、廿一、亞一の十二、三の一、馬三の一)及び神の『名』(出廿三の廿一、王上八の廿九、賽卅の廿七、詩五十四の一、耶十の六等)『神の現存』(出卅三の十四、申四の卅七、賽六十三の九)及び『榮光』(出卅三の十八、四十の卅四、王上八の十一)が擬人化せられたる事也。此等の或る句が『エホバ』を以て特殊の人格的機關に依りて自己を顯現せりとなせるは明也。希伯來思想が啓示の媒介者な以て人格的となすの傾向ありしことは、又晩代の文書に於て『智慧』を人格化せることに於て顯はる(伯廿八の十二、廿八、箴八の廿二、卅一)。此傾向は正典以後の文書に於て一層明に顯はれ、『シラックの子エホバの智慧』(一の廿四)に至りては、智慧は一層大膽に擬人化せられ、創造せられたるものにして、此特殊に以色列人に顯はれたりとなされたれ共、又此世以前に存在せる者として記されたり。尤も此書の他の

部分(廿四の十四、廿三)に在ては、其敘述尙半ば詩的なるを示せり。『ソロモンの智慧』は更に進んで智慧に實質的存在を歸し、之を以て『神の力の呼吸』、全能者の榮光より發する純粋なる流出』也とせし、故に智慧には何等の汚濁なしと云ひ(七の廿五、廿七)又『永遠の光の射出』、神の流出の汚れなき神の善の像』等と云ひ(八の三、五、九の四、九の十一)又神の言(『道』)萬物を創造せるもの、序列をなすもの(九の一、一八の十五)として記せり。此書は蓋し亞歷山哲學の影響を受けたるなり。然れ共此傾向は又タルガムにも顯はれ、此に在りては更に第四福音書に似たり。此の如く『道』思想は猶太に於て漸次發達し來れるものにして、約翰は其表出の方法に於ては『イロノ』に負ふ所ありと雖も、其宗教的思想は全く猶太的なる也。『ヨハネ』の條約翰の神學の項參照。『道』の教義に關して詳なるを知らんば、『マイエル』、『ヒーター』、『ウェストコット』、『レタート』等の約翰福音書註釋、ウァットキンの『近世神學と約翰福音書』(一八九〇年)、ハンブロン『約翰福音書』、『ウァイツ』、『バイシラックの新約聖書神學』、『オエレル』、『シヨレルの舊約聖書神學』、『シラックの猶太人民史』、『ツェンル』、『ユールウエーグ』、『リッテルの『希臘哲學史』、『ハインツの『希臘哲學に於けるロノスの教義』、『オールの『希臘哲學に於けるロノス教義の歴史』等を見よ。

露西亞 Russia. **地名** 露西亞は世界の最も廣大なる國にして、其廣袤大英國全領と相及ぶ、八百六十六萬方哩餘あり。近時國會を開き立憲制度を採用したれ共、皇帝の權力は尙極めて強大也。帝國一般の宗教は東方正教會即ち希臘教會にして、

人民の四分の三は之に屬す。法律にて之を規範的信仰となし、他の基督教派は勿論、猶太人、モハメット教徒、異教徒にも信仰の自由を與ふることなし居れ共、基督教徒は露西亞教會に改宗することの外に他派の基督教徒に轉することを不得、非基督教徒は露西亞教會に入る外、他派の基督教徒に入るを得ずとせられ、國教會に背きし者は嚴罰を加へられ、追放等の刑に處せらる。

基督教徒に次で多數なるはモハメット教徒にして、其數は中央亞細亞に於ける露國境界の擴張と共に増加し來れり。一八九七年に於けるモハメット教徒の總數は一千二百十五萬人、猶太人は四百萬人、異教徒は二百七十萬人、希臘正教會は分離徒を合せて九千六百萬人、羅馬教徒は一千二百廿萬人あり。波蘭分割前は露西亞に於ける羅馬教會は定まれる組織を有せざりしが、一八一八年以後組織立ち、其王の命令にて確定せられたり。

露西亞は波蘭の分割に由て羅馬教徒を國內に入れしが、又バルト海地方と芬蘭を合はれたるに由りて、リトアニア教會の徒凡そ三百萬人を加へたり。此徒は全く教會政治に自由を得、其内地の大臣の管理の下に禮拜をなしつゝあり。然れ共國教會には尙も干渉することを許されず。此外レフォルムド教徒凡そ廿萬人あり。其半はリトアニアに住す。又凡そ六萬人のモラヴィアン教徒も有す。一八七六年頃にはメソヂスト教徒も一萬五千人ありしが、其後米國へ移住せし者多し。獨逸浸禮派宣教師も多少存す。プロテスタント教徒の總數は一八九七年には凡そ六百七十五萬人に上りたり。グレゴリウス派アルメニア教徒も一八二八年以後は露西亞の臣下となりしが、此派は凡そ七十萬人あり。

口 語

露 西 亞

露 西 亞

露 西 亞

さて國教會は第十世紀に起りたるものなるが、古傳説に従へば、福音を先づスクテア人に傳へたるは使徒アンタレナリと云ふ。然れ共歴史上何等の證據なし。九八八年ウラヂミール大侯は、其廷臣全體を多くの臣民と共にドニール河にて洗禮を受け、新に國教會を立て、久しくコンスタンチノール教長の下に屬せり。されど土耳其人がコンスタンチノール征服後（一四五三年）大侯テオドルはモスクワに一教長を立てんことをコンスタンチノール教長に請願せしに、承認ありしかば、同教長職は一五八八年に立ちたり。歴代の同教長中最も有名なりしはニコン（一六五二一五七）にして、此人は禮拜者の多くの點を改良せしが、大反對を受け、宗派分裂してスタロウエリ即ち舊信徒と稱する者出で、今日尙存せり（末項露西亞分離教徒の項を見）。
一七二一年ハテル大帝復た改革を行ひ、モスクワの教長職を廢し、之に代ふるに神聖教務院（Holy Synod）なるものを立て、教會の首長露西亞皇帝の最高機關となし、合議體となし、十二人の議員より成る。露西亞國教の教義、教規の純正を維持し、教會の事務を監督し、僧職の任命、賞罰、出版物の檢閲、婚姻及び離婚の裁判等の事を司る。モスクワに分院を置き、又地方には地方教務院を置き、地方の教務を掌らしむ。露西亞教會は六十四教區に分たれ、各區監督の支配の下に在り。監督に三級あり。第一級は大都會監督にしてキエウ、モスクワ、ハテルブルクの三所にあり。次は大監督にして、第三は監督なり。此等の外に代筆即ち選舉監督あり、此は副監督なり。以下の僧侶は自司祭即ち在家僧と、黒司祭即ち庵僧とに分たる。
信條は紀元三二五年のニカヤ會議信條に、三八一年

のコンスタンチノール會議信條を加へたるものなり。他の希臘教會諸派と同じく、露西亞教會は『イリコクエ』てを語を排し、聖靈は父よりのみ出で、父より出づるに非ざる論す。彼等は又三二五年より七八七年度の七世界會議の決議を真心に結ばれたるものとして受く。これプロテスタント教會との間に合ふべからざる離隔となれるものなり。彼等は七禮典を奧義と稱へて守れり。洗禮、懺悔、晩餐、告白、任職、結婚、病者濯育これなり。小兒生るれば僧は遺はされて母の身の上のために祈りをなし、小兒の名を命す。名は大抵其生日の洗禮日を命じさせる聖者の名なり。洗禮は大抵家の中にて行はれ、小兒は三回洗禮内の水に浸して洗禮を行はる。されど露西亞教會は水を注ぎかける洗禮の有効をも承認す。此點希臘の教會と異れり。誕生してより四十日間は母子共に教會に至り、母の深き小兒の受入を蒙る。濯育禮は羅馬教會の聖信禮と同じく、監督の聖別したる香油を以て僧侶の執行するものなり。通例洗禮後直ちに行はる。其僧は以上の香油を以て指定の言を唱へつゝ、小兒若くは大人改宗者の頭に注ぐなり。聖晩餐禮は東方教會にては聖聖式と稱せられ、種を入れし麵を水で洗じたる葡萄酒を用ひ、二元素を以て行ふ。僧は麵を酒を別々に受け、其他の陪餐者は金の匙を以て酒に浸したる聖別の麵を食く。大人陪餐者は立つて之を受け、小兒幼兒も之に與かる。露西亞にては聖晩餐は一年一回大齋の時復活節に最も近日に行はるゝを常とす。懺悔禮及全赦も行はるゝ。羅馬教會と同じ。されど懺悔は時として教會にて公にせらるゝことあり。他人に聽えされ共見ゆるなり。懺悔者は十誠に就て問はるゝ場合多し。露西亞教會は教職の三

級、即ち監督と長老と執事とを神定なりと認む。されど其外の大都會監督、大監督、長老、僧長、長、執事、長、副執事、副執事、執事、副執事等をも認む。教職任職式は監督のみ行ふ。結婚は最も壯重に行はれ珍奇なる式も多し。殊に新夫婦に戴冠するを最も重き事とす。冠は時として金又は銀にて造られ、其ために指定せられたる友人を冠す。冠は勝利と喜悅の記號なるを以て、此式は基督教徳義の勝利と新生活に入る喜悅を表明すなり。監督や庵僧は結婚を禁ぜらる。在家僧と執事は任職前ならば結婚を許さる。然れ共再婚は許されず。平人は夫婦の一方死にしなければ三回まで結婚を許さる。されど四婚は許されず。離婚は露西亞にては珍らしからず。病者濯育は羅馬教會の臨終抹油と異り、病氣回復の祈りと共に行はれ、儀式甚だ長く、正式に行へば七人の僧を要すれ共一人にても行ひ得ることとせらる。
ハテル大帝は始めて諸教區の首都に學校を立て、小兒等（特に僧侶の子等）に之にて教育を受けしめたり。其等の學校は此の百餘年間神聖教務院の支配に屬し來り、國中四學校區域あり。ハテルブルク、キエウ、モスクワ、カツァンこれなり。各區の上に教會アカデミーあり。各アカデミーは一人の司長、（庵長）一人のヒエロモナク（庵僧）二人の在家僧、諸教授より成る。大都會監督は之を管轄し、神聖教務院の決議に従ひて處理す。ハテルブルクのアカデミーは凡ての中心にして、神聖教務院の決議は之を經由して他校に達す。以上の諸アカデミーの下に監督區神學校あり、其下に多くの巡回區學校及び教會區學校あり。學生は初め教會區學校に入り、二年後學し、巡回區學校に進み、監督區學校に進み、アカデミー

口 語

露 西 亞

露 西 亞

露 西 亞

に進む。各三年又は四年を年限とす。
露西亞教會は其神學を聖書、東西教會分離前の師父文書、其後の東方教會師父文書より取る。平人も聖書を讀むことを許さる。露西亞教會の最も有名な神學者は、ハテル、モキラ（Peter Mogila 一六四三年正教告白を公にせり）、マム、セルニカワ（Adam Zaenikav 一六八二年『聖書の父よりの分出づる』に就て）を著はす）、テオファンチ、プロコホウイチ（Theophanes Prokopovich 一七二五年著作）、ロストフのデメトリウス（一七〇九）、ステフエン、ヤウオルスキー（Stephen Javorsky 同）、頃の人にして、希臘馬教に傾く）、ツドンスクのチョン（Tikhon of Zadonsk プロテスタントに好意ありし人）等なり。ムラウイエフ（Mouravief）プラト（Platon）フイラネ（Philane）ペ、マター（Abbe Guetée）大司祭、マサロフ（The arch-priest Masaroff）等の歴史及び教義書また讀むの價あり。露西亞分離教徒 總稱して『ラヌコルニク』（Raskolnik）と云はる。此名は露西亞語『ラヌコル』（裂ける）より來り、分離派離教者といふ如き意味なり。露西亞國教會より分離せる者なば皆此名を以て呼べり。聖書の希臘語より翻譯せられしは第九世紀中ヌラウ人の使徒クリロス（八六九年死）とメトディウス（八五五年死）との手に依り、俄式書は稍や後れて成りしが、翻譯者も譯者も知識缺乏したりしかば、ヌラウ人教會文書は誤謬多く、訂正を要したり。且第十七世紀までは教會の僧侶は教會區民の選舉にかゝり、人民は教會行政の上に勢力を有し居たるに、教長ニコン（一六五二一五八）知識すくなく、專制的傾向の人なりしかば、俄式書を訂正し、僧侶の任命及び教會行政の權を専ら監督の手に收めんと

し、此企は皇帝に助けられて成功せり。されど多くの僧侶及び教會區は此改正儀式書を承認し、監督及教長の上上權に服するを許せず、此に於て大分離起りたり。
『ラヌコルニクス』は主義よりも儀式に於て國教會と異り、自らヌタロウエリ（Sarovat）即ち舊信徒と稱し、新信徒即ちニコン派に對し、改正に依て修正せられし或點を神聖なりとて舊のまゝに維持せり。即ち舊禮拜式のみを用ひ、十字架を高く三本の指を以てせずして二本を以てし、ハレルヤを唱ふることを二回に止まり、聖晩餐に七の聖禮麵を用ひて五つを用ひず、八尖端ある十字架のみを用ひ、禮拜の間左より右に向き反りて右より左に向ふ。自己等の教會にのみ參詣し、教會外の者をば不浄者とし、耶穌をばイヌと稱すしてイヌと呼び、神の像を汚すの恐ありとて決して懸符を刺さず、煙草を用ひず、種痘を行はざるなり。此分離派は時の進むに従ひ諸派に分れ、其意見は大に融和を受け、今日にては或派は主義上露西亞教會と異ならず、或派はアルメニヤ教徒又は歐洲プロテスタントの最も進歩せる派と相似たり。
『ラヌコルニクス』に二種あり。一はボコウチ（Coptak）即ちボコ（師父又は僧）あるもの、他はハツキョウチ（Bekopovtzi）即ち一定のボコなきものなり。前者は舊信仰の特色を維持するものなれ共、其の多數は新信仰と自己等との間には教義上の差はなきものと信じ、國教會に對して友情あり。ボコウチ（Belosertak）即ち同情仰の者と呼ばる。アンキヤンドル二世は彼等に禮拜の自由を許したり。其舊き教會は開放せられ、新しき教會建築せられ、其派の大監督はモスクワに住めり。彼等は

僧政政治を承認し、自派の僧と監督とを有す。されど其一部は皇帝と教會とを狂妄的に否認し、之がために危險者視せらる。ドムナイ（Domnaie）の後の如きは其なり。ハツキョウチの方々は凡ての基督教徒皆祭司（司）なることを主張し、特別の僧職の不必要を唱へ、默示錄の二の六の某語は我等を神の前に玉とし祭司とせりといふを引きて之を證す。されど集會には何人も最も能く聖書を學びたる者一人を擧げて精神的教師となす。素より之には特別の權威もなく、按手禮を受くることをも要せず。彼等は以爲へらく、我等は『基督教の敵』の世に住めり。然れ共『基督教の敵』とは時代の不度なる精神を指し、『聖』とは現代社會、『生る』とは基督教義より迷ひ去ることを意味すと言ひ、今日權威となれる者は皆『基督教の敵』の臣僕なり。故に其等のために斬るは罪なり。教會は基督教の信徒には不必要なり。保羅曰く『汝等は神の殿にして神の靈汝等に住むを知らずや』（哥前三の十六）。基督教の敵のものなれば儀式も皆廢すべしと唱ふ。ハツキョウチの中には急進主義の派あり。或者は聖書の權威を認めず、自己等は唯上りの靈感に導かるものなるを信じ、聖なる儀を求めず、宗教會合を守らず。或者は靈にて印刷せられたる聖書を信ぜず、唯己等の心と良心とに置かれたる聖書を信ずるのみと唱ふ。ハツキョウチの各派中著名なるものは次の如し。
(一) フイロピン徒（Philippines） フイロピン、ブストツワイア（Philipp Fustovsk）の改宗者、此徒は洗禮晩餐の二禮のみを守り、皇帝へ忠誠を誓ふを拒み、皇帝のために斬らず、軍務に服するを許せず。
(二) ケモリアキ（Kemolians） 斬らぬ徒といふ意味にて、ハツキョウチの極端者なり。信條を三點

ロの部 露西亞

に約し、之を新約聖書の研究、精神的祈禱、清潔なる生活とす。開祖はヨハンのツィミン(Zimin)なり。彼等は言ふ、世界には四時代あり、創造よりモーセの時までは春即ち先祖の時代、モーセより基督の誕生までは夏即ち父等の時代、基督の誕生より一六六六年露西亞教會監督等がラスコリニクを實現せし時までは秋即ち子等の時代、其より今までは冬即ち聖靈の時代なり。又曰く我等の時代には外形の儀式は少しも要なし。

(三) ヴァツタイカンチ (Vozitkantsi) 敬忠者といふ意。此徒は唱ふる、舊約時代に於て父なる神の治世あり、新約時代に於て子なる神の治世あり。世界の創造より七千年日終りて聖靈の治世始まる。今日は眞の信するもの神の祈と歎息に依り聖靈に事へざるべからず。此徒は前の子ヨリアキは聖書を解釋して解釋し、自己等の見に當つ。其或者は神は祈らす必要なるものなれば精神的祈禱は要せずと唱ふるに至れり。

(四) ストラニキ (Stranike 旅行者) 又ハゲニ (Hagom 走者) 此徒は三日以上一所に留まらず。十字架を崇めず、之を單に木片なりと呼ぶ。曰く、神の教會に關する約束は皆既に成就せり。我等は未來世と新天地に住めるものなり。死者の復活は既に起りたり。吾、人が罪ある生活を去り、眞理と敬神との途を歩むべきは即ち其起りたる時なり。ハツボキツチの中には此徒が自ら舊信徒と云ふを非難し、舊信徒といふものは希伯來人のみ。我等は「精神的基督信徒」なりと唱ふる者あり。ツボホルチ (Dookhorai) モロカチー (Mokachi) オブスキ (Obachie) スンナイニ (Sundais) クリスチ (Khris) スコプチ (Skopy) 各派は此類に屬す。

露西亞

露西亞

(五) ツボキチ 是聖靈の存在、否靈物及び靈的生命の存在を否定する者にて、唱へて曰く、人格的の神は存在せず。神は敬虔なる人々の社會より以外の別の物に非ず。神は善人なりといふが彼等の格言なり。彼等は死後の生命を信せず、故に天國と地獄もなしと言ふ。聖書の權威をも否定し、生ける書物に依りて導かるるを信す。生ける書物は自己等の傳説の事なり。されど其等の傳説は自己等の説に都合よき聖書の句に外ならず。彼等は又以て爲らく、基督は今日の善人と同等なり。神は靈なれば拜する者も眞理を以てすべし(約四の廿四)は彼等の常に引く句にして、彼等は曰く、吾等の中に靈あり、故に我等は神なり、故に生ける善人を崇むべきなり。彼等は男女と小兒とを問はず互に相顧す。希臘教會の儀式をば無視し、且自己等は神の民にて此世のものにあらず、故に此世の權威の下に在らずとて、皇帝の權威を否定す。戰爭にも反對して軍役を避け、皇帝のために祈らず。

(六) モロカチー (食乳者) は自ら眞の精神的基督信徒と稱し、新約全書のみを信じて之を自己流に解釋す。曰く、水の洗禮は無効なり、眞生活と善行に依りて罪より清めらるるが眞のバプテスマなり。彼等は凡ての儀式、十字架を崇ぐこと、祈、神殿等に反對し、自ら凡ての國法より超脱自由なりとし、其理由として「主の靈の在る所には自由あり」(哥後三の十七)の句を取れり。

られし後にして、國家と教會の束縛より脱せんと思ふ、凡ての人聖書を自由に解釋するを得と唱へ、僧侶の階級政體は無効なり、十字架及び聖像を崇むるは無意味なり、七聖典の中にて洗禮と晚餐のみ保存すべきものなりと唱ふ。

(九) クリスチ (自盡者) 此徒は次のスコプチに分離教徒中人に輕蔑せらるる者なり。クリスチは教會の儀式を認めざりしも、自己流の多くの儀式を有す。彼等は遺世者にして結婚生活をば最大罪と視、人性を絶えず厭ひ、之がため宗教的公會にても私の所にも絶えず自ら鞭撻す。彼等は其徒の中に時として萬軍の主ヨハバが同行者の一人の身を取りて現はるる事、基督及びマリヤの應々其間に現はれし事を信じ、其徒の預言者及び女預言者に盲目的に服従す。彼等自ら鞭撻し水を盛れる盤を賜りて其興奮せる精神に依り基督又は聖靈を見たりと信す。

(十) スコプチ (肢體自斷者) クリスチ派の極端なる分派にて「若し汝の右の手汝を誘ふまば切り放して棄てよ云々」(太五の三十)を文字通りに行ふ徒なり。此等分離教徒は政府と教會を其傳播を抑へんとするに拘はらず、年々其數を加へ、露西亞人口の百分六に上り、内ハツボキチ九百萬、ギョウチ三百萬、精神的基督信徒二百萬、クリスチ及びスコプチ六萬五千人と數へらる。分離教徒は總じて國家及び教會より危険分子と認められ、愚昧に取り扱はれ、死刑、身體切斷、拷問、鞭撻、西伯利亞追放、其他の刑罰に自由は彼等に課せられ、第十八世紀には彼等の多數は西伯利亞森林中に墜れ、其發見せらるるや彼等は基督の敵たる皇帝の手にて種々の罰を受けんより、寧ろ英き殺さるることを優るゝたり。近年

ロの部 ローシャース

ローシャース

ロツク

の法律にてはハツボキチは寛容せられ、ハツボキチは多くの公權を奪はれ、クリスチとスコプチとは犯罪者として取り扱はれ、西伯利亞又は高加索に移さる。分離主義の傳播者は一年乃至六年の投獄を以て罰せらる。ツボホルチ、モロカチー、クリスチ、スコプチ、其他皇帝に納税せざる徒は最も危険なりとせられ、西伯利亞高加索にても正教會人民の間に住するを禁ぜらる。一八八三年六月皇帝の勅命に由り、ラスコリニク(分離徒)は或る公權を或る禮拜上の自由を許され、内務大臣は神學教務院の議長の同意を得て、ラスコリニクに新會堂又は祈禱所を開始、再興、改築することは勿論、新建することを許したり。かくて分離教徒は會堂又は私宅にて各自の式に従ひ禮拜をなすを得ることとなりしが、僧座を開く事、及び公の行列をなす事は禁ぜられ、會堂は正教會の形を取らざるべからず、鐘を外面につくべからずとせられ、正教會の徒に向つて分離教主義を傳ふることを嚴禁し、其等の教師には正教會僧侶等に與へたる特權を與へざることをせり。

ローシャース ジョームス キンチス Rogers, James Guinness 人名 一八二二 愛爾蘭會衆派の神學者。エニスキニンに生る。一八四六年よりニツカッスル、オン、ティン(四六五)アンストン、アングー、ライン(五一)六五)クラフナム(六五)等の教師に歴任し、一九〇〇年退職す。彼は禁酒及び労働者家内生活の如き社會改良事業に深き同情を有し、之がために努力せり。其著書には『基督教の基礎』(五)『基督教の眞理と義務の方面』(六)『第十九世紀の教會組織』(八)『現今の宗教及び神學』(八七)『世界のための基督』(九五)『基督教の理想』(九八)等あり。

ローシャース ヘンリー Rogers, Henry 人名 一八〇六—一八七七 英國の論議家。暫く獨立の教師たりしが、一八三九年倫敦ユニバーシティー、カレッジの英語及び文學の教授となり、次でスプリングヘッセル、カレッジの哲學教授となり、五八年博士オットマンの後を繼ぎてマンチエスターのランカシャー獨立學院校長となり、死する少し前に至る。彼は一八三九年より五〇年迄『エナンパラ評論』と關係し、其傑作を之に載せたり。小冊子運動の目的とする所に反對して殊に有名なり。『信仰の日蝕』一名宗教的懷疑者を訪ふ『無神論』(ニウマンに反對せる書)は其名を高からしめし著なり。其他多くの著書あり。

三七年ヘッドフォードシヤのホートン、コンケエムの司長となり、六六年ヘッドフォードの大執事となれり。『エンスアイクロペディア、メトロポリタナ』を編輯し、又其中より取りたるものに更に多くの點を附加して『二七〇〇年より一八五八年に至る基督教會歴史』を出し、又『新傳記字書』の第一巻を編輯し『スピーカーズ註解中の但し耳書を書けり。舊約聖書改譯會の會員なり。』

ロツク ジョーン Looker, John 人名 一六三二—一七〇四 英國の哲學者。ソーマーストシヤのリンケトンに生る。父は法作家にして地所をも有し、國會議員非國教徒の人なり。ロツクは幼時有名なるウエストミンスター學校にて教育せられ、一六五一年牛津のクライスト、チャルチ、カレッジに入り、學問に勉強し、殊に思案を要する學科に心を傾く。出でて一定の業に就かず、醫術に精しく、又政治及び哲學を研究す。六四年和蘭戰爭中に特使『サー』ウェーレンの書記としてアランダナルフに隨行し、六六年アムステルダムに於てシヤフツペリー船を知り、其顧問醫者となり、其後は牛津とシヤフツペリー船の處々に交々住みて、漸く種種の公職に任ぜられたり。性細心なりし、王黨に歸はれ牛津より除名せられ、和蘭に退きてアムステルダム及びワットレヒトに住み、ル、クレーアや醫士ニコロムやリムホルクやレモンストラン派と交はる。八八年の革命に依りて英國に歸るを得、七一年以來稿を『人間理會の論』(Essays on Human Understanding)を撰へ歸り、九〇年出版す。其より後に文學的活動をなし、ダブリンのウィリアム、モニーウツンと哲學問題に關する書信を交換す。モニーウツンはロツクを敬愛し、其説をダブリン大學に引き

ロの部

ロツク

ロツク

ロツク

入れ、之がため同大に於ては第十九世紀の前半まで其の盛なるを見たり。ロツクは又ウオルヘンスタットの監督スチルツングフリードと激しく論争す。監督はロツクの實體の観を以て三位一體の教義を無視するものとせしめ、ロツクは又宗教寛容論者若し、當時に稀なる程自由を唱へしが、無神論者及び天主教徒は寛容するを要せずと駁す。聖書に於ては深き所に信仰を有し、九五年には『聖書に引き出されたる基督教の合理的な論争』を出し、又加拉太書、哥林多書、羅馬書、以弗所書の平易譯註を出し、又『聖保羅自身に依て保羅書翰を解す』を出す。所説明白なれ共論争は偏理的なり。ロツクは健康の優れざる人なりしが、九一年よりは『サーフランシス及びメシヤム夫人(ラルフ、カッドウォルスの女)と共にオーストリアに住み、死する前日メシヤム夫人に向ひ、己の復た起つべからざることを語り、其幸福なる生涯を過せしことを神に謝したりしが、而も此世の事凡て空なりしを思ひ、夫人に向ひて、此世は未來の善き生活のための準備なりと考ふべきを勧め、臨終の時夫人は聖書を讀みしに、彼は之を止め、數分にして息絶えたり。年七十三。』

『理會論』にてロツクは觀念(Idea)を定義して、人が思考する時其理會の對象たるものは皆それなりと言ひしが、然し外形的事物をば除外せり。彼は又觀念は感情(Generation)及び反省(Reflection)の二の窓口を通して經驗より來ると言へり。同書は四篇より成り、第一篇にては先天的觀念てふもの無きことを論じ、第二篇にては人の觀念は悉く感情及び反省に依て供給せらるる材料より出で來るものなることを論じ、其中に心意の有する諸作用を説き、觀念に單純觀念と複雑觀念とありと、時間空間の

觀念の如きは直ちに觀念せらるべき單純觀念なり、複式、實體、關係の觀念の如きは複雑觀念なりと言ひ、實體は不可知の物として存在すと言へり。無限(Infinity)の觀念も前の二源より來るものにて、唯だ消極的のもの。善の觀念は神の應報の法律と伴ふ快樂苦痛の感情より來るとせり。第三篇にては觀念と言語の關係を論じ、言語が眞意を誤るを説き、第四篇にては認識を論じ、認識は物と我等の觀念との一致(Gegenstand)に於て成立すと言ひ、論理上唯心論に走れり。同篇にては又直覺、信仰、理性等をも論ぜり。此書は平易の文體言語を用ひしは、中世の煩瑣哲學の分類と第十七世紀思辨の議論との間に挟まれたる社會は非常に之を歡迎し、英國、愛蘭、佛蘭西、米國の哲學界は其後多少蘇國哲學者に依て改易せられたる所ありと云へ、此觀に服して第十九世紀の二三十年頃までに至りたる有様なり。然れ共彼の後直ちに佛蘭西にてウオルテア此觀を唱へ、更にコンテイラー之を唱へて、觀念は唯だ感情の源より來る、反省は一の感情なりと言ひ、佛蘭西及び獨逸にてロツクを感情派なりとせしむるは、ロツクの思ひも寄らざる所にして又甚だ厭ひし所なるべし。更に又英國にてパークレーが彼の觀を他の方向に推し詰め、觀念の外には何物も存在せずと論ぜしは、ロツク哲學の論理の趨く所避け難き階級なりと言へ、又ロツクの意に非ず。彼は確かに實在論者たりしなり。リード及び蘇國派は寧ろ彼の觀を正しく敷衍せる者と謂ふべし。彼の哲學はカント及び其派よりヒュムの懷疑説と同じ出發點より立論せり、觀念の外に物なしと言ふ時は、之を推し詰めてヒュムの印象及び映象にまで約し得べしとて攻撃せらる。道徳善を以て神の應報の法律に伴ふ快樂

樂苦痛の感情より來るとせる觀は又有苦樂を學問として非難せられ、殊に其友人たりしシャフツァーの孫なる第三代シャフツァーは直覺論を唱へてロツクの觀を非難し、カントも形式觀を唱へて之を攻撃せり。彼の傳及び哲學に就ては、彼の著書の外シェーレルの『ウオル、ロツク』、ケーザンの『ロツクの哲學』、フックス、ガウレンの『ロツク』、フワッセルの『ロツク』、フリーザルの『ロツク』及び『近代思想の要義』としてのウオル、ロツク』、ハントリックの『ウオル、ロツク及び獨逸學派』、マルナツクの『ウオル、ロツクの論理學』等を見よ。

ロツク オリヅヅル シェン Lodges, Sir Oliver Joseph **人名** 一八五一英國の理學者。メタフゾラドシヤのケンタウラに生る。倫敦大學にて學び、一八七七年理學博士號を得。八一年新設イザアール大學の理學教授となり、一九〇〇年バーミンガム大學の理學教授となり、八年王立學會にてラムフォード賞牌を與へられ、〇二年叙爵せらる。其専門は電氣學にして此方面に關する論文及び著書尠からず。彼は又精神的現象の研究にも深き興味を有し、時々宗教に關する論文及び著書を公にす。『物質と生命』、『理性と信仰』は其最も名著なり也。

ロの部

ロツク

ローテ

ロト

の汎理的唯心論が其頂點を過ぎて、フアグト、ミルショット、ビヒテル等科學者の唯物論が漸く勢を得つゝある時なりき。有神論者にはカール、フイッブ、フイツシユルや小フイヒテヤ、ウアイゼやウリナ等ありて、ヘーゲル觀を批評し、殊に新シェリンが觀をヘルバルトの堅固なる實在論と並び起りて後は、此等の批評幾分の勢力を有したりき。ロツクは一方にヘーゲルの汎神論を攻撃し、他方に唯物論を攻撃して立ち、ウアイゼの如きは之に同情を寄せたりき。ロツクは自然科學の全面を研究し、判斷均衡を得、批評銳利にして如何なる科學者も企及せむ力を有せしが、此力を以て唯物論の道理の缺陷せるを痛論し、如何なる哲學者も企及せむ明白なる觀念を以て心力及び知識の限界を言明せり。神の存在の直接證明は學からぬものから、彼は難進に己が信仰を告白し、神は宇宙の生ける中心にして、其生ける作用に依て絶えず有形無形、物と心の諸現象を生ずと言ひ、此宇宙を計劃な、大目的即ち絕對に善にして合理的なる所のものを行はんとする道徳的目的なき宇宙を見るは不理の甚だしきものなり、然れ共我等は神自身の性質を知らず、又此物と心の兩界が如何にして同一根源より出でしか、此兩界の真相異點は那點に在るか、生命と離すべからざるもの、如く道徳善と苦痛との此世界に存するは何故なるか、を知らざるなりと言へり。彼の宇宙觀は全體として道徳的なり。彼の考にては道徳主義は凡ての形而上學にも出發點とすべきものにて、基督教の優勝點は實に之を充分に知識せる所にありとせり。著書は『形而上學』(一八四一年)『機械的自然科學としての一般病理學及び治法學』(四二)『論理學』(四三)『藝術に於ける美の觀念』(四六)『藝術美の條件』(四七)『肉的生命

の一般哲學』(五一)『醫的心理學』(五二)『ミクログノモス』(三册)『五六一六四』『獨逸美學史』(六八)等なり。上記ロツク著作の外、ウォーレンスの『自然科學講演及討論文』(九八)、『ウォーレンスの』ロツクの哲學』(九五)、『ハルトマンの』ロツクの哲學』(八八)、『ウオルプロットの』ロツクの倫理及び宗教哲學の原理等を見よ。

ローテ リカルド Rohde, Richard **人名** 一七九九—一八六七 獨逸の神學者。ギーセンに生れ、ブレンスラウにて教育を受けしが、同市はナポレオン反對の牙醫なりしかば、普蘭士氣質を厭へる彼は一八一七年ハイデルベルヒにて神學研究を始め、一九年伯林に行く。されどシェウイエルマツヘルもチアテンベルも彼に充分の印象を與へざりき。彼はコトウイツ男爵を介して敬虔派の交渉團に入り、深く之に感化せられ、一八二〇年より二二年ウイツテンベルヒに在りて業を卒へし時まで其心は此感化に依て支配せられたりき。彼は又トールツクとも親交を結びぬ。二三年羅馬駐劄普蘭士大使附教師に任ぜられ、同地にてシェウアエ、ド、ヒュンゼンと親み、其精爽かりし敬虔派的思想は擴げられ、自己の思辨の才の發揮を見るに至れり。二八年神學校主事としてウイツテンベルヒに歸り、斯に教會史を講義せしが、三十八歳の時始めて獨創的傑作『羅馬書五章十二節より二十一節迄の註解』を公にす。三九年ハイデルベルヒの神學教授に擧げられ、四九年より五四年迄ボン大學にて講義せし外は、終生此所に於て教授せり。彼はハイデルベルヒにてはパーテンの教會の稍混雜せる事情に關して活動的態度を取り、時として断乎たる行動もし、教授として又著者として勢力著しくもありしが、而も概して平

靜退隱の生活を送り、個人的には清潔單純節制を以て顯はれ、凡ての方面に調和せる性格を發揮したり。著作に於ては凡ての事均衡し、如何なる基督教思想も生活も其立つる點の中に取り入れて洩るゝものなく、一として黨派問題とせしものなし。基督教會の起源及び其組織』(三七)及び『神學的倫理』(四五—四八)三册は其二大著にして互ひに相補ふものなり。前者は教會は其教育目標に達すれば、宗教を以て人間行為の每維に徹底せしむるために、全然國家に併呑せらるべき性質のものなりといふ事を説き、後者は宗教と道徳とは全く同一のものなり、故に基督教を人は人間行為となりて出づるに非ざれば實現せられず、人間の行為は基督教の光に依りて内面より照らさるゝに非ざれば、眞實に道徳的行為に非ざると論ぜり。所論時として大膽なる所あり、幼稚なる所あれ共、一體に基督教の諸道と愛とに充てり。彼は基督を單純に信じ、基督を以て人道の至善なるもの、歴史の日の出とし、自己の思辨は此信仰を唯一の基礎として立つるなりと言へり。『倫理學』は獨逸思辨的神學に於てシェウアエ、ド、ヒュンゼン、ド、ヒュンゼンに次ぐ最大作なり。之に次いで『ツール、ド、アマチク』(六三)あり。尚シケンケルが彼の遺稿より編纂したる『ド、アマチク』あり、説教集も存す。

ロト Lot. **人名** アブラハムの兄弟ハラムの子にして、アブラハムの甥(前十一)の廿七、廿一。其歴史は創十一—十四章及び十九章に記さる。其明確なる物語はエホバ典に屬し十四章を除き、祭司典は單に要略を示せるのみ。ロトの父ハラムはアブラハムがカナンに移住せざる前にカルデアのウールにて死し、アブラハムはハラムを去りし時ロトを伴へり。ロトはアブラハムがシケムに住み、後ケム

ロの部

ロト

ロード

ロバートソン

ロトはアライムの間に住み、又子グア河を渡りて旅せし時アラハムと共に在りし。こゝに於て疑なく、アラハムが埃及に往きし時は之に伴ひしや不明ならざれ共、再びアライムの間に往きし時はアラハムと共に在りし。此處にてアラハムはロトの牛を養殖し、水草乏しくなりしかば彼等の牧者の間に争起り。於此アラハム、ロトに向ひて「我等は兄弟の人なれば、請ふ我を汝の間及び我牧者汝の牧者の間に争あらしむる勿れ、地は汝の前に在るに非ずや、請ふ我を離れ、汝も左に往かば我右に往かん、又汝右に往かば我左に往かん」と言へり。ロトはヨルダンの低地の豊饒なるを見て、之を悉く撰取りて東に移り、斯くして彼等互に別れたり(十三の「一十三」)。ロト既にソドムの地に住みしに、此時エラムの王クダラオメルを首として東の王等ソドムの王、モモラの王等と戦ひて之に勝ち、ソドム、モモラの凡ての物を掠奪し、ロトをも擄りて去れり。アラハムは時にヘブロンに在りしが、之を開て來り受け、夜に乘り駝を追ふてホバに至り、ロト及び其物を取り返し、之をソドムに歸らしめたり(十四の「一十四」)。ロトに關し次に記されたるは創十九章に掲げられたる有名物語にして、二人の天使彼に來り、ソドム、モモラの罪甚だしきに由り彼等之を滅ぼさんとして來りければ、婿子女及び凡て色に居りて彼に屬する者も此處より携へ出づべしと告ぐ。ロト出でて其女を娶る婿等之を告げたる共、彼等之を戲しなして信ぜず。曉に及び天使ロトを促して「起りて此なる汝の妻と二人の女を携へ、恐らくは汝色の惡と共滅ぼさん」と言ふ。然るに彼等踏踏せしかば、天使彼等の手を取りて之を導き出し、邑の外に置き「逃れて汝の生命を救へ、後な

顧る勿れ、低地に止まる勿れ、山に通れ」と言へり。ロト乃ち逃れてアラルに至りし時天より硫黄と火とをソドムとモモラの地に雨らし、低地に在る居民と生物とを悉く滅ぼしたり。ロトの妻は後を顧みれば鹽の柱となりぬ。ロトはアラルも亦均しく運命に達はんことを恐れ、其二人の女と共にアラルを出でて山に上り巖穴に住めり。斯くてロトは其二人の女に依りて二人の子を生みしが、是れモアブ人及びアンモン人の先祖也。以色列人モアブ人及びアンモン人は其間陸じからざりしかば、斯る物が生じたりなるべく、史實に非ずと思惟せらる。ロトの性格はアラハムと好對照をなす。彼は私心強く世俗的にして、伯父のこゝよりも自己の事を考へ、先づ豊饒の地を撰みしかば、遂に災禍に達へり。然れ共彼は當時に在りては比較的貧むべき處少かりしかば、災禍より救はるべきを得たりき。

ロト

ウィリアム Land, William

人名 一五七三—一六四四 カンタベリーの大監督、チャールズ一世の首相。ベルグスのリディングに生る。父は機業主にして相當の資産を有し、母又同業者の女。母の兄弟には倫敦市長勳爵士ウエップあり。清教徒にして彼に殺されたるウィリアム、プリンを始め彼の敵は、其業性を惡しとせまに言ひ傳ふれ共、實は誣妄にして、彼が痛く之を傷めて難癒したる事其國從者ヘイリン著の傳記に見ゆ。幼にして郷里の語學校にて嚴格なる教育を受け、其時代より名を馳せられ、十六歳にして牛津聖ジョンズ、カレッジに入り、九年卒業九四年フエローとなる。學校時代より能力と其自信とを以て著はれ、教會の困難なる事情を處理するに長ずるの才を現はしぬ。其頃牛津は清教徒の首領にして、マクダレン

ン校長ローレンス、ハムフレイ其申帳たり。然れどもロードの性質は剛直にして漫に人後を追ふて走るが如き者に非ざりしかば、自ら師父及び初代教會監督等の解釋に従て聖書を見、早くも高教會主義を取り法王政治に傾きたりき。一六〇二年ローチネスターの監督ヨングより按手禮を受け、教會を時代の弊隘不分明なる主義より救ひて古精神を復活せしむべき人物なりと望まれしが、尙任職せられては他の理由にて事毎に大學の有権者と衝突し、殊に〇六年聖マリア教會に於ける説教に依て其甚だしきを示せり。此時に於てはロードには友もなく勢力もなかりき。後王室教師とせられしが、尙王と已れとの間には尙長あり、カンタベリー大監督ありて未だ何等の力を現はすこと能はざりき。然るに四十三歳に及びて宮廷の注意は彼の身に向ひ、其より後は地位と名譽は諸方面より其身に群り落ちて、宗教家の歴史に未曾有の昇進をなせり。大學の方に於ては一六一一年聖ジョンズの総理、二八年大學長官となり、三六年には其資格を以て王及び妃を招宴す。教會の方には數多の有給職名を與へられ、一六一六年グロウセスター「テイーン」、二二年聖デビッド教會監督、二六年バス及びウエルズ監督、二六年チャール、ローヤルの「テイーン」、二八年倫敦監督、三三年ウエストミンスター「テイーン」、カンタベリー大監督、英國教會總取締に任ぜり。政治家として亦勢力ありて、二七年の樞密議官より始まりて種々の官職を得、二八年首相バツキンガム侯が刺客フェルトンに手に付るよ其後任ぜられ、ウールセー没落後宗教家に例なき昇進をなせり。斯くて彼は樞勢大臣の極に達しぬ。業より野心に充ちたる人なりしも、彼は決して一個の私福を謀り

ロの部

ロード

ロバートソン

ロバートソン

家の榮華を求むるの心なく、其所得は教會及び大學のために投じ、重に宗教及び學問の發達の爲めに費し、死しきには比較的貧しかりき。其企てたる事には聖ジョンズ、カレッジの新築、倫敦聖保羅教會の修繕、海峽監督の加増、貧教師の收入増加、倫敦及び牛津に希臘語印刷所の設立、牛津に亞刺比亞語講義の設立等ありて之を實行せしが、殊に其大目的とせし所は、英國教會を全體上より純粋なる原初風の教義及び儀式に作り變へんことと在り。其原初風とは如何なる者か。ロードは後に審問せられし際決して羅馬教會の迷信主義を引き入れんとするに非ずと誓言せしが、彼の心は誠實に然りしならんも、而も彼の主義は法王權を否定し羅馬教會の名を厭ふに拘はらず、若し實行せられれば羅馬主義たりしや明なり。其聖禮典儀式に關する意見等之を離す。彼は凡ての羅馬主義者の如く教義及び戒規の一致統一を謀り、之がために清教徒はじめ凡ての分離教徒を壓迫せり。レイトン、プリン、ホストウィック、ホルトン等の有名なる事件を始め、其他分離派を苦めし事件百を以て數ふ。或は海外に去て其心の自由を求め、或は自暴自棄して肉の快樂を求むるに至れるものも夥しかりき。彼のために辯護するものもあれど、分離派の處分を議決せし星の國會議、高等委員會議にてはロード常に主眼たりしこと確かなりき。若しロードの理想を全く實現したらんには、議會は恐ろ英國の自由さへも頗る危ふき者たりしなり。是れ畢竟ロードが志餘りありて實際の處理の才に長ざりしより起る。彼の夢は到底實現すべからざる者なりしなり。殊に蘇格蘭をまで統一主義の中に整理せんことしたるは失體の最大なるものなり。蘇蘭に一六三六年の教會法と三七年の式

文とを強ひんとせしは、服を挑みしに外ならず。蘇蘭人は其長老主義を打破せられ、又其國民裁判廷を無視せられて、之に服従せん者なし。終に全土の奮起となり、三八年國民契約は結ばれ、彼等は長老主義擁護のために同心戮力するに至れり。斯る内に四〇年長期議會は開かれ、王及び高僧に反對の氣憤は益々熱し、長老派は議會内に數を増し、四三年には却て蘇蘭人の立てたる契約を英國にても採用するに至り、蘇蘭人はロードの忠告を求めて四五年一月十日途に之を果せり。最後の有様はロードの自叙の『離職と審問』及び其出版者ホルトンの添えたる附録に詳なり。最後の言に曰く「我は英國教會に生れ、其法律にて育てられ、今死なん」とす。斯く國教會への忠信を言ひ表はし、首を斬頭機に入れて後には「主よ我を助け給へ」と言ひ、一打の下に斬られり。遺骸は塔獄の傍に葬られしが、生前の願ありしごとく王廟回復後牛津聖ジョンズ、カンツナ内へ改葬せり。ロードは驕矜小にして容貌冷峻、性質燥急の人なりき。其秘密私用のために作りありし『日誌』及び『私の禮拜』によりて見れば、其精神は敬虔の人なりしなり。其著作は上に記せるもの外『イエスイト徒フィシャル』の會談式文に關するメモ卿及びシールの演説に答ふ『公の場合になしたる七説教』等あり。

ロバートソン

ジェームズ クレーギー Robertson, James Craigie

人名 一八一三—一八三四年 英國教會の神學者。アムステルダムに生れ、一八三四年劍橋トリニティー、カレッジを卒業し、四六年ベツケンホルンの司牧たり、五九年カンタベリー「カンオン」に任ぜらる。六四年より七四年迄倫敦キングス、カレッジの教會史學教授た

り。其歴史の著書は價多し。『如何にして英國教會式文に合ふべきか』『宗教改革迄の教會史』四冊『教會史學』トマス、マクドナルド著法王權發達論著宗教改革史』二冊、其他多量の著書あり。

ロバートソン フレデリック ウィリアム Robertson, Frederick William

人名 一八一六—一八五三 英國の説教者。倫敦に生る。近衛砲兵大尉フレデリック、ロバートソンの長子にして、初め四年間は父の教育を受けしが、一八二九年一家佛蘭ツアに移るに及び、彼も之に伴ひて同所に往き、家庭教師より古典學を學び、且一佛蘭西神學校に出席したり。三〇年の革命に由り父は英國に歸り、彼はモゲンバラ中學校に入れられ、ジョン、ウィリアムスの下に學ぶ。後間もなく大學に進み、多くの級に出席し、十八歳の時多くの知識に充ちて家に歸り、一時辯護士事務所に入りしも、健康を害し、軍隊に入らんことせしに、偶々一人より教職に入るべきを切に勧められ、父も亦之を賛成せしむれば、遂に志を決して教職に入ることとなし、三七年五月四日試験を受けて牛津大學に入る。五日を経て第二龍隊入隊の辭令來りしも、既に教職に入らんこと決心せし事とて之を辭せり。されど軍隊に對する趣味は終身滅せず、其性格も亦軍人的豪氣に充ちたりき。此時彼れ廿一歳。牛津にては十字架の旗を持ちて恐を知らず、基督を恥ぢぬものと言はれ、彼自らは同大學ユニオンに討論會に非常に興味を有したりき。當時牛津にはニウマンの『小冊子運動』あり、ロバートソンも加入を勧められたれ共、遂に之に入らず。彼は熱心に聖書を研究し、又アラトソン、アリス、トテレス、バットレル、シェレー、コルツツヤ等を研究せしが、最も深く彼を感化したりしはアラト

ロバートソン

ロバートソン

ロバートソン

ロバートソン

ーン。アノルド及びウカウカスナリキ。四〇年七月ウインチェスター監督より按手禮を受け、其司牧となり、初めより熱心敬虔を以て牧會に従ひ、嚴肅なる生活を送りしが、之に由て病を得、休養のため大陸に行き、暫らくシエネヴァに留まりたりしが、此處にてシロルジ、ウィリアム、テニーヌの女と相知るに至りて遂に結婚し、歸りてチエルトンハムに行き、四二年同地の司牧せられた、五年間位會し、再び大陸に行き、テイロル邊にて精神上の危機に遭遇せしめ之を通過し、其より國教會中にて福音主義の人とせられしが、此時廣教會主義に傾りしを以てチエルトンハムの教會を辭し、四七年の初め牛津エツプス教會の牧師となり、同年八月ブライトン三一教會の聘に應じ其牧師となりしが、此に七年間牧會し、三十七歳の壯齡を以て死せり。ブライトンにて才智ある人々其教會に群集し來りしが、彼は此等の人々に説教せしと共に、労働者のた



フレイテラ クロバロ ルソ

めにも力を盡し、彼等のために一の會を起し、又彼等のために講演をなせり。彼は生時に於て説教者として既に人に知られたりしが、其實に世に解せられしは其死後に於てなりき。其教會の年月短かりしを以て、人々は紀念となるべきものを求め説教集を出せり。彼は元來草稿に依りて説教せしことなりしも、

書は忽ち多くの版を重ね、其より更に他の説教演説註解等を集めて第二第三第四集出で、更に「哥林多前書講義」と文學的社會的問題の講演及び演説「出で、一八八一年に至りても「人類及び其他の説教」出でたり。彼は古代の人物に關する説教に最も妙を得しが、經驗に關する説教又其だ好く、實際的のものも亦可なり。唯教義的議論は稍や偏りて充分ならざる所あり。然れ共思想の深遠にして、精神の權溢せる近代の説教家中彼に及ぶもの少し。其言論も亦教訓多し。總じてロバートソン紀念の書は凡ての人に益を與ふるに多く、殊に教職に在るものには倍多し。ロバートソンは生存中屢々自己が何を爲し居らざる如く感じて絶望に陥らんせしが、死して其力を増したり。説教集、講演集の外アルトク「ロバートソンの傳及び奇蹟」を見よ。

ロバートソン **エドワード** Robinson, Edward, D.D., LL.D. **人名** 一七九四—一八六三 米國の聖書學者。コンチネンタル州サウサンプトンに生る。一八一六年福音州クリントンに於て法律を修め、一七七年クリントンに歸りて教學及び希臘語助教授となりしが、一年にして辭し、二二年秋アンドーヴァルに行きて自己の編纂せるイリアドを公にし、同地にて教授モセス、メテアアルトの感化を受けて聖書學者として立つに至り。二三年より二六年迄アンドーヴァル神學校にて希伯來語及び文學の教授たり、同時に文學的活動に忙し、メテアアルトの希伯來文典二版の出版を助け、又同教授の「ウィーチル新約聖書希臘語文法」の翻譯をも助け、自己は「ウィーチル」の Clavis philologiae Novi Testamenti を翻譯せり。二六年歐洲に行きマンチンゲン、

ロバートソン

ロバートソン

ロバートソン

羅馬

ハルン、伯林にて修學し、ゲテシウス、トールック、レディゲル、チアンデル、リッテル等に知られ、其才を釋せらる。二八年ハルンの哲學政治學教授エール、アー、フォン、ヤコブの女とレセ、アルベルチ子、レイゼと結婚す。非常の英才女子にして既に「タルウィ」の匿名にて名高りき。ロバートソンは三〇年歸國し、同年よりアンドーヴァル神學校の聖書文學特別教授兼圖書長たり。三一年「ビブリカル、レボジトリ」を創刊す。此は五年に至り「ビブリカル、レボジトリ」を合併せり。彼は之に多くの文章を寄せり。三二年「テロル」のカルメット「聖書字典」と小「聖書字典」をブトマンの「希臘文法」を出版す。多勞のため健康を害し、三三年教授を辭してボストンに移り、尙研究を止めず、翌年ニッカムの「福音書」の希臘語の一致の改訂版を出し、三六年「福音書」の「希伯來語字典」を出版し、又自己の「希臘語及び英語新約聖書」を出す。三七年福音の長老派一致神學校に招かれ、先づ數年間聖地地理の自費探検研究を許さるべきを條件として之に應ず。許を得て三七年七月出發し、亞利比亞の學者にして又スリアに於けるアメリカンホド宣教師たる博士エリ、スミスと伴ひ、パレスチナとエジプトの要所を隈なく探検し、三八年十月伯林に歸り、同市にて二年間「パレスチナ、シナイ及び亞利比亞」のトリアに於ける聖書の探検」を著す。此書は倫敦及びボストンより同時に出版せられ、其獨逸譯も夫人の訂正を加へてハルンにて教授レディゲルより出版せられ、地理學者として聖書學者として大名を博し、四二年倫敦王立地理協會よりペトロン金牌を與へられ、ハルン大學より神學博士號を與へられ、エール大學よりは四四年法學博士號を與へられたり。五二年彼は再び

聖地を訪ひ、其結果をも公にし「其後の聖書の探検」を出せり。彼の心にては此は單に準備にして、據りて探検結果の完全なる書物を出さん計劃なりしも、健康は之を許さず、不治の眼病のため六二年終に筆を擱つに至り。死後其計劃の一部たりし「聖地の形狀地理」英語にて出で、夫人之を翻譯せり。四五年彼は「福音書の希臘語の一致」を著し、四六年同じく「英語の一致」を著し、又講義をなすなどの事なせり。六二年五月第五回の聖地旅行をなし、多くの舊友にも會ひしが、眼は回復するの望なく、十一月歸國し、暫く講義せしが、クリスマス休日に至りて之を止めざるを得ざるに至り、暫く病みし後翌年一月二十七日死去せり。ロバートソンは形貌頗る丈夫にして性質快活の人なりき。僧院的物辭等に對しては非常に疑ひ深かりしも、神の啓示には敬虔深く、外面は冷にして内部は温に同情に富みり。米國の前後の聖書學者中の第一の人なり。聖地を學問的に探検するの刺激は實に彼の先づ與へたるものなり。

赴き、同地にて「參拜者父老」と稱しつゝありし一團に歡迎せられ、其牧師に選ばれたり。此團は政治意見のため分れて二教會となり、其スミスは首とせし一派は追害に逐はれて〇六年アムステルダムに移り、殘りの者はスケルビーにて組織を堅固にし、アムステルダムの家にて普通の會合を開けり。されど追害續きて此も〇七年と〇八年に和蘭に行き、暫くアムステルダムに住みしが、〇九年二月ロバートソン及び其徒一百人程はライオン市長の許を得て同市に住せり。一年一建物を買ひて之を擴張し、其本部に用ひ、ロバートソンは之に住し、一五年には彼は同地大學の一員となり、エヒスホッピウスとアルミニウス就て極めて高尚なる討論をなし、人々の尊敬を博せり。教會は其指導の下に員數を増せしが、然も尙寄寓者に外ならざりければ一同は安固なる第二の故郷地を求め、終に米國へこそ決心し、ブライワステルを先頭團の首と定め、ロバートソンは時を見て殘りの人々と共に其後を逐はんことを欲せしが、其機會を生存中に見る能はざりき。二〇年互に別を惜みたる後先頭團は出發せしが、ロバートソンは二五ギライテンにて死し、聖彼得教會に葬られたり。

羅馬 Rome. **地名** 羅馬は世界の都市中人類文明の歴史と最も密接の關係を有し、殊に基督教會歴史の中心なりき。第三世紀より第十六世紀に至る迄の間には東方教會の分離あり、又四教會の中に多少の反對ありしに拘はらず、羅馬は實に基督教會の依りて回轉する樞軸なりき。宗教改革起るに及び羅馬の權力は多少減殺せられたれ共、尙基督教會大部分の本山として今日に至り。斯く羅馬が基督教會に重要な地位を占むる所以のものは、法王の此處に住するがためにして、羅馬は法王の馬

口部

羅馬

氣を其機略に依りて屢々蠻人の手より救はれたりし結果として、單に法王の住居たりしのみならず、又其所有となりたり。而して法王の權力は漸次發達し、羅馬帝國が其神聖、王宮、劇場及び浴場等と共に滅亡するや、法王の羅馬は其教會及び寺院と共に建設せられたり。後法王は一時アヴィニオンに其居を移すに及び、羅馬は維新繁榮し盜賊横行する處となり、後法王の再び羅馬に歸るに及びて、尙舊時の状態に復するに能はざりしが、間もなく文藝復興の世となり、羅馬は又文化の中心となりたり。斯くて宗教改革起り、法王の脚の輕重を問ふもの各所に起りたりしに雖も、羅馬は尙羅馬教の本山として其勢力を維持したり。然るに一八七〇年普魯士軍に對し、久しく法王の後援をなしたりし佛軍以大利を去るに及び、ツイクトル、エマヌエルは機乘すべしとなして、兵を羅馬に進め、翌年七月以大利を統一し、羅馬を以て政治上の首都となしたり。然れ共エマヌエルは尙羅馬教を信する列國の怒を恐れ、一方に於て法王の實權を剝奪するに共、他方に於ては形式上法王を尊崇し、其神聖不可侵の特權を承認するの必要を認め、所謂擔保法なる者を公布し、法王のグアチカーニに住して君主と同様な待遇を授け、法王の特權を承認し、三百廿二萬五千元の年金を國庫より支給することとなり。法王は初め之に向て抗議したれ共其效なく、遂に之に服従することとなり、斯くて羅馬は以太利政治上の中心となり、大に面目を變化するに至れり。然れ共羅馬は尙依然として羅馬教の中心なり。三百六十有餘の教會は雲霧を摩して此處彼處に聳へ、高きに登りて之を望む人をして懷舊の念に堪えず、自ら南朝四百八十寺、多少樓臺煙雨中の感を催さしむ。其中

羅馬加特力教會

も著名なるは聖彼得大會堂にして、是れ實に羅馬教の大本山也(其條を見よ)。聖約翰ラテラン教會はもラテラン宮殿の在りし處に立ち、五回の世界會議の開かれたる處として名高し(ラテラン會議)の條参照。聖マリア、ロンドナ大會堂(St. Martin)は紀元前二七年マルカス、アグリッパの建設に係り、もミニヒテルに賦けたる者なりしが、後諸神の像を納むる處となり、蠻人の侵襲に遂ひて一たび廢頽に歸せしが、六〇八年ホニファキウス四世之を回復して基督教會となし、マリア及び聖徒に賦け、此名を得るに至れり。聖保羅教會は市外オスチアに在り。オスチアは保羅殉教の地として傳へらるる處也。羅馬最古の教會にして最も壯大なるものなりしが、一八二三年火災に罹り、今の會堂は新築に係り、其壯大なること以前のものに譲らず。聖マリア、マッギョル教會はエスキリオン丘上に在り、法王レオニウス(三五二—三六六)の建立に係る、毎年八月十五日法王は此處に來りてマリア昇天祭を行ふ。聖ロレンチウス大會堂はチルチン街の門外に在り、コンスタンチヌス大帝の建立する所也。モンテリオ聖彼得教會はトラステヴェル河岸に在り、西班牙のフェルナンド及びイサベラの建立する所にして、傳説は之を以て彼得殉教の地となせり。其他一々數へ難し(基督教時代に於ける羅馬の状態に就ては「新約聖書の時代」の條、彼得、保羅と羅馬との關係に就ては「マテロ」の條を見よ)。

羅馬加特力教會 Roman Catholic Church

宗派名 全名稱は神聖公同使徒的羅馬教會(Holy Catholic, Apostolic and Roman Church)なれ共、通常羅馬加特力教會と稱し、又略して羅馬教會又は加特力教會と稱し、又天主教、拉丁教會、

羅馬加特力教會

西教會等の名あり。拉丁教會は希臘教會に對する名、西教會は希臘教會を東教會と稱するより之に對する名、天主教會は「Crisma」を音譯して天主となせしより來りたる名にして、支那及び日本にて唱ふる名也。又我國にてはプロテスタント教を新教と稱するに對し、羅馬教を舊教ともいふ。此教會は基督教及プロテスタント教會と並立する基督教三大教派の一にして、其最も大なるもの也。此教會自らの稱する所に依れば、世界に於ける唯一の教會也。ペテロの定議する所に依れば、基督の教會は第一に眞信仰を告白する者、第二に眞禮典に與する者、第三に教會の首長たる羅馬法王の支配に屬するもの也。斯くて此教會は第一の標準に照して猶太教徒異教徒及び回教徒を除き、第二の標準に照して求道者及破門者を除外し、第三の標準に照して離教者(希臘教徒)を除き、プロテスタント教徒をも異端者、離教者として除外し去り、此教會のみを以て右の三點に適合する者にして、其道德資格の如何に關せず此教會に屬する者は皆聖職(地上の)教會に屬する者となせり。而して此教會は全世界基督教徒の殆ど半数を包含し、世界各國に普及し、殊に歐羅巴南部に盛にして、以太利、西班牙、佛蘭西、埃太利、愛蘭、南亞米利加に於ける拉丁人、ケルト人間に最も勢力あり。希臘教會は法王制度を除けば教義及び習慣の主要なる點に於て一致し居れ共、希臘教會よりは活氣と精力とに充てり。されどプロテスタント教會に比すれば一般教義知識自由に於て遙に劣れり。羅馬教會の歴史は内容豊富にして重大なり、今尙一般人民に於ける諸教會より勢力あり、其生命は古羅馬の全盛時代より絶えず續き、多くの帝國國の興亡を餘所に見つゝ今日に及べり。

口部

羅馬加特力教會

(一) 教義 羅馬教會の教義は、世界信條(使徒信條、ニカヤ信條、及びアタナシウス信條)三二五年より一八七〇年迄に開かれたる二十回の世界會議に於て定めたる教義及び法王の教訓、殊にトレント及びワウチカヌス信仰標準に示さる。羅馬教會の教義はイレニウス、グリアヌス、アウグスチヌス、イェロニムス、レオ一世、グレゴリウス一世等の師父等先づ其形態を造り、アンセルム、アキノのトマス、ダンス、スコラス等の中世學者之を論理的に解剖し、定義し、辨證し、ペラルミン、ホズエー、メーレル等がプロテスタント教に反對して表明したる者にして、法王無謬といへるワウチカヌス教義に至りて、教義改革の前途を斷ち了り、此處に羅馬教義の終結を告げ、一たび法王の權威に依りて定められたる疑問は永久に再議する能はざることとなり、唯新教義を加ふるだけの餘地存するに至れり。

(二) 教會政治及び戒規 羅馬教會は史上の最も壯大なる政體を築き上げた。此は全く精神的王政にして、彼得の相繼者、基督の家宰、従ひて教會の至上無難なる首長たりと稱する法王を其上に賦けり。一般人民は此世の事に就ても他の權力に支配せらるべからず、全く司祭に服従せざるべからずとせられ、司祭は監督に、監督は法王に立誓服従するを要するところとせらる。此政體は年月を経て漸次發達し來れる者にして、一八七〇年のワウチカヌス會議に於て始めて其全熟に達したるなり。羅馬の監督が全基督教會の支配と基督教諸王國の支配とを要求せしはレオ一世(四四〇—四六一)の時よりにして、ニコラス一世、グレゴリウス七世、インノーセント三世、ホニファキウス八世等は此要求を再起したりき。されど東方諸教長は何れも自己等の羅馬監督と同權な

るを主張せしを以て、常に羅馬の要求に抵抗し、獨逸皇帝其他の君主も亦之に抵抗したりき。皇帝と法王との争、國家政界と僧侶政界との衝突は中世史全體を一貫し、近代に至りては一八六四年の法王與令が中世時代の法王權を主張せしため、此争を再興し、獨逸及び佛蘭西に於てはクルツルカムプ(教育戦争)となりしが、如何に大なりし法王の力も流れし水も又もに復へすこと能はずして止みき。

法王の政治を輔け、其内閣を造るものは「カルティナル」團なり。其數は時に隨ひて異り、多くは以太利人の中より擧げらる。其中に「カルティナル、ビショップ」(「カルティナル、プリースト」)と「カルティナル、デューコン」の別あり。法王は初め羅馬の僧侶及び人民に依りて選ばれたりしが、グレゴリウス七世の時以來カルティナル團より選ばれることとなり、彼等は空位となりし十一日に法王選舉室(Conclave)に集まり法王を選挙す。法王は「カルティナル」に高僧會議を組織し、行政の諸局は各局に委さる。局は各々「カルティナル」之を司り禁誼文書目錄局、聖儀式局、教習局、宣教師等に分る。全羅馬聖教會には七百以上の監督、百六十九の拉丁大監督、廿七の東方大監督、七の拉丁教長、五の東方教長を有す。

(三) 禮拜及び儀式 羅馬教會年中ミサ書、羅馬教會年中祈禱書、及び他の公私禮式文に載せらる。羅馬教會は信徒の掃墓より墳墓に至るまで伴ひ、洗禮に依て彼等を此世に受け入れ、抹油式に依て之を他界に送り、其一生の重大事なれば凡て儀式の秘儀視福を以て濟む。禮拜は儀式を最も工夫して組織したる行事にして、重に目と耳とに訴へ、凡ての美術を利用せり。ゴチック型大會堂、聖壇、十字架像、聖

羅馬加特力教會

羅馬加特力教會

母、給與、背儀、聖徒遺物、華麗の裝飾、莊嚴の行列、オヘラの音楽などは何れも貧乏の差なく人の心を引くべく、殊に拉丁人の嗜好に適應す。されど斯く外製の耳目を眩ましむるに拘はらず根本なる靈的要求は屢々肌を盡されず、羅馬教會より他派他説へ轉ずる者は極端より極端に飛び行くを常とす。年中の各日は必ず聖者の一人又は數人の記念日とせられ、基督降誕節、復活節、五旬節、無垢懐胎節、領胎宣言節、深身節、マリア昇天節は大祭日として守せられず。禮拜は儀式、川餅等凡て全世界同一にして、拉丁語を聖語とし、祝詞のみは各々其國語にて祝せり。聖壇は最も大切なる者とせられ、講壇は遠き隅の方に在り。ミサは禮拜の中心にして、十字架に於ける基督の贖罪の犠牲を反復繼續するものとせられ、司式の司祭が「此は我が體なり」といふ語を宣言する時、ミサの題題と酒とは基督の肉と血とに化し、此等は生ける者及び死にて煉獄に在るものゝ罪のために神に賦けらるる信ぜらる。

(四) 歴史 羅馬に於ける基督教會の最古の紀事は保羅の羅馬書に在り。此書は紀元五十八九年頃に書かれたる文書也。傳説に依れば、羅馬の教會は彼得之を創立せりとのことなれ共、使徒行傳(廿八の廿三—廿九)及び羅馬書(十五の廿)の言ふ所に依れば、此傳説は信じ難し。又保羅の羅馬に行きたるは紀元六十年後のことなれば、彼も之を創設せしにはあらず。之を創始せるは使徒行傳二の十に見えたる「羅馬より來りて居る者」の中ヘンテコステの目的不思議を見たる者なりしなるべし。兎に角羅馬の教會は西世界最古の教會にして、彼得及び保羅の殉教ありしに依て顯著なるものとなれり。保羅が羅馬にて

口 部

羅 馬 加 特 力 教 會

羅 馬 加 特 力 教 會

羅 馬 加 特 力 教 會

殺されし事は何人も皆承認する處也。彼得が羅馬に居りしことありき事は、新教神學者等の多く疑ひし所にして、聖書中にも亦明白に之を證するものなけれ共、初代の希臘師父及び拉丁師父共に之を承認するを見れば思ふに史實なるべし。但し彼が羅馬に往きしことが紀元六十三年後なりしことは、六十二年より六十三年迄の間には書かれたる保羅の禁獄書翰に絶えて之を記さざるに依て推測せらる。羅馬は首都たり、且長き間世界の覇王たりし上に、一般人民が基督を其相續者として彼得を指定し、教會の永續的至上者を立てしが、其は羅馬の監督の事なりとなせし信仰之を助けて、此教會を迅速に且最大勢力ある地位に上らしめたり。而して羅馬教會は羅馬帝國の大企圖大權利を繼承し、其劍に代ふるに十字架を以てし、以て十五世紀間歐洲の運命を支配し、今尙到る所に其老邁の精力を振ひ、殊に新教國に在りては反對を受けることに依て氣力益々旺盛に向へり。羅馬教會發展の歴史は之を三期に區別すべし。即ち左の如し。

第一期は希臘拉丁並立公教會主義の時代にして、第二世紀より第八世紀に至る。此時代は各教會みな共に基督傳來の教會とせられたり。是れ即ち師父の時代、世界會議及び世界信條の時代、基督教皇帝の時代なり。されど既に第二、三世紀頃より猶太化傾向の生じ來りしを見る。是れ皆て保羅が攻撃し、後には新教が否認して之より分離したる點にして、即ち傳統主義、祭司階級主義、高僧制度、儀式主義、隱遁主義、僧院主義はニカラ時代及びニカラ後の時代に東西ともに發達して、今日に至るまで天主教會希臘教會の共に保有する教義や儀式や制度の大部分は既に此時に於て胚胎したりき。されど又後に聖書に

次で宗教改革に動力を興へたりし罪惡の福音主義的見解も、亦既に此の時代に於てアウグスチヌス派の中に其傾向を有したりき。

第二期は中世の拉丁加特力主義の時代、即ち希臘教會と全然分離せる教會として、グレゴリウス一世の時(即ちシャルルマンの時)より第十六世紀宗教改革の時に至る迄の時代也。是れ歐洲に於ける拉丁民族及びチットニック民族に對する宣教師の時代なりき。此間に羅馬諸監督の働に依て北部西部の蠻人は改宗し、法王政府は獨逸皇帝を始め各國君主の反對を受けつゝ發達し、煩瑣派神學、神秘主義、自由神學等も亦共に相競争して發達し、歐洲全國民を統一せんとする神政治も、亦其反對分子を包みつゝ宗教改革に向ひて流れ行きたりき。中世は實に其間にプロテスタント改革主義と法王派對抗改革主義との兩敵兒を抱きて之を哺乳し行きたりしなり。英國のウィックリフ、ボヘミヤのフツス、獨逸のウニョセル、以て大利のサウオナロー、ウァレド派、ボヘミア兄弟派、ヒサの會議、コンスタンスの會議、バセールの會議等は、何れも第十六世紀の改革のために道を開きたるものなりき。

第三期は近世羅馬教會主義の時代、即ち宗教改革以後(否寧ろ一五六三年のトリント會議以後)の時代なり。此時代の羅馬加特力教會は東方教會と共にプロテスタントと對立し、宗教改革に依て大なる利益を得、或點は中世の地位より進歩したる所あり。即ちもはやアレンクサンデル六世の如き不道の怪物や、ユリウス二世の如き法場より劍を揮ふ者や、レオ十世の如き「基督の物語」よりも古典文學、美術を信ぜし者や再び法位に登るを得ざりき。法王の分離兩立又は鼎立の如き醜態は再び現出せざりき。

而して他方に在りては改革者等が反對したる煩瑣派の說や教會の傳統をば法王の權を以て是認確定し、斯くて公然改革者等の說を否認し、自說の無罪なるを要求し、從ひて之を改革すべからざるものとなし了りたりき。

羅馬教會の近世史は又之を二期に小分すべし。前期はトレント主義羅馬教會の時代にして、直接にプロテスタント改革に反對し、聖書と傳統を信仰の規範とし、原則、信仰と行に依りて義とせらるゝ事、七禮典、ミサの犠牲、煉獄、聖徒の祈禱、遺物崇敬及び教則に關する教義を立てたり。一八七〇年羅馬教會より分離して破門せられたし「加特力派」はトレント會議の精神を守り、ウァチカヌス會議に反對し、之を背教腐敗と呼びしものなり。され共新教の立場より見れば、一方は他方の論理上の發展階級に外ならず。

近世羅馬教會史の後期はウァチカヌス羅馬主義の時代に於て、近世の不信主義たる偏理主義に反對し、又羅馬教會藩籬内の自由加特力主義たるガリア主義に反對せるものなり。此の勢は處女マリアと法王の權力及び無罪に關する就を全盛の境に推し上げたなり。此等の問題はトレント會議にては未決のまゝとなり、甚だしく相異なる諸說教會内に行はれ居りしなり。ガリア主義は佛蘭西にて文學隆盛の時代に繁榮し、ボズエに依て有名なガリア自由條令中に編成せられたしが、イエズイ特派再興の後は法王絕對權を唱へし極端本山派勢力を得、一八五四年ピウス九世が處女の無垢懐胎を神より示されたる信仰の教義なりと要求せし時に至て全勝の權に達し、更に一八七〇年のウァチカヌス會議に於て法王無罪を宣言せしに至りて之を一府確かにせり。ピウス九世は尙

口 部

羅 馬 加 特 力 教 會

羅 馬 加 特 力 教 會

羅 馬 書

一八六四年「誤謬諸說要略」を發し、近世の文明並に政治上宗教上の自由を非難せり。

ピウス九世の朝は最も多事にして、又法王の權力要求の辭柄と、之が教義的組織との絶頂に達したる時なりしが、之と共に又地上の勢力の失墜の時なりき。法王無罪教義の通過せし翌日(一八七〇年七月十九日)法王の後援者たりしナポレオン三世は、新教の普濟士に向て開戦を宣告し、かくて其軍を羅馬より撤し、佛蘭西帝國の瓦解となりしと共に、新教の君主を戴ける獨逸帝國の興起となり、法王權の没落となりき。而して他方に在りては以て大利王ヴィクトル、エマヌエルは此機會に乗じ、人民に援けられ羅馬に進入し、羅馬を自由なる統一國以て大利の首都となし、法王の俗界に於ける權力を奪ひ、之をウァチカヌスと教會政治とのみの主となしたり。是れ同年九月二十日の事にして急進の變化なりしといふべし。斯くて法王は以て大利、西班牙、獨逸、佛蘭西、露西亞と交々困難の關係に入りたりしが、人民の同情をば受けたりき。ピウス九世の治世は歴代の法王中最も長く、後繼者レオ十三世の政策は比較的に賢く且調和的なりき。

此間羅馬教會は以て大利及び西班牙にては漸く其根據を失ひつゝありしが、英國に於ては一八四五年以來所謂牛津運動なるもの起り、ニウマン、マンニヤ、其他の教職及び貴族等が英國教會を離れて羅馬教會に入りしより教勢大に振興したりき。されども獨逸及び瑞西にてはテリシゲル、ラインケンス、フォン、シムルテ等に導かれて、ウァチカヌス布令に不服なりし「加特力派」の分離あり。又最近十數年間羅馬教會に於ける羅馬教會は、屢々政府と衝突し、佛國は一九〇五年遂に政教分離を實行し、從來中央政府

府、地方政府及び市町村より教會に許可したりし補助金を停止し、教會の所有したりし國家の財産を再び國家に納めたり。葡萄牙に於ても一九一〇年王政倒れて共和政立てらるゝや、翌年遂に政教の分離を實行し、僧侶の權力を殺ぎ、一切の補助を停止したり。西班牙は尙羅馬教を以て國教となせ共、自由黨内閣は排羅馬教主義を取り、一九一〇年六月非國教諸派に對して禮拜、傳道其他の自由を許容したり。且教會内に在りては近年所謂近代主義(其條を見よ)なる者起り、羅馬教會も亦近代思想の影響を受けて頗る多事を極む。

目今歐羅巴諸國の中露西亞及び希臘は過半希臘教に屬し、英國、和蘭、伯耳義、丁抹、瑞典、諸國諸國は新教國なれ共、英國には五百七十五萬人の羅馬教徒あり、愛蘭は殆ど舊教に屬せり。獨逸及び瑞西に於ては新教の勢力稍や強けれ共、羅馬教徒も亦殆ど人口の半を占む。其他の諸國は舊教國にして、數の上よりすれば新教徒の數は其だ少し。北米合衆國に初めて羅馬教の立てられたるは、一六三四年にして、マルチア卿に率ゐられたる、英國羅馬教徒の少數がメリーランドに殖民せるを以て初めなり。此小團體は忽ちにして發達増加し、米國に於て最も勢力を有する宗教團體となりしが、彼等は他の宗派に對して寛容の精神を顯はし、宗教的平等を唱へたりしかば、各派のプロテスタント教徒米國に歸集し來り、間もなく羅馬教徒を凌駕するに至りしが、彼等は初め羅馬教徒に寛待せられたりしに拘はらず、其之を凌駕するに及びては之を虐待し、彼等を以て偶像信者也として、公職及び名譽の地位より除外したりき。然れ共一七八三年合衆國の獨立宣言せらるゝに及びて、宗教上絕對的自由の制度採用せ

られ各宗派均しく待遇せらるゝこととなり。羅馬教徒は歐洲殊に愛蘭及び獨逸よりの入移民に由りて漸へず増加し、最近の調査に依れば一千一百五十萬の信徒を有し、福音に一人の「カレディナル」を置き、其下に大監督及び監督を置く。セント、レイスに大學校あり、八十の高僧學院、三百の僧院を有す。加那大も亦新教國なれ共、東部に於ける羅馬教の勢力は頗る盛大にして、モンテリオール、クベック等の諸市に在りては、羅馬教は新教を凌駕せり。墨西哥及び南米諸國は大抵舊教國にして、新教の勢力は尙甚だ微々たり。現今世界に於ける羅馬教徒の總數は凡そ二億五千萬ありといふ。(羅馬教の事を知らんせば、アレンクツの「カセドラ」、ハトリ「一八七九」ウイゲントンの「初代教會及び聖彼得の坐位」(九四)ガスケットの「英國に於ける加特力教會の歴史」(一九一三)アティス及びアレンホルドの「加特力辭典」(一八九七)ギッソンの「吾人父祖の信仰」(九七)ホルフィーの「彼得の椅子」(八三)リチャードソンの「加特力の主張」(八九)ウァウカンの「羅馬の主張」(八九)メリー、テル、ウァレルの「法王の主張の眞理」(一九〇二)等を見よ。日本に於ける羅馬教の傳道に就ては「日本」の條を見よ。

羅馬書 The Epistle to the Romans.

【此書の附られたる場合】「天下の道は凡て羅馬に通せり」と云はれたるが如く、羅馬は當時世界の首都にして、有らゆる天下のものは悉く此處に集り、而して其文明、其風俗は滔々として流れて世界の諸國に波及せり。異邦人の使徒保羅が此異邦の首都に福音を宣傳せんことを熱望せる所以のものも亦より偶然に非ず。彼が三年の間エヘソに在るや、羅馬に往

口の部

羅馬書

かんと念其だ切なるものあり、自ら其希望を述べて曰く「我れ、しに往きて後必らず羅馬を見よ」と云々(徒十九の廿一)。然れ共彼が羅馬に往かんことを起したるもの之を以て初めざるに非ず、彼は實に一再ならず願する志望を有したりき(羅一の十三)。然れ共東方諸國に於ける彼の事業は、未だ彼の去るを許さざりき。今や彼はエルサレムより偏くイリヤコに至る迄福音を傳へ、此地に於ては既に傳ふべき處なきを見たり。於是彼は年來の志望を達せんとして、羅馬を経て西班牙にまで赴かんことを決心したり(十五の十九、廿三、廿四)。然れ共彼が西歐に向ふ前、向一の爲すべきものあり。即ちマケドニア及びアカヤに在る教會が、エルサレムに在る貧しき聖徒を助けんとして集めたる義捐金を、自らエルサレムに携へ往かんことを是なりき。彼は之に依て基督教會内に於ける兩分子、即ち猶太人及び異邦人信徒の結合を密ならしめんと欲せしが、人を遣はして之を遣らしめんと欲せず、自ら携へ往かん事を欲したり。故に彼は此事終りて後羅馬に往かんことを決心したり(十五の廿五、廿八)。初め彼のコリントに往かんことを、其道を備へんが爲め、先づ書翰を作りて彼等に贈りたり。羅馬の信徒は彼が未見の兄弟也。彼が怒意を以て、豫め其將に至らんことを通ずるの必要を感じたりしは宜也。且彼は羅馬を経て更に西歐西班牙の極まで傳道せんことをしよとなれば、恐め其意を羅馬の信徒に告げて、彼等の同情と助とを得るの必要を感じたりしこと亦疑ふべからず。此の如くして彼は此書翰を作りて羅馬の教會に贈りたりし也。

【著作の時代及び場所】 此書翰の書かれたりし時日及び場所は、此書中に記せる事實より推知するを得べし。即ち此書翰は保羅がエルサレムに在る聖徒を助けんと爲めに立出せる曉に書かれたるもの也(十五の廿五)。而して此旅行は保羅がエペソに於て永く滞在せし後、コリントに於て冬(五八年ならん)を過したる後になされたるものなることば、吾人の使徒行傳より學ぶ所也(廿の一二)。而して使徒行傳に依れば、此時保羅は希臘よりスミヤに航せんことをしりしが、猶太人彼を害せんことを謀りしが、其道を轉じてマケドニアを過ぎて歸りたりしと云ふ。若し此書翰にして此猶太人の謀の見たりし後に書かれたりしものならんには、保羅は之に言及せるの餘地を有したりし也。然るに彼が「吾之に及ばざるは、彼がコリントを去らざる前、即ち猶太人の謀の洩れざりし先きに、此書翰の書かれたりしを知るべき也」として保羅は除却の後にピリペを去りたりしと云ふ。彼がコリント及びピリペの教會を巡歴するために數週を費したりしと假定せば、彼がコリントを去りたりしは凡そ五九年初春のことなりしなるべし。

【羅馬教會の要素】 當時羅馬教會を組成したりしものは猶太人なりしや、若くは異邦人なりしや。吾人は不幸にして羅馬教會の性質に關しては、此書翰より學び得るもの外、何事をも知るべし能はず。シセロが嘗て述べたりしと云へる談話により吾人は當時既に猶太人は羅馬に於て富み且勢力を有したりし人民なりし事を知る也。其後ポンペイは猶太の捕虜を羅馬に携へ來りしが、彼等の數は益々増加するに至れり。且彼等は一般に政府の保護を受けたりしが故に、其勢力は益々強大なるに至れり。テベリア帝に至り、彼等の勢力のあまりに強大ならんことを恐れ、之を抑壓するの政策を取り、續てクロディアス帝は、嚴令を發して猶太人を國外に放逐せんとしたりしことば、彼等の根柢に堅くして容易に動すべからず、其勢力は尙盛にして、益々多くの改宗者を生ずるに至れり。史家タシタスのいふ所に依れば、當時羅馬市民の中には、他の嘲笑、侮慢を顧みずして猶太教に歸依したりしもの甚だ多かりしと云ふ。斯く羅馬には多數の猶太人住居したりしかば、エルサレムとの交通常に絶えず、ペンテコステの日彼得有名なる説教をなしたりし時には、羅馬より來り會したるものありしと云ふ(徒二の十)。彼等がエルサレムより羅馬に歸りし後、其本國に於て起りたりし事を其同國人に傳へたりしは疑ふべくもあらず。唯にエルサレムのみならず、當時耶穌の宗教は使徒等に依りて東方の諸國に宜へ傳へられたりしことなれば、基督教に關する諸知は、斷へず各所より羅馬に達したりしこと言ふを得たり。史家エトニアスの言ふ所に依れば、クローディアス帝が猶太人を羅馬より放逐したりしは、彼等が基督教徒の煽動に依り斷へず離脱したりしが爲め也と云へり。又以て基督の名が猶太人に依りて唱へられしことを知るべし。去れば當時既に羅馬に在る猶太人は多少

羅馬書

羅馬書

口の部

羅馬書

基督教に就きて知る所ありし事明也。然れ共此書翰の書かれたる後三年を経て、保羅は意外の道に依りて羅馬に達したりしが、當時羅馬に在る猶太人は、基督の道に就て知る所甚だ少かりしが如し。即ち保羅は猶太人を集めて耶穌の事を語り、彼等を勧めたりしに、彼等の中には基督に感して之を然りとする者あり、又信ぜざりしものもありしが、保羅は預言者イザヤの言を引きて、神の救の途に異邦人に移るべきことを語りたり(徒廿八の廿三、廿九)。古來羅馬教徒の信する所に依れば、初めて羅馬に傳道し其教會を建設したりしものは、使徒彼得也と云ふ。然れ共是れ單に傳道に過ぎずして、之を證すべき史的事實なるものあるなし。而して保羅は此書翰に於て明かに「我れ慎みて他人の置し基礎に建てしこと、イエスの名の未だ稱へられざる處に福音を宣傳したり(十五の廿)と云へるを見れば、彼は彼得が羅馬教會を建設したりしとの事實を認めざりし事明也。尤も彼得が羅馬を關係ありし事は、諸處の傳説の傳ふる所にして、保羅が第一禁獄書翰を書きし後に至りて羅馬に往きたりしは事實なるが如くなれ共、前既に述べたるが如く、保羅が羅馬に至りしとき、猶太人が基督教に就て知りし所のもの甚だ少かりし事實に依りて之を考ふるも、保羅の至らざりし前、彼得が羅馬に來りて教會を建設したりしことは思考する事能はず。是等の事實に依りて之を見れば、當時羅馬に在りし猶太人中には多少の基督信徒ありしこと雖も、甚だ僅少ななるに過ぎざりし事明也。之に反して吾人は羅馬教會を組成する主なる分子は、異邦人の信徒なりし事實を見出すべし。即ち保羅は此書翰を異邦人の中に在りて基督の召を蒙れる者に贈りたり(一の五、六)。彼は羅馬人を以

て他の異邦人に比したり(一の十三)又彼は明に羅馬人に向て「我爾曹異邦人に言はん、我は異邦人の使徒なるが故に我爾を敬重せり」と言ひ(一の十三)又異邦人の爲めに、耶穌基督の僕となりたるが故に、此書翰を贈るの旨を述べたり(十五の十五、十六)。而して保羅が書中に於て安否を問ひたりし人の過半は、異邦人なりしを見れば、羅馬教會が主として異邦の分子によりて組成せられたりしこと甚だ明也。

【此書の讀者】 然れ共羅馬教會を組成したりし主なる分子は、異邦人なりしことば、若くは猶太人なりしことも、左まで大切の事には非ず。是より大切な問題は羅馬に在る基督信徒の信奉したりし基督教は、保羅的なりしや、猶太的なりしやとの事也。リプソスは書中の事實を以て、此書翰の讀者の猶太的基督信徒たりしを示すものなりとて曰く「此書翰の記者は、何れの部分に在ても、猶太的教會を受けたる讀者に語りつゝあるを自知せり。例之舊約聖書の言語、例證を取りて論議するが如き、讀者を以て舊約の律法を熟知せるものとして、其知識に訴ふるが如き、何れも記者が猶太的基督信徒を教化せんことを企てつゝあるを示すものに非ざるはなし。當時保羅の基督教を信じたりしもの羅馬に在りたりとすも、是れ唯僅少の數にして、異邦人の中より基督を信じたりしもの、悉く猶太的基督教の感化を受けたりしこと疑なし」と。フライデンは謂えらく、此書翰の暗示する所に依れば、羅馬教會に於ける猶太的及び異邦的兩分子の關係甚だ切迫せるものありしが如し。教會内の健全なる分子は、異邦的基督教徒の増加するに従ひ漸次發達し、遂に教會の主なる部分を組成したりし猶太的分子は、少數にして且無力なるものとなりたるが如しと云ふ。然れ共吾人の前既に述べたるが如く、異邦人は初めより羅馬教會を組成したりし主なる分子にして、從て教會に勢力を占めたりしものは、保羅的基督教なりし也。保羅が日を守り又は偶像に献げたるものを食ふこと能はざる弱き信徒を離れしべからず戒めたるは、即ち猶太的分子の勢力甚だ弱かりしことを證するもの也(十四の一七)。之に反して若し羅馬教會にして猶太的臭味を帯ぶること甚しかりしならんには、彼等彼等に向て「我兄弟よ、我爾曹が仁慈に滿ち、凡ての智に充ちて互に勧め得ることを信ず」と云へるが如き言を用ゆることを得んや(十五の十四)。去らば吾人は以上の理由に由り、羅馬教會を組成したる主なる分子は異邦人にして、教會に勢力を占めたりし基督教は保羅的なりしと推斷するを以て適當也と信する也。然れ共教會内に猶太的分子の存在したりしは亦論を要せず。故に保羅は猶太人も異邦人も共に罪の下に拘囚られたるものにして、唯神の恩寵に依り、信仰に依りてのみ救はるべしとの教理を明にしたり。其加拉太書に於て論議するが如く、即ち保羅反對派の勢力加拉太教會に於けるが如く強大ならざりしが爲め也。此の如くして保羅は此書翰に於てサパチエの云へりしが如く、論争的に非ず、獨斷的に信仰に依り義せらるることの大教義を明にしたる也。

羅馬書

口部 羅馬書

く、羅馬教會を組成したる分子は、異邦人にして、此書全篇の調子は辯駁的に非ず。右の三章に於て保羅は猶太人の世界に對する使命を論じたりしと雖も、之を以て此書を中心とすべからず。

(二) 次は保羅は豫防の爲めに此書翰を書きたりしなすものにして、即ち當時羅馬教會には猶太的殊にエビオン派の跋扈せるものありければ、保羅は此等の攻撃に對し、健全なる教會の分子を防衛せんとして豫防的に此書翰を附りたりしと云ふに在り。是れパウロ博士の説にして、即ちパウロを祖述せるもの也。吾人は前已に論じたるが如く此の如き危険の分子を教會に見出すこと能はず。假令保羅が問々猶太教を攻撃するの跡ありとするも是れ偶然の事にして、本来の目的には非ず。

(三) 次は調和の目的を以て書かれたりしなすもの。是れ即ちフライアレルの説にして、彼は羅馬教會内に存在せる猶太的、及び異邦的基督教徒を調和せん爲めに書かれたるものとせしむ。彼の説に従へば、此書翰の中心は第十四章也。吾人は第十四章に於て調和的の語調を發見せざるに非ずと雖も、是れ此書の最大目的に非ず。

(四) 保羅の目的は之に依て基督教の教義を述べんとしたる也とは、カッザイン、メランクトン、マイエル及びゴーター等の學者が主張せる處にして、ゴーターは此書翰を呼びて『教義及び倫理の問答書』と云へり。此書翰には素より教義を説くものに非ずと雖も、是れ素より書翰にして論文に非ず。之を教義を説く目的に依りて書きたるものとせば是れ不完全のもの也。何となれば此書翰中には保羅が他の書翰に於て説きたる基督論若しくは終末論を缺けば也。而して九、十、十一章の問題は教義の問題に非

- ずして寧ろ歴史的の問題也。
- (五) 保羅が此書翰を書きたるは、彼が自ら稱して『我が福音』と稱したりしものを説くが爲めなりし也。如何にして人は救はるべきぞ、曰く、信仰に依て救はるべし。是れ即ち本書の主義、骨髄にして、保羅は異邦人の使徒として此福音を説きたりし也。故に彼は先づ福音に依りて救罪の福音の顯はされたる事と、人は信仰に依りて救はるべき事を説き、次は此の如き客觀的に罪の救を得たるものは聖靈に依りて主觀的に猶太人と異邦人との關係を明にし、次に歴史的に猶太人と異邦人との關係を論じ、而して最後に基督教徒の實際道徳を説きたり。是れ即ち此書翰の主旨にして、此書著作の目的は此福音を明にせんとするに外ならざりし也。
- 【此書の結構】 本書を區別して四部とすべし。
- (一) 緒言 (一の十七)。
 - (イ) 挨拶 (一の十七)。
 - (ロ) 感謝及び著者の希望 (一の八十五)。
 - (二) 主眼 (一の十六、十七)。
 - (三) 教義の發展 (一の十八、二十一の廿六)。
 - (イ) 信仰に依るの解釋 (一の十八、二十五の廿一)。
 - (a) 其必要 (一の十八、三の廿)。
 - (b) 救罪神の恩寵に依り、基督を信するに依りて救はるべし (三の廿一、廿五の廿一)。
 - (イ) 贖罪—信仰に依る解釋を得るの手段としての (三の廿一、廿六)。
 - (ロ) 救罪と律法及び約束との關係 (三の廿七、四の廿五)。

- (ハ) 信徒の安全 (五の一、十一)。
 - (ニ) アダムと基督 (五の十二、廿一)。
 - (ロ) 主觀的救罪—基督に於ける新生命 (六の一、八の廿九)。
 - (a) 稱義と新生の關係 (六の一、七の六)。
 - (b) 律法の無力 (七の七、廿五)。
 - (c) 靈の救済 (八章)。
 - (ハ) 保羅の歴史哲學—神の恩寵と、以色列人の棄てられ異邦人の招かれたる事との關係 (九、十、十一)。
 - (a) 神の大權 (九の一、廿九)。
 - (b) 以色列人の棄てられたる理由—不信仰 (九の卅一、卅二)。
 - (c) 將來に於ける希望—神の攝理に依り善より惡を來らす事 (十一)。
 - (三) 實際倫理 (十二の一、十五の十三)。
 - (イ) 基督教道義の動機 (十二の一、二)。
 - (ロ) 教會の會員としての信徒 (十二の三、廿一)。
 - (ハ) 社會の一人としての信徒 (十三の一、十四)。
 - (三) 基督教徒相互の關係 (十四の一、十五の十三)。
 - (四) 結語 (十五の十四、十六の廿七)。
 - (イ) 著者自身に關する説明 (十五の十四、廿三)。
 - (ロ) 推薦及び挨拶 (十六の一、廿三)。
 - (ニ) 祝詞 (十六の廿五、廿七)。
- 【參考書】 ウァイズ、ユウリッ、ル他の新約聖書論、マイエル、ゴーター、サンター、インジャー、シヨナル、クリチカル、コムメンタリー中(ビート)。

羅馬書

羅馬書

口部 ロマニスクのロムバルドス

マリアツ等の註釋書及び『パウロ』の條下に掲げたる參考書。

ロマニスクの建築 Romanesque Architecture. 『建築』の條を見よ。

ロムバルドス ヘルムス Lombardus, Petrus 人名 一〇〇六〇 第十二世紀の佛蘭西神學者。ロムバルディーのノヴァラに生る。初めホロニヤ、後レーンにて研究し、資をケンアホーのヘルナルより給せらる。次でヘルナルの蔵書を携へて巴理聖ヴィクトル院に行き、著名なる教師となる。同院の『カノン』ともなりたるが如し。一五九九年巴理の監督となりしが、一年在職したるのみにて、其餘の事は傳はらず。唯だ其監督聖別式の時、彼の母は或る貴人等に強いられて、好まぬ事ながら平素ノヴァラに於て著けしよりは美服して式に臨みしに、彼の謙遜なる、母を我母なりと言ふを肯せず、之をして其粗服に換へしめたりといふ一事傳はらる。ヘルムスの名を著しからしめたる者は、其『官官の書四篇』なり。當時僧侶の傾向は教會の教訓と師父の教訓とを共に取り、思辨家等の傾向は教會の教義を理論を以てやらんとしたる様なりしに、ヘルムスは此兩傾向を共に代表し、師父等の教訓を明かにし、其真義を示さんと努めしが、大に一般の同情を得るを得たり。アペラールが師父の矛盾を摘出するのみを能事とせしに反し、ヘルムスは矛盾を調和し其權威を主張し、組織的に説き立てたり。其第一篇は神の事を論じ、第二篇は受造物を論じ、第三篇は神子の化身、贖罪、人間の品格等を論じ、第四篇は來世及び教會の儀式を論ず。三位一體論に就ては異端を攻撃せられ、フィオールのヨアキムは之を四位一體論なりと評し、ラテラン會

口部 ロヨラのロラルド徒

議はヘルムスは唯だ神の實質と三位とを區別せしのみにて、四位を説きしに非ざるを認め、此告訴を棄却せり。ヘルムスは又人の永生は追加的の賜なるが故に、背教は之を失ふのみならず又創造の時受けたるものを害するなりと言へり。基督の事業に關する説はアペラールと殆ど同じく、人は基督の死に於て贖はれたる神の愛に對激せられ、神を愛するに依りて罪より救はるべき言へり。此書は理義明白なる者と言ひ難く、又創想もなく、難問は未解決の儘となり居れ共、之より前又は後に於て同種類の書に比して思想の穩當なる所成功の基となり、初めは異端の訴をも受け、一三〇〇年には巴理の神學教授等十六條の異端説を其中より指摘したる程なりしと、此書は能く頭布せられ、長き間標準書として用ひられ、註釋續出し、宗教改革後には殊に西班牙にて最も多く註解の出づるを見たり、ドミニクス、ソートーの註解、和蘭神學者エスチウスの註解は最も有名也。

ロヨラ イグナチウス 『イグナチウス、ロヨラ』の條を見よ。

ロラルド徒 The Lollards. 結社名 第十三世紀乃至第十四世紀の頃羅馬教會の教義及び慣例に反對したる宗教團體の名にして、初め獨逸に於て用ひられたりしが、第十四世紀の後半英國に於ては之をウィックリフの徒に適用したりき。然れ共ロラルド徒は後幾ならずウィックリフの本意に違ひ、政治的運動の色彩を帯び、宗教的意義を失ふに至り、ウィックリフの最も熱心なる辯護者カウントのジョンの如きも、彼等の希望に對して何等の同情を有せざるに至りたり。一三九九年ランカスターの人民がリチャードを廢したりし時は、教會全體一致してヘンリーを擧げて王位に即かしめ、爾後ランカスター

口部 ロングフェロー

人等は教會を助けてロラルド徒を壓抑したりき。斯くてヘンリー四世は異端宣呪の令を發し、ウィリアム、ソワテルは一四〇一年其最初の犠牲となりたり。然れ共ヘンリーは遂にロラルド徒を壓服すること能はず、彼の治世の晩年及びヘンリー五世治世の初めに方り、此運動の最も著名なる指導者の一人ジョン、オールド、カッスル卿はロイド、ゴアムとなれり。ヘンリー六世は正統派の政策を踐用し、ロラルド徒を壓抑したりしが、彼等は容易に屈服せず、依然法王政治に對して不満を唱へ、其説は遂に漸次に勝利を得、一五四七年即ちエドワード六世治世の元年に至り、從來ロラルド徒壓抑の目的を以て發布せられたる法令は凡て撤回せられたり。然れ共彼等は一定の組織を有せざりしが故に、英國に於ては宗教改革に際し採用したりし教義はルーテル及びカルヴィンの教義にして、聖書の翻譯も一新になされたりき。(アラウンの『ロラルド徒の指導者』ゴアム、エル及びトングエリアンの『百姓一揆とロラルド徒』アールの『ウィックリフ及び改革運動』等を見よ)。

ロングフェロー Henry Wadsworth Longfellow, Henry Wadsworth 人名 一八〇七年—八二 米國の詩人。メイン州ポートランドに生る。一八二五年ボードイン、カレッジを卒へ、父の法律事務所にて法律を研究せしが、幾何もなく之を中止し、二六年外遊して佛、四、以、獨の諸國を巡り、歸りてボードイン、カレッジの近代語教授となりしが、三五年ハーヴァード大學より招かれ、ジョルジ、ティックノルを繼いで近代語教授となる。後又暫く外遊し、歸りてマサチューセッツ州カムブリッジにて詩作に従事し、名聲日に揚る。『夜の聲』は一八三九年に出で殊に『生命の讚詩』の

7. 井の部 論争學

名は知らずして英語の通する所に喧嘩せり。同年「ハ
イムリオン」出で、其より「舞歌其他の詩」奴隷制
の詩「西班牙學生」エウヰン「海邊」機邊
「金銀」ハイアツ「アイリス」スタンディシの求
婚「路傍旅舎の詩」グン「神曲の翻譯」新英州悲
劇「神聖悲劇」其他を出す。其周邊には種々の人
々集まりぬ。五四年教授を辭し、六八年六九年又歐
洲に遊び、到る所歓迎を受け、牛津大學よりは民法
博士號を與へらる。彼は其才と共に其品格に依て人
に愛せられたりき。

論争學 又は破邪顯正論 Polémis.

術語 希臘語のケンミコスに戰争を意味す。
基督教は初めより其周囲の事情に依りて餘なくせられ、
單に自己を防禦するのみならず、又敵を攻撃するの
必要を感じ、論争は早くより基督教辨證の缺くべから
ざる一部となれり。此實行は法式を生じ來り、イン
ニウス、テルチユリアヌス、アマナシウス、アラカ
ヌス等の文書を見れば、彼等は論争を有力なる
武器と知り、之を最も有効に用ひしことを示せり。
而して法式を意識するときは學問とならざるを得
ず。然れ共論争は大なる熱誠を以て實行せられしと
雖も、一個の學問として發達せざりき。中世と雖も
此に至らざりしなり。之が一の學問として必要ある
ことを深く感ぜられたるは宗教改革の時なりき。イ
ルチン、ケムニツ、マラルミン、ブンニウス等の文書
中には既に此心の暗示せられ居るあり。されど論
争の法式を組織的に立てたるはイエズイト徒なり。
此を以て彼等は「法式徒」と呼ばれたり。プロテス
タント教徒も之に倣ひ、其文學は著しく發達せり。
シユライエルマツヘルに至り論争學は哲學的哲學
の一部として神學體系の中に收められたり。近年各派

分封君。唯一神教

の比較神學研究せられ、又各宗教の間にも比較宗教
學の研究盛に行はれたる結果、何れの宗教何れの宗
派にも真理の包蔵せらるること明となり、辨證攻撃
は漸くに止むに至り、今日にては最早破邪顯正の論
論を聞くこと少し。

7. の 部

分封君 Teitarch. 職名 國又は州の四
分の支配者の義にして、新約聖書は二箇所に於て
此意義にて使用せらる。即ち「ローマ」ブチヤヌス太
十四の二、路三の「十九、九の七、徒十三の「一」
及び「ローマ」ピロキ(路三の「一」は各々父「ローマ」大
王所領の四分一を嗣ぎ、分封君とせらる。

井の部

唯一神教 Monothéisme. 又は唯一神論
原語にては同語なれ共、邦語にては宗
教上の意義を表する時、唯一神教又は一神教と云ひ、
哲學上の意義を表する時、唯一神論又は一神論の語
を用ゆ。此語宗教上にては通常多神教と反對の意に
用ゐらる。猶太國民が隣邦諸民族の多神を拜せしに
反し、一神を崇拜せし故を以て、其宗教が唯一神教と
稱せられたるが如し。基督教も唯一神教にして、回教

唯心論

も亦同一の稱呼を通用せらる。唯一神教は又單に多
神教に對するのみならず、萬有神教に對して超越神
教を意味することあり。然れ共哲學上の一神論は萬
有神論、超越神論を含み凡て唯一神を以て宇宙の原
因とせざる見解を指す。唯一神教又は唯一神論は拜
一神教 (Monolatry) 及び交代神教 (Henotheism)
と混同すべからず。拜一神教は多神の存在を認め乍
ら、其中の一のみを拜して他を拜せざる者にして、
最古の猶太人が他の種族の有する神を認め乍ら、自
身はエホバのみ神として奉へたるが如き、嚴格なる
意義に於て唯一神教に非ずして、寧ろ拜一神教也。
交代神教とは諸神の階級組織中に於て唯一最高神を
認め、若くは諸神中の或者が交代して最高の位置を
占むる者にして、古昔の印度人が或時はヴァルナを
拜し、或時はインドラを拜したりしが如し。
唯心論 Idealism. 學說名 唯心論とは哲學
に於ては、通常唯物論に正反對の學說を云ひ、美術
文學に於ては、通常現實派に正反對の見解を稱する
の名稱也。
哲學上の唯心論にも、二つの別あり。其一是哲學的
唯心論也。此種の哲學は宇宙の本性は靈智なるもの、
則ち心靈的なるもの也と主張するものにして、
唯物論に正反對なるもの也。其二是心理學的唯心論
なり。此は外界の萬象は個人の意識中に存在するもの
にして、個人の意識を離れて別に萬物あるに非ず
とせざるもの也。佛者の所謂羅羅萬象唯識所變と説く
もの、亦此心理學的唯心論の類なり。
今全體として唯心論の發達を稽ふるに、哲學的唯心
論は心理學的唯心論より生じ來るが如し。換言すれ
ば、心理學的唯心論は、吾人の見聞する事物は畢竟
心内の事物に過ぎずと斷言するものにして、哲學的

井の部 唯心論

唯心論は、此斷定を論據として哲學を構成するもの
也。テカルトは心理學的唯心論の鼻祖なるが、彼は
「我は思想す、故に我在るなり」と有意識の事實を
基礎として、我は靈魂なり、而して總ての靈魂が知
覺する所のは、唯其觀念のみと斷定するに至れり。
(心理學的唯心論)。但し彼は此論旨を首尾一貫
徹底論出することをなさず、延長を有する物質と、
思想を本質とする本體との二者の存在を知ることを
得て、非理矛盾に陥りたり。去ればテカルトは一方
に於ては、心理學的唯心論者にして、他方に於ては
哲學的實有論者(外物は眞に存在すべし)也。此
非理矛盾を避けんが爲めに、スピノザは凡神論を唱
へ、「の本體」を假定して、思想と延長を其表裏
の二性質と見做したり。ライブニツはスピノザに
次で起り、モノイド説を主張し、ロツクは經驗論を
唱道して、觀念の起源を經驗に歸したりと雖も、テ
カルトと同じく心理學的唯心論と哲學的實有論とを
結合するの非理矛盾に終れり。マルクレーは此非理
矛盾を洞察して斷言して謂へらく、吾人が見、吾人
が知る所の事物は、皆心意精神靈魂自我の中に存す
る觀念に外ならず、一例を挙げば、太陽てふ物體は
是れ我が觀念に外ならず、汝の觀念に外ならず、衆
人の觀念に外ならず、而して常に神の觀念に外なら
ず、換言すれば、吾人が太陽てふ感覺を起すは、實
に太陽てふ物體が外界に存在して然るに非ず、唯神
の意力が太陽てふ感覺を吾人の觀念中に起さしむる
のみ也。マルクレーは斯くして心理學的唯心論を哲
學的唯心論の基礎となしたり。ロウはマルクレー
の說に同意する事能はず。懷疑的唯心論を主張し出
したり。其說に謂えらく、吾人が知る所のものは印
象即ち感覺、觀念及び觀念の聯合のみ、而して是等

は吾人をして輕率にも外物の存在を信ぜしめ、又吾
人の知覺の原因として不可解なる或物の存在を
信ぜしむるもの也。但し其事實なるや否やは是れ實
に疑の存する所なり也。英國特有の唯心論は其起源
を茲に取るものにして、ヨル、スハメル等の著作
に於て往々見受くる所の所説也。
獨逸國に於ては、カンフが一面ライブニツの感化
を受け、一面ヘウムの感化を蒙りて、超絶的
若くは批評的唯心論と稱する者を主張するあり
り。而して彼の哲學は多數の哲學的唯心論者の基礎
をなせり、其說の概要を如し。
(一) 知識の起源 感覺は其内部の感覺たること、
外部の感覺たることを問はず、皆「本體」若くは「實
在」が起す所のものにして、感覺は唯本體よりの
刺激を受けて、之を時間空間てふ先天的範疇に納
入るなり。且人には「本我」てふ先天的觀念あり、
是れ感覺より得るに非ず、感覺を統一するもの
なり。而して「本我」には元來本體、性質、原
因、結果てふ先天的觀念の備はり居りて、有らば
感覺を此範疇内に歸導するなり。
(二) 所知的世界 吾人の知る世界は、實在の世
界に非ずして、現象の世界のみ。則ち悟性、
諸感覺を統一して自ら造りたる現象界のみ。
(三) 實在 總ての事物は現象に過ぎずと雖も、
吾人に印象を興へて感覺を起さしむる「實體」が
外に存するに疑ふ可からず(是れカンツの自家撞
若の點なり)。
(四) 知識以外の理性的作用 カンツの立論に従
へば、人の理性は現象以外に出る能はざるものな
るにも拘らず、彼は理性は其先天的作用によりて
現象界を超越し得るにせり。則ち理性は必然に

先天的理想を包有す。而して實際的理性は道德
上の責任を解明せんが爲めに、自由意志、罪惡不
滅、神の存在を假定し、又之れが實在を必然なら
しむるにせり。
カンツは自家撞着に終りしが故に、ライブニツは此自
家撞着を避けんが爲めに、カンツの超絶的唯心論を
哲學的唯心論に變形したり。ライブニツは從へば「本
體」其物とは心的存在物の謂に外ならず、人は物も
生じ來りしに非ず。思想は受動的に外界より受け
たる印象によりて生ずるに非ず。却て人は其決意に
よりて自己の世界を構成するものなり。然り、本我
は全然自ら事物を構成するものなり、則ち萬事萬物
我が意識中にあるなり。
シェリンクは唯心的凡神論を唱道したり。曰く、實
在は唯一のみ、則ち主觀客觀の兩端を一和する唯一
の絕對的理性はなり也。ヘーゲルの汎理論(宇
宙はロウスの顯現に外ならずと云ふ)は此立論を根
據としたる者なり。
ヘーゲルの唯心論は、實在を唯一の絕對的理性なり
と斷定すれども、此絕對的理性たるや夫れ自らの中
に差別を包有するものなり。宇宙萬象人間萬事は皆
絕對者の發展に外ならず、則ち絕對者は自ら發展し
て宇宙萬象人間萬事となりしと云ふにあり。但し人
間は絕對者其物なれども、絕對者の全體に非ず。
自然界も亦其本體は靈なるものにて、絕對者に相違
なきも、絕對者の全體に非ず。絕對者は唯一の
理性なれども、其中に自ら差別の存するありとなし。
以て、かの有名なる唯心論を結ぶに至れり。
要するに、心理學的唯心論は外界の萬象は人の意識
中に存在すとなし、哲學的唯心論は宇宙の本體は靈
的なるものにして、人類と自然界とは皆其發現に外

唯心論

唯心論

井の部 唯名論

ならずともなり。尙唯心説に就て詳なるもの

唯名論

唯名論 (Nominalism, Realism) 唯名論 (又は名目論) 實在論 (又は實

唯名論

唯物論

が化身して父は化身せずといふこと能はず、故に

然のもの、實存せざる外相に過ぎずして實體は通性

唯名論 (Nominalism, Realism) 唯名論 (又は名目論) 實在論 (又は實

唯物論 (Materialism) 唯物論 (又は物質論) 唯物論 (又は物質論)

唯物論 (Materialism) 唯物論 (又は物質論) 唯物論 (又は物質論)

唯物論 (Materialism) 唯物論 (又は物質論) 唯物論 (又は物質論)

井の部 唯物論

唯物論

る人なるが故に、後世唯物論をエヒクリアニズム、

唯物論

唯物論

唯物論に對する哲學の勢力微弱なるを致

唯物論 (Materialism) 唯物論 (又は物質論) 唯物論 (又は物質論)

ヲの部 唯物論

先づ第一の點に就いては、吾人は心意を以て物質の終極の産物也とすべし。何とせば斯くならず、吾人は既に心意を假定すれば也。凡そ斯る研究の最初の歩程には、思想の範疇を含む。吾人は思想を離れたる客觀的事實を以て吾人の研究を始めること能はず。外界に於る最後の下の事實も、獨立せる實體に非ず。是れ即ち思想の媒介に依りて、觀察する所の心意に顯はるる事實又は事物にして、離る可らざる要素として心意又は思想を有するもの也。吾人も心意又は思想を以て最後の結果となして之を除去せざれば、先づ其出立せる問題の資料として之を除去せざるべし。先づ其出立せる問題の資料として之を除去せざるべし。先づ其出立せる問題の資料として之を除去せざるべし。先づ其出立せる問題の資料として之を除去せざるべし。

唯物論

驗的事實に非ずして、思想の所産に外ならず。彼等は感覺以上の事物を輕蔑すれ共、統一、多様、異同、原因、結果、性質等の如き範疇を用ひ、之を用ゆることなくしては一步も進むこと能はず。これは唯物論者は心意を排斥し乍ら、之を排斥せんために心意を默認し、心意を使用することなれば、事實に於ては無意識的唯心論者にして、亦以て唯物論の立ち難きを知るべき也。次に唯物論は器械的原因を以て主要の原理とす。無機物より有機物の智力に至る迄、一切の現象を悉く之に依りて説明せんとするに在れ共、此原理は果して之を一様に適用し、有機物のみならず、生命及び思想に對する明晰なる解説を之より引き出し得べきや。生物學者の既に依れば、絶然たる化學的要素より生命を生じたる例未だ嘗て之れあらず。故に先在的生命の力を離れて生命の進化あるべしとのことは、尙根據なき假説に過ぎず。又生命の形質的基礎也と假定せられたる原形質は之を單に化學的化合物也となし難しとのことなれば、假りに一步を譲りて、或る意義に於ては物質は其中に生命の能力を有すべきいふを得べしとするも、又無機物物質の或る状態、若くは無機物物質の活動の或る形状の下に、生命は其存在を顯はし得べしとするも、無機物の自然同一範疇の中に有機物の自然を包含し、若くは器械的原因の原理を生命の現象に適用し得べしとざるは依然として同じ。何となれば吾人が生命に達する時は、其進化の前行物理的狀態の何たるに拘はらず、吾人の前に在る現象は之を把握するために、新にして且高き觀念を要求すれば也。換言すれば、吾人は無機物を去りて有機物に達する時、吾人の心意を以て勢力若くは動因の觀念より、更に複雜せる自因又は自發

唯理説。婦人

達の觀念に移らしむる者に遭遇す。而して機械的現象は假りに無機物現象の結果也とするも、之を領解するは唯新にして是より高き範疇の功にのみ依り。此新にして且より高き範疇に於て、吾人はより豐富なる運動に於てそれ自らを顯現し、且之を領解するのために、より高き活動を要する知識を有す。而して思想のより豐富なる運動は少くも組織若くは組織的一致の觀念、内在的若くは自ら保持する組織的一致の觀念及び自意識あるものに於てのみ完全に顯現せる一致の觀念を含蓄す。而して斯る觀念が器械的原因の原理に依りて解釋し難きは明なることにして、唯物論は此處に至りて脆くも倒れざるを得ず。『ルースの『辨解學』ハッソンの『有神論』ケイアットの『宗教哲學論』等を見よ。』

ヲの部

婦人 Woman. 雜語

此條舊新約聖書に於る婦人の地位、教訓を畧説す。(一) 舊約及び猶太教に於る婦人 舊約時代に於る猶太の宗教は、後世の猶太教及び回教に於るが如く、婦人を以て全く男子に風從すべき者也となす。セミチック人種は凡て婦人に相當の特権を與へたりしが如し。此等は古代亞則比亞の宗教に於て女神が重要な地位を占めたりしに依りて明也。又巴

ヲの部 婦人

比倫アッスリヤ、フェニキヤの宗教に於ても、婦人が高き地位を占めたりしこと、其女神に與へたりし地位に依りて知るべし。舊約には婦人が偶像禮拜の主導者たりし例證を記す。例之アサの母マアカがアッラ像の禮拜を輸入せしが如き(王上十五の十三)イゼベルがアッラ像の預言者を保護して、エホバの預言者を迫害せしが如き(十八の四、十九、エリサレムの婦女等が天后を拜したりしが如き(耶七の十八)又彼等が巴比倫の日神を拜したりしが如き(結八の十四)是也。されば當時の婦人が以色列の宗教に於ても亦之と同様の地位を取りたりしこと察し難からず。今之を證せん、(一) 以色列の婦人は男子と同じく殆ど凡ての宗教上の特権を有したり。即ちハンナがソロに於て祈りしが如く、彼等は祈禱の特権を有せり(母前一の九)彼等は凡て宗教上の集會に列することを得たり(士廿一の十六、十九、母前一の二、二の十九、母後六の十九、申十二の十二)十三の廿、利十の十四)彼等は又ナザレ人の尊顔を立て(民六の二)エホバに問ふことを得(創廿五の廿二)エホバ又彼等に顯はれ給へり(十六の七、廿一の十七、十八の九等)。(二) 婦人は又宗教上重要な職掌を有したり。即ち彼等は口寄せをなし(母前廿八の七)葬式の時働かし(耶十六の七、米五の廿八)暮展、神殿に奉仕し(出廿八の八)戰勝其他の吉時に歌ひ又は踊り(出十五の廿、士十一の廿四、母前十八の六、詩六十八の廿五)神殿の禮拜に男子と共に歌班を作れり(喇二の六十五)又以色列の歴史には女預言者の常に起れるを見る。ミリアム(出十五の廿)デボラ(士四の四、五)ハルダ(王下廿二の十三)の如き是也。基督の當時に在りては、婦

婦人

人は神殿に往きて神を拜したれ共『婦人の庭』にてのみ之を爲すを得たりしが如し。又會堂に於ても男子と共に禮拜をなしたれ共、彼等より離れて坐したりしが如し。猶太人は小兒の教育を重じたりしが、男子に對しては女子よりも更に進みて律法の嚴密なる事まで教へたりしが如し。(二) 新約に於る婦人 福音書に於て吾人は婦人の表面に顯はれ來れるを見る。路加傳に於て殊に然りとなす『我心を崇め』の歌は果してマリアの作なりや甚だ疑はしけれ共、アソナの女預言者なりしことば明也(二の廿六)耶蘇は男子の中に於けると同じく婦人の間に傳道し、又彼等の病を愈せり。耶蘇及び使徒等を支給したりし婦人なりき(八の一、三)耶蘇の死後最先に墓に往きし婦人なりき。使徒時代に至り、彼得は獄を遁れて弟子等に逢はんとため、先づエリサレムの或る婦人の家に往けり(徒十二の十二)ヨッパにて多くの善事と施濟とをなしたりしは、タピタなる婦人の弟子なりき(九の廿六)歐羅巴に於る保羅の最初の改心者はルテヤと稱する婦人にて、保羅は其一行に其家に宿れり(十六の十四、十五)アゴロの教を聞きたるはプリスキラにて、其名は夫アクラの前に記されたり(十八の廿六)テモテの信仰は其母と祖母の信仰に基けるが如く記されたり(提後一の五)約翰第二書に婦人に贈られたるものとして『約翰第二書』の條を見よ。然れ共耶蘇の選みたる十二使徒の中には婦人なく、彼が傳道のため遣はしたる七十人の弟子の中にも、婦人なかりしが如し(路十の一、廿)又新約文籍の中には婦人の手に依りて成りたる者なし(ハルナツクは希伯來書を以てプリスキラの作也となしたれ共臆説に過ぎず)然れ共ヘンテコステの日に婦人も

婦人

列席し、共に聖餐の降臨を受けたりしが如し(徒一の十四、二の一、四)保羅はコリント教會の婦人が祈禱を爲し、預言を爲すことを承認し、唯之を爲す時には物を蒙るべしとのことを告げたり(哥前十一の五)然るに保羅は後に至り『聖徒の諸教會の如く爾曹の婦女等も教會の中に黙すべし、彼等の語るを許さず、彼等は律法に云へるが如く順ふべき者也、もし學ばんとする所あらば室に在りて其夫に問ふべし、蓋婦女教會に於て語るは唯つべきことなれば也』と告へり(哥前十四の廿四、廿五)思ふに此は當時コリント教會の婦人が、稍もすれば婦徳を損するが如き行爲をなす者ありしを以て、基督教師たる者は萬事内氣なるべく、貞節を主とすべく、寡言沈黙なるべきを教へたる者にして、祈禱をなし預言を爲すことを禁じたるに非ず。但し保羅が婦人の男子に従順なるべきを教へたるは明なることにして、彼は『婦なる者、主に従ふが如く己の夫に従ふべし』と云々告へり(弗五の廿二、廿三)然れ共彼は又之と共に夫の愛すべきことを云ひて婦人の義務を承認し、男女間の關係に關する最も高尚なる觀念を表示せり。且彼は基督に在りては奴隷或は自主、男或は女の區別なしとのことを告へり(加三の廿八)是れ即ち神の前に在りては、男女の地位に尊卑の別なきことを云へる者にして、新約の教訓は奴隷の解放と均しく婦人の解放を教ふる者也。(三) 基督教と婦人 奴隷の解放が漸次に爲されたるが如く、婦人に關する新約聖書の精神が一般に領解せらるるに至りしは漸次的事なりき。中世の基督教は厭世的傾向を帶び、禁慾主義に重きを置きたりし結果、婦人を以て罪惡の素因となして之に反對し、童貞の生涯を稱賛し、彼等のために尼院を開き

女の部 女執事

たりき。近代婦人解放の運動は第十七世紀佛蘭西に於て開始せられたるを初として、第十九世紀に至り泰西諸國に於ける婦人の地位は著しく高められ、宗教、博愛、慈善、科擧、醫術等の方面に於て婦人の頭はしたる功績頗る大也。高等の教育は獨り男子のみ受くべき者也として、諸大學は獨り男子にのみ其門戸を開きたりしが、近時女子にも其門戸を開き、男子と均しき學位を女子にも與ふるに至り、婦人の地位の斯の如く漸次高めらるるに至りしは、基督教の感化與りて力ありと雖も、新約の教ふる所は唯婦人の價值は男子と異なることなしとの義にして、兩性間に存する生理的相違、從て之れより生ずる才能、職業等の相違に關しては基督教の關する所非ず。婦人の地位如何に高まるも、夫婦の關係に關する保羅の教訓(弗五の廿二-廿三)は變ずべきに非ず。

女執事 Deaconess. **職名** 新約聖書に於て女執事に關し明確に記したる處なし。腓一の一及び提前三の八-十三に執事のことを記したれ共、女執事に明に言及せず。提前三の十一の邦譯には女執事の語あれ共、此は單に執事の妻を云ひしに過ぎざるべし。羅十六の一に記されたるケンクレアのフイイは「教會の僕」を呼ばる。原語は diakonos として、改正英譯には deaconess を譯し、邦譯には執事とあり。保羅の推薦狀を携へて往きたりしを見れば、フイイは思ふに教會のために働かんとして旅行しつゝありし者なるべし。提前五の三十一-十六の「貧婦」及び多二の三の「老婦」を女執事と同一視するものあり共承認し難し。執事及び女執事の職務に關しては新約聖書は何事をも記載せず。然れ共其名目より察するに、貧し貧民を救濟し、病者を助け、獄に在る

女執事

者を見舞ふ等の事を掌りし者なるべし。女執事に關し最も早く言及せる者をアリニの書也とす。クリソストモス。エヒブアニウス。テルチウリアヌス。も此職の初代教會に存在したりしことを證言せり。第七世紀に至り羅馬教會は之を廢せり。希臘教會に於ては第十二世紀の終り頃迄存在せしが、國家が貧民を救濟し病者を助くるの事業を取るに至りて全く消滅したり。

女執事養成所 (Training of Deaconess) は近代新教會の創立に係り、一八三六年カイセルスウェルン、カン、ゼライン (Kaiserwerth-on-the-Rhine) の牧師フリードチル (Friedrich) が適當なる看護婦の必要を感じ、之を養成せんとしてウエストフアリアのレニッ州のため女執事職を組織し、カイセルスウェルンに病院を開き女執事養成所を設立したるを以て嚆矢とす。此養成所は三種の女執事を教育せり。即ち第一種は看護婦にして、其一身をマリアン養育院の病人及び貧民の看護に捧ぐ。第二種は教育事業に一身を捧げ、第三種は教會區女執事にして、牧師を助けて傳道に従事せり。女執事たらんとする者は相當の教育ある者にして、基督教的品性を有し、身體壯健にして未婚者若くは寡婦たるべく、年齢は十八歳以上四十歳以下にして、少くも五年其職に従事するを要せり。此養成所は忽にして大なる發達をなし、獨逸國內に多くの養成所を有したりしのみならず、コンスタンチノブル、エルサレム、亞歷山に病院を創立し、又ヌムルナ、フロレンス等に女執事の神學校を有するに至りたりき。且各國に於ける養成所の模範となり、巴理に於ては一八四一年、ストラッブル及びセント、ループに於ては一八四二年、ドレスデン及びウットレヒトに於ては一八

女執事

四四年、ハルンに於ては一八四五年、ストックホルム及び柏林に於ては一八四七年同様の養成所を設立するに至り、フロレンス、ナイチンゲール嬢が倫敦婦人保養院長の事務を取る前には、フリードチルの養成所にて教育を受け、フライ夫人もカイセルスウェルンに遊びて其組織を視察して後、倫敦に於て同様の養成所を設立したりき。又北倫敦の女執事養成所も一八六一年大陸の組織に從て設立せられたり。一八四九年フリードチルは四人の看護婦を伴ひて米國に航し、ヒットブルクに同様の養成所を設立せり。爾來此種の養成所は各國に於て大なる發達を爲せり。

附 錄

基督教會年表

(舊約時代の年代は本書『舊約聖書の年代』の條、新約時代の年代は同『新約聖書の年代』の條に出づ。)

- 紀元八一 ドミティアヌス羅馬帝となる(九六年迄在位)。
- 九八 トラヤヌス羅馬帝となる(一〇七年迄在位)。
- 一〇七(一〇五?) アンテオケのイグナチウス殉教。
- 一〇七 ハドリヤヌス羅馬帝となる(一三八年迄在位)。
- 一一八 ハドリヤヌス帝基督教徒追放令を出す(後之を廢す)。
- 一二五(乃至一三〇) パシリデス死す。
- 一三〇 ハドリヤヌス帝エルサレムを再建す。
- 一三八 アントニウス、ヒュヌ羅馬帝となる(二六一年迄在位)。
- 一四〇(乃至一五〇) マルキオヌス羅馬帝に來る。此頃ヴァレンチヌス羅馬の哲學者として名あり。
- 一五五 ポリカルプミアミケタヌスの間に晩餐論等起る。
- 一五六(一七二?) モンタヌス預言者として顯はる。
- 一六一 マルクス、アウレリウス羅馬帝となる(一八〇年迄在位)。彼斯と羅馬との戰爭(一六六年に至る)。
- 一六五 ニュスマヌス殉教。
- 一六六(一五五?) ポリカルプ殉教。
- 一七七 基督教徒リオン及びウィンナに於て迫害せらる。
- 一七八 イレニウス、リオンの監督となる。
- 一八〇 コモドス羅馬帝となる(一九二年迄在位)。
- 一九六 ヲイクトルとポリクラテヌスの間に晩餐論争起る。
- 二〇二 テルチウリアヌス、モンタヌス派に歸す。
- 二二〇 亞歷山のクレメンヌス死す。
- 二二二 羅馬帝セツセラヌス彼斯を征す。
- 二三五 マキシミヌス、トラクス羅馬帝となる(二三八年迄在位)。
- 二四〇 ヒッポリトス死す。
- 二四三 アムモニウス、サッカス死す。
- 二四八 羅馬建國一千年祭を行ふ。
- 二四九 テキウス羅馬帝となる(二五一年迄在位)。
- 二五〇 テキウス帝基督教徒を追害す。
- 二五三 ヲウレリアヌス羅馬帝となる(二六〇年迄在位)。
- 二五四 ガリゲヌス死す。
- 二五五 異端者の洗禮に關する論争起る。
- 二五八 クプロアヌス死す。
- 二六〇 ガリエヌス羅馬帝となる(二六八年迄在位)。
- 二六二 サベリウスと亞歷山のディオニシウスの争論に對する羅馬會議開かる。
- 二六九 サモサタのパウルに對するアンテオケ第三會議開かる。
- 二七六 マニ死す。
- 二八四 テイオクレチアヌス羅馬帝となる(三〇五年迄在位)。
- 二八六 北人羅馬を侵す。
- 二九二 テイオクレチアヌス帝羅馬を四分す。
- 三〇三 テイオクレチアヌス帝大に基督教徒を追害す。
- 三〇六 基督教徒の迫害を禁ず。埃及のメレタイウス派起る。
- 三二二 ドナチヌス派亞非利加に起る。
- 三二八 アリウス異端の宣言を受く。

附 錄

三三三 コンスタンチヌス大帝羅馬を統一す(三三七
年迄在位)。
三三五 第一回世界會議ニカヤに開かる(アリウス派
罪せらる)。
三三〇 コンスタンチヌス大帝首府をビザンチウムに
移す。アンテオケのメレティウス派起る(四
一五年に至る)。
三三五 ヲロの會議開かる。
三三六 アタナシウス放逐せらる。アリウス死す。
三三七 コンスタンチヌス大帝死す。其子三人帝國を
三分す。
三四一 アンテオケの會議開かる。
三四三 シャブル二世の下に基督教の迫害行はる。
三四四 サルティカの會議開かる。
三四六 フォチヌスに對するミラン會議開かる。
三四八 ヴルフイラス、ゴスの監督なる。
三五〇 コンスタンチヌス帝羅馬を統一す(三六一
年迄在位)。
三五五 ミランの會議開かる(アタナシウス、アリウ
ス派に依りて罪せらる)。
三六一 エリアン、セ、アポストロト羅馬帝なる(三
六三年迄在位)。
三六二 亞歷山の會議開かる(アタナシウスを追放
す)。
三六四 ヴァレンチニアヌス一世羅馬帝となり帝國を
二分し自ら西部を統治し、弟ヴァレンス
東部を統治す。
三六六 マクソス一世羅馬監督なる(三八四年迄在
位)。
三六八 ホアチエのヒラリー死す。
三七三 アタナシウス死す。

三七四 アムブロシウス、ミランの監督なる。
三七九 カイザリヤの監督パシロス死す。テオドシ
ウス大帝羅馬帝なる(三九五迄在位)。
三八一 第二回世界會議コンスタンチノーブルに開
る。ウルフイラス死す。
三八三 イエロニムス聖書の拉丁譯を初む(四〇五年
大成す)。
三八四 シリキウス羅馬監督なる(三九八年迄在
位)。
三九〇 ナジアンソスのクレゴリウス死す。
三九五 羅馬帝國分裂し、長く東西二部となる。東帝
國首府をビザンチウムに定む。アウグスチヌ
ス、ヒッポの監督なる。
三九七 アムプロシウス死す。
三九九 ルフイヌス羅馬にてカリゲヌス徒也とて附せ
らる。
四〇〇 ツールのマルチン死す。
四〇二 インノーセント一世羅馬監督なる(四一七
年迄在位)。
四〇三 エピファニウス死す。
四〇七 クリソストモス死す。
四〇八 テオドシウス二世東羅馬帝なる(四五〇年
迄在位)。
四一五 ペラギウス糾問のためエルサレム及びディオ
スポリスの會議開かる。
四一六 ペラギウス糾問のためミラージュ及びカルセ
ジの會議開かる。
四一八 カルセージの總會開かる。ユウラリウスと
ホニファキウスとの間に羅馬監督位の争起
る。
四二〇 イエロニムス死す。ヘーラム五世基督教徒を
迫害す。

四二二 クレスチヌス一世羅馬監督なる(四三二年
迄在位)。
四二八 チヌトリウス、コンスタンチノーブルの教長
なる。
四二九 モプスエスチアのテオドル死す。
四三〇 クリロス宣現せらる。アウグスチヌス死す。
四三一 第三回世界會議エパソに開かる。
四三二 聖パトリック愛蘭に傳道す。ヨハネ、カッシ
アヌス死す。
四四〇 レオ一世羅馬監督なる(四六一迄在位)。
四四四 亞歷山の監督クリロス死す。ディオスコルス
カリロスに繼ぐ。
四四五 羅馬帝ヴァレンチニアヌス三世羅馬監督は全
基督教會の首長として立法及び司法の最高權
を有するを承認する旨の勅令を發す。
四四八 エウテイケス、コンスタンチノーブルに於て
破門せらる。
四四九 エパソの『盜賊會議』開かる。アングロ人サ
キソン人等アリテーンを襲ふ。
四五一 第四回世界會議カルケドンに於て開かる。
四五七 テオドレトス死す。
四五九 中ペラギウス説に關する會議アールス及びリ
オンに開かる。
四七六 四羅馬帝國滅亡す。
四八二 セヴェリヌス死す。
四八四 東西兩教會三十五年間の紛争初まる。
四九二 ヴラウシウス一世羅馬監督なる(四九六年迄
在位)。
四九六 フランク人基督教を信す。クロウイス洗禮を
受く。

附 録

五二七 ユスチニアヌス一世東羅馬の帝位に登る(五
六五年迄在位)。
五二九 マクシムス派起る。
五三三 ヴァンダル帝國滅亡す。
五四四 スキー、チアプタルス(The "Three Chaple-
rs") 罪せらる。
五五三 第五回世界會議コンスタンチノーブルに開
る。
五五四 オストロゴス帝國滅亡す。
五六三 プラガの會議開かる。聖コロムバ、ビクト人
及びスコット人の間に傳道す。
五七〇 モハメッド生る。
五八九 トレドールの會議開かる。コロムバヌス及びガ
ロス佛蘭西のウオスシュの曠野に僧院を設
く。
五九〇 グレゴリウス一世羅馬監督なる(六〇四年
迄在位)。
五九五 ツールのクレゴリウス死す。
五九六 アウガスチン宣教師として英國に往く。
五九七 聖コロムバ死す。エテルナルト洗禮を受く。
六〇六 フォカス帝羅馬監督の至上權を承認す。
六〇九 アンテオケの猶太人基督教徒を屠殺す。
六一一 ヘラクリウス東羅馬帝位に即く(六四一年迄
在位)。モハメッド宣教を開始す。
六一五 コロムバヌス死す。
六二二 モハメット、メッカに出奔す(之を回教の祖
元とす)。
六二五 オノリウス二世法王なる(六三八迄在
位)。
六三六 セツールのイシドル死す。
六三七 回教の教主オマル、エルサレムを征服す。

六四〇 オーマル埃及を征服す。
六四二 コンスタンチヌス二世東羅馬の帝位に即く(六六
八年迄在位)。サラセン人大に波斯軍を敗る。
六四六 聖ガルス死す。
六四七 サラセン人亞非利加及びクプロ島の覇權を握
る。
六四九 マルチン一世法王なる(六五三年迄在位)。
六五九 第一回拉丁會議開かる。
六五九 サラセン人東羅馬帝コンスタンチヌスと協和し、
歳費を納るゝを約す。
六六二 マキシムス(僞導師)死す。
六七二 サラセン人、ゴス王のために西班牙より逐斥
せらる。
六七七 ヴイルフリッド、フリジヤ人に傳道す。
六七八 アガト一世法王なる(六八二年迄在位)。
六八〇 第六回世界會議コンスタンチノーブルに開
る。
六八七 カロリウシア家のヘビシ、フランク王國の全
權を握る。
六九六 ルーヘルト、バヴァリヤに傳道す。
七一〇 サラセン人西班牙を征服す。
七一一 シャール、マルテル佛國の全權を執る。
七二四 アンゴリウス二世法王なる(七三一年迄在
位)。英國の僧ホエフニス日耳曼に來り傳道
す。
七二七 レオ三世東羅馬の帝位に即く(七四一年迄在
位)。
七二六 レオ帝偶像禮拜禁止令を出す。國內ために甚
然たり。
七三〇 レオ帝再び偶像禮拜禁止令を出す。
七三一 グレゴリウス三世法王なる。

七三二 シャール、マルテル、サラセン人を敗りフラ
ンク帝國を授ふ。ホニフェウス大監督及びア
ホストリツク、ゲイカルなる。イリア羅馬
監督區より分離す。
七四一 シャール、マルテル死す。グレゴリウス三世
死す。レオ帝死す。ザカリヤ法王なる(七
五二年迄在位)。コンスタンチヌス、ゴプロニ
ヌス東羅馬帝なる(七五五年迄在位)。
七四五 ホニフェウス、メンツの大監督なる。
七五二 ハビシ、セ、ショート、メロザインツア朝最
後の王ナルナリクを襲ひ、自らフランク帝
となり、カルロヴィアン朝を立つ。羅馬法王
の政權漸く發展す。
七五四 偶像破壞に關する會議コンスタンチノーブル
に開かる。ハビシ法王領地を奪還す。
七五五 ホニフェウス死す。
七六八 シャールマン子、ヘビシに繼ぎフランク帝位
に登る(八一四年迄在位)。
七七二 ハドリアヌス法王なる(七九五年迄在位)。
七七四 シャールマン子、ロンバルド王國を滅じ以太
利國王なる。羅馬法王に領地を奪還す。
七七七 第七回世界會議ニカヤに開かる。僧尼及び寺
院附屬の學校諸處に立てらる。
七八九 ノルマン人初めて英國に侵入す。
七九四 フランクフォルトの會議開かる。シャールマ
ン子大に匈奴を敗る。
七九五 レオ三世法王なる(八一六年迄在位)。
八〇〇 レオ三世シャールマン子の戴冠を行ふ。
八〇四 サキソン戦争終る。アルクイン死す。
八一三 レオ東羅馬帝なる(八二〇年迄在位)。
八一四 シャールマン子死し、其子ルイ(敎皇王)繼

附 録

八二六 東羅馬天災葬りに至り国力疲弊す。
 八二七 アニキヤンのパテイクトス寺院制度を改革す。ロー其樹を三子に分つ。
 八二八 ミカエル、バルバス東羅馬帝となる(八二九年迄在位)。
 八二九 偶像禮拜反對の會議(巴理)に開かる。
 八三〇 アンソガルドに即位す。
 八三一 ウエセックス王英蘭を統一す。サラセン人シリーを征服す(八七八年に至る)。
 八三二 テオフィラス東羅馬帝となる(八四二年迄在位)。
 八三三 ハムブルクの大監督區設立せらる。
 八三九 ツーリンのクラウディウス死す。
 八四〇 シャール(禿王)フランク王位に登る(八七七一年迄在位)。
 八四二 テオドラ、パツリシアン派根絶の議を薦じ。バスカツス、ラドバルタス、晩餐化體統を唱ふ。
 八四五 レンヌのセントマル、佛王シャルに推され、レンヌの大監督となる(八八二年迄在位)。
 八四六 サラセン人羅馬に侵入す。
 八四八 マインツの會議開かる(ヒットシナルクを異端と宣告す)。
 八五〇 基督教徒西班牙にて迫害せらる(八五九年に至る)。
 八五五 グアレンヌの會議開かる(ヒットシナルクを庇護す)。
 八五六 ラバヌス、マウリス死す。
 八五八 ニコラス二世法王となる(八六七年迄在位)。
 八六〇 フォチウス、コンスタンチノープルの教長となる。
 八六三 グリゴロス及びメトディオス、モラヴィヤに往く。
 八六五 アンソガルド死す。
 八六六 フォチウス回文を教し、拉丁教會を異端と宣言す。
 八六七 パール東羅馬帝となる(八八六年迄在位)。
 八六八 ハドリアヌス二世法王となる(八七二年迄在位)。
 八六九 第八回(拉丁)世界會議コンスタンチノープルに開かる。
 八七一 パウル帝バウリシアン派を抑壓す。アルフレッド英蘭王となる(九〇一年迄在位)。
 八七五 法王ヨハネ八世シャル(禿王)の戴冠を行ふ。
 八七九 第八回(希臘)世界會議コンスタンチノープルに開かる。
 八八六 レオ(哲學者)東羅馬帝となる(九一年迄在位)。
 八九一 フォチウス死す。
 九〇一 アボット、ベルノ、ケルニーを建つ。
 九〇二 コンラド一世日耳曼王となる(九一八年迄在位)。
 九〇四 ヨハネ十世法王となる(九二八年迄在位)。
 九一五 英王エドワード(無名)に大學を建つ。
 九一九 マインツに一日耳曼王となる(九三六年迄在位)。
 九三四 マインツに一日耳曼王となる(九三三年迄在位)。
 九三六 オット一世日耳曼帝位に登る(九七三年迄在位)。
 九四二 クレミーニのオド、クレミーニ修道會を起す。
 九五〇 匈牙利のキラス洗禮を受く。
 九五五 オルガ、コンスタンチノープルに於て洗禮を受く。
 九六一 オット二世以大利王ベレンジャー二世の位を奪ふ。於是以大利の王位佛帝より移りて日耳曼の羅馬神聖帝國を起す。
 九六二 日耳曼王オット一世羅馬の帝位を復興し、日耳曼の羅馬神聖帝國を起す。
 九六三 羅馬會議法王ヨハネ十二世を廢す。
 九六六 波蘭王ミロシスラフ洗禮を受く。
 九六八 マケドニアの大監督區設立せらる。
 九七〇 パウリシアン派スレスに移る。
 九七三 オット二世日耳曼帝位に登る(九八三年迄在位)。
 九八三 オット三世日耳曼帝位に登る(一〇〇二年迄在位)。
 九八七 ヒッ、カペル佛蘭西の王となる(ヒッ、カペル朝は一三二八年に至る)。
 九八八 基督教徒西亞に入る。クラヤミル露國の教化に努む。
 九九六 クレゴリウス五世法王となる(九九九年迄在位)。
 九九七 普魯士の使徒ブライクのアゲルベルト死す。スタフェン一世グーサーに嗣ぎて匈牙利を治め(一〇三八年迄在位)基督教徒を兩教となす。
 九九九 シルヴェステル二世法王となる(一〇〇三年迄在位)。
 一〇〇〇 オラフ、トリケヴァソン死す。基督教徒

一〇〇二 マインツに一日耳曼帝位に登る(一〇二四年迄在位)。
 一〇〇八 瑞典のオラフ、スカウトヨシク洗禮を受く。
 一〇〇九 アルノー殉教す。
 一〇二二 パテイクトス八世法王となる(一〇二四年迄在位)。
 一〇二四 カニサト全英國の王となる(一〇三六年迄在位)。
 一〇二四 コンラド二世日耳曼帝となる(一〇三九年迄在位)。
 一〇二五 カニサト大王基督教徒に改宗す。
 一〇三〇 諸威のオラフ、セ、シック死す。
 一〇三一 西班牙に於けるオムマイド(カリフ)朝頓覆す。
 一〇三九 マインツに一日耳曼帝位に即く(一〇五六年迄在位)。
 一〇四二 エドワード(懺悔者)英國王となる。
 一〇四六 マインツに三世ストリに會議を開き、法王候補者を斥け、自らクレメント二世を選びて法王となす。
 一〇四九 ヨハネ九世法王となる(一〇五四年迄在位)。
 一〇五〇 羅馬及びヴェネツィアに會議を開き、晩餐化體統の否定者ツールのメンガリスを罪す。
 一〇五四 希臘教會羅馬教會と全く分離す。
 一〇五六 マインツに四世日耳曼帝となる(一一〇六年迄在位)。
 一〇五九 法王ニコラス二世、法王の選舉はカルデア教會に於てすべきことを令す。
 一〇六六 ノルマンディー公ウイリアム英國に侵入し、ノールド二世を破り英國王となる。
 一〇七三 クレゴリウス七世(ホルテブラント)法王となる(一〇八五年迄在位)法王日耳曼帝マインツに四世と争ふ。
 一〇七四 クレゴリウス七世僧官賣及僧の妻帶禁止に就き會議を開く。
 一〇七五 クレゴリウス七世叙任停止に就き會議を開く。
 一〇七六 マインツに四世クレゴリウス七世を廢せんとしてウァレムスに會議を開く、法王も亦帝を廢せんとして日耳曼諸侯と相結ぶ。
 一〇七七 マインツに四世自らカノッサに至り謝罪す。
 一〇八〇 マインツに四世クレゴリウス七世を廢し、ギバルトを立て、法王となす。
 一〇八四 マインツに四世クレゴリウス七世をサントアンゼロ城に閉じ、ロベルト、ギスカルド法王を接ふ。
 一〇八六 コロンのパルルー、カルツツアン僧派を建つ。
 一〇八八 ウルバン二世法王となる(一〇九九年迄在位)。
 一〇九三 アンセルム、カンターベリーの監督となる。
 一〇九五 ウルバン二世ヒアセンザ及びクレモントに會議を開き、聖地回復のため十字軍を起すことを宣告す。
 一〇九六 第一回十字軍起り、ゴットフリー、バルドウィン、ロバル等之に將として聖地に向ひて進軍す。
 一〇九七 十字軍ニカナを取り、トリウマに於てニコラム王を破る。
 一〇九八 十字軍アンデホクを取る。シトーのロマント、シタルシアン僧派を建つ。
 一〇九九 十字軍エルサレムを取る(第一十字軍の終り)パスカリス二世法王となる(一一一八年迄在位)。
 一一〇六 マインツに五世日耳曼帝となる(一一二五年迄在位)。
 一一〇九 カンターベリー大監督アンセルム死す。
 一一一一 マインツに五世法王パスカリス二世を捕へ叙任の全權を強制す。法王マインツにのたみに即位の式を行ふ。
 一一一二 パスカリス二世、マインツに五世に與へし許を廢し王を破門す。
 一一一三 クレヴァグキーのベルナルド、シトー僧院に入る。
 一一一八 ナイト、テムプアラ僧派起る。
 一一一九 カリクスタス二世法王となる(一二二四年迄在位)。
 一二二二 ウァレムスの宗教條約成る。日耳曼帝マインツに五世法王カリクスタス二世と會し、僧官叙任の争を定め、僧の自由選舉を許す。
 一二二三 第九回世界會議(第一回ラテラン)開かる。
 一二二四 パムベルクのオットー第一傳道旅行に上る。
 一二二八 パムベルクのオットー第二傳道旅行に上る。

- 一一三〇 インノーセント二世法王となる(一一四三年迄在位)。
- 一一三八 コンラド三世日耳曼帝となる。
- 一一三九 第十回世界會議(第二回ラタラン)開る。
- 一一四一 センスの會議アムールの文書を却す。ザイクトルのユーゴール死す。
- 一一四二 アベラール死す。
- 一一四四 ユチック製建築盤に行はる。
- 一一四五 ユヴェニアム三世法王となる(一一五三年迄在位)。
- 一一四六 エアッサ降る。
- 一一四七 第二十字軍起る。コンラド三世、佛王ルイ七世之に將たり。
- 一一四八 十字軍がマスコを圍めて克たす。
- 一一四九 十字軍聖地より歸る。
- 一一五二 フリードリヒ一世(ホルンロツサ)日耳曼帝となる(一一九〇年迄在位)。
- 一一五三 タレブグオーのマルナル死す。
- 一一五四 ハドリアヌ四世法王となる(一一五九年迄在位)。
- 一一五五 プレシアのアルノール殺さる。
- 一一五六 カルメル派起る。
- 一一五七 基督教分團に入る。
- 一一五九 アレキサンデル三世法王となる(一一八一年迄在位)。
- 一一六〇 アルビゲンス徒起る。法王アレキサンデル三世フリードリヒを破門す。
- 一一六四 英國僧侶の権威に反抗してグランドン法出づ。
- 一一七〇 カンターベリーの大監督トマス、ベケット殺さる。ウァルタン派起る。
- 一一七七 フリードリヒ及び法王アレキサンデル三世デニムに會して和を結ぶ。
- 一一七九 第十一回世界會議(第三回ラタラン)開る。
- 一一八〇 サリヌベリーのジョン死す。
- 一一八七 サラティン、エルサレムを征服す。
- 一一八九 第三十字軍起る。日耳曼帝フリードリヒ一世英王リチャード一世佛王フィリップ二世之に將たり。
- 一一九〇 フリードリヒ一世カリカドクス河に溺死す。其子ハインリヒ六世日耳曼帝となる(一一九七年迄在位)。
- 一一九二 英王リチャード、サラティンと休戦を約し、其歸途擧國のために擧にせらる。
- 一一九四 テサロニカのエウスタチウス死す。
- 一一九八 インノーセント三世法王となる(一二二六年迄在位)。
- 一二〇一 第四十字軍起る。
- 一二〇二 フロリスのヨアキム死す。
- 一二〇四 拉丁帝國コンスタンチノールに創建せらる(一二六一年に至る)。
- 一二〇六 巴理大學の組織成る。
- 一二〇七 スタイブアン、ラングトン、カンターベリーの大監督となる。
- 一二〇九 アルビゲンス派迫害を開始し、一二二九年に至り之を撲滅す。フランセスコ僧派創立せらる。
- 一二二二 トロサの聖(アルモハーダ)家の長ハメット基督教徒と戦て敗る。是より西班牙に於ける亞利比亞人の勢力衰ふ。小兒十字軍起る。
- 一二二五 フリードリヒ二世日耳曼帝となる(一二五〇年迄在位)。英王ウヰム追られてイタリカに亡くす。第十二回世界會議(第四ラタラン)開る。デニム僧派創立せらる。
- 一二二六 カンリウス三世法王となる(一二七七年迄在位)。デニム僧派法王の准允を受く。
- 一二二七 匈牙利王アンドラーシュ二世及び諸王子第五十字軍を起す。
- 一二三三 フランセスコ派法王の准允を受く。
- 一二三六 フランセスコ死す。ルイ九世佛王となる(一二七〇年迄在位)。
- 一二三七 アレキサンデル九世法王となる(一二四一年迄在位)。
- 一二三八 日耳曼帝フリードリヒ二世第六十字軍を起す。
- 一二三九 フリードリヒ二世埃及王と平和を約し、十字軍を止む。聖地基督教徒の手に歸す。聖エリサベツ死す。
- 一二三三 宗教裁判制度立てらる。
- 一二三三 マールブルクのコンラド殺さる。
- 一二四三 インノーセント四世法王となる(一二五四年迄在位)。
- 一二四五 第十三回世界會議(第一回オクニ)開る。ハールのアレキサンデル死す。
- 一二四八 コロニ大會堂の礎石置る。佛王ルイ九世第七十字軍を起す。
- 一二四九 十字軍がミーヌを取る。牛津大學創立せらる。
- 一二五〇 ルイ九世の軍埃及人に破らる。
- 一二六〇 ミカエル、パレオロガス、コンスタンチ

- ノールを回復し、東羅馬帝の位に即く(一二八二年迄在位)。
- 一二六一 ウルバヌス四世法王となる(一二六四年迄在位)。
- 一二七〇 佛王ルイ九世第八十字軍を起す。王チエニスに戦て死す。フィリップ三世佛王となる。
- 一二七一 グレゴリウス十世法王となる(一二七六年迄在位)。
- 一二七二 マルコ、ギリシヤを初む。プリンス、エドワード聖地を放棄す(十字軍終る)。
- 一二七三 ハブズブルクのルドルフ日耳曼帝となる(一二九一年迄在位)。
- 一二七四 第十四回世界會議(第二回オクニ)開る。トマス、アクリナス死す。ボナヴェンチュラ死す。
- 一二八〇 アルベルト、ゼ、グレート死す。
- 一二八三 ナットン人五十年戦争の後普蘭士の征服を完了す。
- 一二八五 フィリップ(魔王)佛王となる。
- 一二九一 埃及及びシリアの支配者アシラフ、アクルを取る。之より聖地永く回教徒の有となる。
- 一二九二 ローシャル、ペーコン死す。ボニファキウス八世法王となる(一二三〇三年迄在位)。
- 一二九六 法王ボニファキウス八世宗教的租税に關する法令(Ordis Jacon)を發す。
- 一三〇〇 羅馬加特力教會第一回大祝賀を行ふ。ローラド徒アントウエルブに起る。
- 一三〇五 クレメント五世法王となる(一二三一年迄在位)。
- 一三〇八 マンス、スコタス死す。
- 一三〇九 法王居所をアビヨンに移す(一二三七年に至る)。
- 一三一一 第十五回世界會議ウイennaに開る。テムブラ派壓抑せらる。
- 一三二四 ルイ十世(ハザン)フィリップ四世の後を繼ぐ。
- 一三二六 ヨハネ廿二世法王となる(一三三四年迄在位)。
- 一三三二 マンテラ死す。
- 一三三二 フランセスコ派分裂す。
- 一三三七 マインテル、エックハルト死す。
- 一三三四 マチアイクト十二世法王となる(一三四二年迄在位)。
- 一三三八 英王エドワード三世佛國と戦を開く(百年戦争)。
- 一三四〇 フラのニコラス死す。トウラル、ストラムブルクに布教す。
- 一三四一 ハジカスト派(寂靜主義者)論争コンスタンチノールに於て初まる(一三五一年に至る)。
- 一三四二 クレメント六世法王となる(一三五二年迄在位)。
- 一三四六 カレル四世日耳曼帝となる(一三七八年迄在位)。
- 一三四八 フラウグ大學建てらる。黒死病歐洲を襲がす(一三五〇年)。
- 一三五二 インノーセント六世法王となる(一三六二年迄在位)。
- 一三五六 日耳曼帝カレル四世、ノールをウィックトリフを巧僧の無益なることを論ず。
- 一三六一 ヨハニス、マウレル死す。
- 一三六二 ウルバヌス五世法王となる(一三七〇年迄在位)。
- 一三六五 ウイenna大學建てらる。
- 一三六六 ハンニボ、スワンノ死す。
- 一三七〇 アレキサンデル十一世法王となる(一三七八年迄在位)。
- 一三七七 法王再び居を羅馬に移す。
- 一三七八 法王位の分争初まる(一四一七年に至る)。
- 一三八〇 シェンナのカタリナ死す。
- 一三八四 ウィックトリフ死す。ケルハルト、グレート死す。
- 一三八六 基督教がツァニアに入る。ハイデルベルグ大學建てらる。
- 一四〇二 フッス、ハツレハム、チャハルの祝教者となる。
- 一四〇九 世界會議ピサに開る(法王クレゴリウス十二世廢せらる)。
- 一四一〇 ヨハネ廿三世法王となる(一四一五年迄在位)。ギンズモンド日耳曼帝となる(一四三七年迄在位)。
- 一四一一 聖アンドリュウ大學(蘇國)建てらる。
- 一四二二 法王フッスを破門す。英王ハンリー五世立つ。
- 一四二四 第十六回世界會議コンスタンツに開る(一四一八年)。
- 一四二五 フッス殉教す。
- 一四二七 マルチン五世法王となる(一四三一年迄在位)。
- 一四三一 ニッヂニウス四世法王となる(一四四七年迄在位)。第十七回世界會議バーセルに開る。

附 録

一四九三 一四九九年に至る。英人ジョン・ダークを殺す。

一四三三 印刷術發明せらる。

一四三四 ベーティン・シエフロードのフリス教徒殺せらる。

一四三八 フォーラーの反對會議開る。

一四三九 フロレンスの會議開る。

一四四八 ウィンナの宗教條約成る。

一四五〇 聖書初めて活字にて印刷せらる。

一四五三 モハメッド二世コンスタンチノープルを陥る。東羅馬帝國滅亡す。カスチロンに於て佛軍英軍を破り、英佛百年戦争終る。

一四五七 ロウレンチウス、ツァルツル死す。

一四五八 ビュス二世法王なる。(一四六四年迄在位)。

一四六四 パウル二世法王なる。(一四七二年迄在位)。

一四六七 ボヘミア兄弟徒ローマに會す。

一四七一 トマス、アケムニス死す。シタスタス四世法王なる。(一四八四年迄在位) 葡萄牙人初めて赤道直下を過ぐ。

一四八三 マルチン、リッテル生る。西班牙に宗教裁判所起る。

一四八四 インノーセント八世法王なる。(一四九三年迄在位) ツウイングリー生る。

一四八五 ルドルフ、アクリコフ死す。

一四八九 ジョーン・ウツセル死す。

一四九一 サウナナローラ聖マルコ院長なる。

一四九二 アレキサンデル六世法王なる。(一五〇三年迄在位) グラナダ陷る。コロムブス、キリバ島を発見す。

一四九三 マキシミリアン一世日耳曼帝なる。(一五

一九九七 一九九九年迄在位) コロムブス西班牙に歸り再び航海を始む。

一四九七 メランクトン生る。カボット北亞米利加大陸を発見す。ヴァスコ、ダマ喜望峯を廻り印度洋に航す。

一四九八 サウナナローラ焚殺せらる。

一五〇二 ウィンテンベルグ大學建てらる。コロムブス第四回の航海をなす。

一五〇三 エリクス二世法王なる。(一五二三年迄在位)。

一五〇六 エリクス二世羅馬聖彼得大會堂を建つ。葡萄牙人マダガスカル島を発見す。

一五〇八 ルーテル、ウィンテンベルグ大學の教授なる。ラファエル繪畫の面目を改む。

一五〇九 カルヴァン生る。英王(ヘンリー八世立つ) (一五四七年迄在位)。

一五一二 ルーテル羅馬に往く。ピサ會議開る。

一五二二 ルーテル神學博士の學位を受け、且説教者なる。第五回ラテラン會議開る。(一五二七年に至る)。

一五二三 レオ十世法王なる。(一五二一年迄在位)。

一五二四 ロイロリン、ドミニコ派争ふ。

一五二五 ヴォルゼー、英王(ヘンリー八世)に依り大法官せらる。

一五二六 エラスムス新約全書を出版す。ツウイングリー、マリア、アインジールにて説教す。

一五二七 ルーテル九十五箇條をウィンテンベルグ教會の門扉に掲ぐ。葡萄牙人明國に通商す。

一五二八 ルーテル、アウクスブルグ會議に出赴す。メランクトン、ウィンテンベルグ大學の教授なる。

一五二九 カレル五世日耳曼帝となり、西班牙、ネーデルラント等の王を兼ね。ルーテル、エックマン、ライプチヒにて討論す。ツウイングリー、ツウリヒに於て説教す。オラフ及びローレンス、パテルン瑞典に傳道す。イェーラン初めて地球を一周す。

一五二〇 法王ルーテルを破門す。丁抹王クリスチア二世瑞典を侵す。

一五二二 ルーテル、カレル五世の召喚に應じウォルムスの國會に出づ。メランクトンの『ロキ』出版せらる。

一五二二 ハドリクス六世法王なる。(一五二三年迄在位) ツウイツカウの預言者起る。ロイヒリン死す。ルーテル新約全書を譯す。

一五二三 クレメント七世法王なる。(一五三四年迄在位) トマス、ミランツェル、アルステットの牧師なる。ツッキンゲン、トルフェスの大監督に降服す。

一五二四 スタウピッツ死す。カールスタッド、オルラミヴァンテの牧師なる。エラスムス、ルーテルに反對す。メンムベルグの國會開る。レンゲンブルグの同盟成る。ハンズ、タウゼン丁抹にて宗教改革を唱ふ。

一五二五 ボハン(確立者) サキソニア選侯なる。晩餐論争初まる。ルーテル結婚す。普魯士公國建つ。チンデル聖書の英譯を始む。

一五二六 ハムブルグ會議開る。トルカウ同盟成る。スパイエル會議開る。バーアンの神學會議開る。

一五二八 マルンにて討論會開る。蘇國の改革者バ

附 録

一五二九 トリック、ハミルトン火刑に處せらる。

一五二九 ルーテル、サキソニアの教會を巡視す。スパイエル第二會議開る。マルテブルグ會議開る。(ルーテル派、ツウイングリー派の人々相會す) カッセルの平和條約成る。プロテスタント教瑞典の國教なる。

一五三〇 アウクスブルグ會議開る。アウクスブルグ信仰告白定めらる。ユルニカス太陽系の説を唱ふ。

一五三一 シュマルカルド同盟成る。ツウイングリー既死す。カッセルの第二平和條約成る。

一五三二 ボハン、フレデリック、サキソニア選侯なる。メンブルグの宗教平和條約成る。英王(ヘンリー八世)羅馬法王の教權を否認す。

一五三四 ルーテル聖書の翻譯を大成す。アナバプテリスト徒ミウンステルに起る。パウル三世法王なる。(一五四九年迄在位)。

一五三五 ヘンリー八世英國教會の首長なる。カルヴァンの『インスチテュート』出づ。

一五三六 エラスムス死す。ウィンテンベルグ、コンコルド成る。カルヴァン、ジュネヴアに居を定む。メンノー、シモンズ洗禮を受く。シユマルカルド條約出づ。アンチノミアン論争初まる。

一五三八 メレンベルグ同盟成る。カルヴァン、ジュネヴアより追放せらる。

一五四〇 イェスイト社創立せらる。スパイエル、ハゲノッ及びヴォルムスに於て宗教會議開る。

一五四一 カールスタッド死す。カルヴァン、ジュネヴアに歸る。

一五四二 フランシス、ザヴィエー東印度に傳道す。

一五四四 ケーニヒベルグ大學建てらる。

一五四五 第十九回世界會議トレントに開る。(一五四七年に至る。蘇國の改革者ツェルツ、ウインヤルト殉教す)。

一五四六 レンゲンベルグ會議開る。ルーテル死す。シュマルカルドの戰争始まる。

一五四七 エドワード六世英王なる。(一五五三年迄在位)。

一五四八 シギスムンド、アウクスタス波蘭王なる。(一五七二年迄在位) アウクスブルグ、インテリム發布せらる。

一五四九 ザヴィエー初めて鹿兒島に到着す。イェスイト派アラカワに傳道す。

一五五〇 エリクス三世法王なる。(一五五五年迄在位)。

一五五一 ザヴィエー日本を去る。

一五五二 クリフト、カルヴァン派論争始まる。ザヴィエー死す。英國教會四十二箇條の宗教條條を採用す。

一五五三 メアリー英國王位を襲ふ。(一五五八年迄在位) ヘルヴェタス焚殺せらる。

一五五五 アウクスブルグの宗教平和條約成る(ルーテル派、加特力派と和す) 最初のプロテスタント團體巴理に起る。ロドリゴ二世西班牙帝なる。(一五九八年迄在位)。

一五五六 フェルゲナンド一世日耳曼帝なる。(一五六四年迄在位) ロヨラ死す。克蘭メル火刑に處せらる。

一五五八 エリサベツ英國王なる。(一六〇三年迄在位)。

一五五九 英國宗教第一條例發布せらる。

一五六〇 ビュス四世法王なる。(一五六五年迄在位) メランクトン死す。蘇國改革法律に依て定まり、ノックス、エンンバラ聖シャイルズ教會の牧師なる。

一五六一 女王メアリー蘇格蘭に歸る。佛蘭ダリーに於て蘇國教徒神學會議開る。

一五六二 ニウケノーの亂(アマデアの亂)起る。ユウゲノー徒北米南カラライナ海岸に殖民地を建てんと欲す。伯耳羅信告白成る。英國教會三十九箇條の宗教條約定めらる。ブレニメン、カルヴァン派化せらる。ハイデルベルグ問答出づ。ライウス、ソーチヌス死す。

一五六四 カルヴァン死す。ミカエル、アンヴェロ死す。トレント會議の議定せる『法典及び法令』出づ。マキシミリアン二世日耳曼帝なる。(一五七六年迄在位)。

一五六六 羅馬教會問答出づ。ヘルヴェチック信仰告白出づ。

一五六八 イェスイト派の宣教師ウルカン京都に來り信長に謁し、教會堂創立の許可を得。

一五六九 英國加特力教徒の一換起る。

一五七〇 聖シャイメンの和約成る(加特力教徒エウゲノーと和す)。

一五七二 ジレゴリウス十三世法王なる。(一五八五年迄在位) ショーン、ノックス死す。聖バルソロメウスの虐殺。

一五七五 ライデン大學建てらる。ボヘミア信仰告白出づ。

一五七六 ルドルフ二世日耳曼帝となる(一六二二年迄在位)。
 一五七七 フォアミューラ、オフ、コンコルド成る。佛王アンリ三世ユグノー徒と和す。
 一五八二 法王グレゴリウス十三世曆法を改正す。マテオ、リッチ支那に傳道す。
 一五八五 シクスタス五世法王となる(一五九〇年迄在位)。
 一五八七 蘇蘭女王メリー一世殺さる。豊臣秀吉初めて耶蘇教の禁制を布く。
 一五八九 アンリ四世佛國王となる(一六〇一年迄在位)。モスカウの教長職立てらる。
 一五九〇 シュークスピア著作を始め。豊臣秀吉耶蘇教徒を虐殺す。
 一五九五 和蘭人初めて喜望峯を廻り東印度に至る。
 一五九八 ナント令出づ。
 一六〇〇 以大利の哲學者ショルダノ、ブルノー殺せらる。英國東印度會社設立せらる。
 一六〇二 和蘭東印度會社設立せらる。
 一六〇三 英蘇合併す。蘇王ジョージ二世英王となる。リ、ジョージ二世と稱す。
 一六〇四 フラウスタス、ソチヌス死す。
 一六〇八 エヴァンジェリカル、ユニオン日耳曼の新教徒に依て立てらる。
 一六〇九 クブレ遊星運動の法則を發見す。
 一六一〇 ルイ十三世佛王となる(一六四三年迄在位)。
 一六一一 グスタフス、アドルフス瑞典王となる。英語聖書ジョージ王欽定譯成る。徳川家康大に天主教の禁を廢す。
 一六一六 カリネオ地動説を唱へ、宗教裁判所に召喚せらる。

一六一八 日耳曼三十年戦争始まる。ドルトの會議開かる。蒸氣機関發明せらる。
 一六一九 フェルディナンド二世日耳曼帝となる(一六三七年迄在位)。奴隸制度ヴァルシュニヤに入る。
 一六二〇 ウアルテリナにて新教徒虐殺せらる。ピルグリム、フアザルス初めて米國に航す。ヘーコンの『ノヴァム、オロガヌム』出版せらる。
 一六二四 ヤコブ、ハーマ死す。リセリウ佛國宰相となる。
 一六二五 チャールス一世英王となる。
 一六二六 フランシス、ベーコン死す。
 一六二八 佛國ヒウケノー徒を虐殺す。
 一六二九 徳川政府踏繪令を發す。
 一六三二 ライプツヒに宗教會議開かる。
 一六三三 グスタフス、アドルフス日耳曼兵を率て勝軍中に死す。
 一六三三 カリネオ異端の宣告を受け拘禁せらる。ロード、カンターベリーの大監督となる。
 一六三七 ゲルハルト死す。天草の亂起る。
 一六三八 クリロス、ルカリス殺せらる。蘇蘭契約成る。ハイヴアルド大學建てらる。天草の亂平ぐ。徳川政府嚴に外船の出入を禁す。
 一六四〇 英國長期國會開かる。
 一六四一 愛蘭人虐殺行はる。カラルトの哲學者出づ。
 一六四二 ヤンセンの『アウグスチヌス』印せらる。
 一六四三 ルイ十四世佛王となる(一七一五年迄在位)。ウエストミンスター會議開かる。
 一六四五 ブーゴ、グロウチウス死す。クロムウェルの兵英國官軍を破る。

一六四七 ヲレルフ、フォックス、クエーカー派の長として顯はる。英王チャールス二世幽せらる。
 一六四八 ウェストリアの平和條約成る(三十年戦争終る)。ウエストミンスター會議閉會す。
 一六四九 英王チャールス一世殺され、英國一時共和政治となる。
 一六五〇 アカント死す。
 一六五三 法王インノーセント十世ヤンセン説五箇條を却す。英國長期議會解散。クロムウェル英國のプロテクトルとなる。
 一六五四 瑞典のクリスチナ加特力教徒となる。ヨハン、ヴァレンチン、アンドレア死す。
 一六五六 ショルワ、カリクスタス死す。バスカルの『レットル、プロヴェンシヤル』出づ。徳川政府耶蘇教禁制札を掲ぐ。
 一六五七 徳川政府鹿前大村領内の天主教徒五百人を捕へて之を刑す。クロムウェル王族を稱ふ。
 一六五八 徳川政府日本全國に令して天主教徒を逮捕せしむ。クロムウェル死す。
 一六六〇 英國再び君主政治となり、チャールス二世即位す(一六八五年迄在位)。
 一六六二 英國則一條例を布き監督政治を全然承認し、之に従はざる牧師を被問す。
 一六六四 トラウピスト僧派建てらる。佛國東印度會社起る。
 一六六六 ミレトンの『尖刺』出づ。
 一六七三 英國『試煉條約』を布き、獨立派に屬する者の官職に就くを禁す。
 一六七四 ミレトン死す。

一六七五 スペーテルの『ヒア、アマリア』公にせらる。聖保羅大會堂建てらる。
 一六七六 バウル、ゲルハルト死す。
 一六七七 スピノザ死す。
 一六八四 ライプニッツ徴分を發明す。
 一六八五 ナント令廢せられ、ヴァルデンス徒ヒードモンより逐斥せらる。
 一六八七 ニュートン重力の法則を發見す。
 一六八九 オレンジのウィリアム及びメリー英國民に推されて王位を襲ひ、宗教寛容令を布く。
 一六九〇 敬虔徒ライプツヒより逐斥せらる。
 一六九四 ハルレの大學建てらる。
 一六九六 ション、トランド『基督教は神異的ならす』を公にす。
 一六九九 フェネロンの主張彈せらる。
 一七〇一 外國福音傳道會英國に設立せらる。
 一七〇四 ボズエー死す。
 一七〇五 スペーテル死す。ツイーゲンバルク東印度に傳道す(新教印度傳道の嚆矢)。
 一七〇九 ホルト、ロヤル抑壓せらる。蘇蘭基督教知識弘布會設立せらる。
 一七二二 瑞西國内の舊教徒新教徒と争ふ。
 一七二五 ルイ十五世佛王となる(一七七四年迄在位)。フェネロン死す。
 一七二六 ライプニッツ死す。
 一七二七 ギボン夫人死す。ゴットフリード、アルノルド死す。
 一七二二 聖ペテルスブルクの教務院建てらる。ハンズ、エグド、グリーランドに傳道す。
 一七三二 ヘルンツェット建てらる。
 一七三五 露國のペートル大帝死す。

一七二七 アウグスト、ヘルマン、フランク死す。アイザック、ニウトン死す。モラヴィアン教會サキソニアのメルテルスドルフに教會を組織す。
 一七二九 ション、ウエスレー牛津に歸り神樂俱樂部に入る(メソヂヤスト教會の起源)。ライマルス、ハムブルヒの教授となる。
 一七三〇 マシワ、チンダレル『天地創造と共に古き基督教』を公にす。
 一七三二 ロラヴィアン教會宣教師を西印度に送る。
 一七三七 グッチンゲン大學設立せらる。ツィンツェンドルフ伯爵ラヴィア教會の監督となる。
 一七四〇 フリードリヒ二世普魯士王となる(一七八六年迄在位)。
 一七五〇 セバスチアン、マッハ死す。
 一七五一 佛の百科全書成る。セムレル、ハルレの教授となる。
 一七五二 ベンゲル死す。ジョセフ、バットラル死す。
 一七五四 ヨハン、クリストフ、ワケル死す。
 一七五五 モスハイム死す。リスボン大地震。
 一七五八 クレメント十三世法王となる(一七六九年迄在位)。ジョナサン、エドワルド死す。
 一七五九 イェスイト派葡葡牙より逐斥せらる。
 一七六〇 テイツツェンドルフ伯爵死す。ジョルジュ三世英王となる。
 一七六二 ルソー『民約論』を著はす。ツヤン、カラ殺さる。
 一七六四 佛王ルイ十五世イェスイト徒を弾壓す。
 一七六九 クレメント十四世法王となる(一七七四年迄在位)。
 一七七二 スウェーデンブルク死す。グラウゲイル、

一七七三 シャーパ奴隷廢止論を唱ふ。
 一七七三 法王イェスイト派を禁す。
 一七七四 『ウォルフエンビウテル断片』出づ。ゴード、スミス死す。
 一七七五 ビツス六世法王となる(一七九九年迄在位)。米國獨立戦争始まる。クリスチアン、アウグスト、クルーシウス死す。
 一七七六 イルミナチ派起る。
 一七七八 ゲルターア及びヘーリッソ死す。
 一七八〇 ロバートレークス日曜學校を創始す。
 一七八一 レンツェンゲ死す。
 一七八三 英國北米合衆國の獨立を承認す。
 一七八九 ワシントン米國大統領となる。佛國革命初まる。實效廢止案英國議會に上る。
 一七九一 ション、ウエスレー死す。セムレル死す。佛國憲法を發布す。
 一七九二 佛國王政を廢し共和政となる。『パプアスト傳道會社』クツァレルリಂಗに創立せらる。
 一七九三 ヴィリアム、ケレー東印度に傳道す。
 一七九三 佛國革命戦争起り、ルイ十六世及び王妃殺せらる。佛國基督教を廢し教會を毀つ。佛國議會佛領殖民地にて黒奴を廢止す(ヘミナ合す)。
 一七九五 『倫敦傳道會社』創立せらる。
 一七九九 シュライエムマツヘルの『宗教論』公にせらる。『教會傳道會社』創立せらる。
 一八〇〇 ビウス七世法王となる(一八二三年迄在位)。
 一八〇一 佛國法王と協約を結び羅馬教を以て公認教となす。
 一八〇二 ナポレオン終身執政官となる。

- 一八〇三 ヘルテル死す。
- 一八〇四 『大英及び外國聖書會社』創立せらる。カント死す。ナポレオン三世皇帝となる。
- 一八〇五 シルレル死す。トラファルガーの戦。ヘンリー、マルチン東印度に傳道す。
- 一八〇六 フランシス二世羅馬王位を去り、神聖羅馬帝終る。
- 一八〇七 英國奴隷賣買禁止條例を發布す。ロベルト、モリソン支那に傳道す。
- 一八〇九 法王ロリス七世ナポレオンを破門す。法王サゾナに幽閉せらる。
- 一八一〇 『米國傳道會社』ホムストンに創立せらる。伯林大學創立せらる。シュライエルハルト、伯林大學の教授となる。
- 一八一二 佛國々民議會教會の改選を企つ。
- 一八一三 アドニラム、ツヤドソン緬甸に傳道す。
- 一八一四 ナポレオン、ヘルバ島に流さる。法王ロリス七世羅馬に歸る。法王ジョゼフ第二の禁を解く。
- 一八一五 ナポレオン、ヘルバ島を逃れて巴理に入る。歐洲列國連合してナポレオンに抗す。ナポレオン、ウオータローに大敗し、セント、ヘン島に流さる。露、普、奧三國神聖同盟を結ぶ。
- 一八一六 宣教師學校バーセルに建てらる。
- 一八一七 クラウス、ハルムス九十五箇條を述べて、偏見に反對す。ルーテル、レフォルムド二派合同運動獨逸に起る。佛國法王と協約を結び再び本山主義に歸る。ジョン、ウィリアム、ギリシヤに傳道す。『ウェズレー』
- 一八三〇 佛國革命起りボルゴ朝倒る。プロテスタント教羅馬教と同一の特權を得。ハルン論争(教派偏見派と争ふ。アレキサンデル、タフ印度に傳道す。
- 一八三一 アレゴリス十六世法王となる(一八四六年迄在位)。ヘーゲル死す。
- 一八三二 グレーテ、ベンザム、スコット等死す。アレゴリス十六世朝鮮に傳道區を設け、琉球を附屬せしむ。
- 一八三三 牛津運動始まる。
- 一八三四 獨逸ルーテル派中の保守派福音派の合同に
- 一八三六 反對す。シュライエルハルト死す。
- 一八三五 ストラウス『耶穌傳』を著す。エドワルド、アルグイック死す。マダカスカルに於て基督傳道せらる。
- 一八三六 ドレスデン、モリソンナリー、インスチチュート設立せらる。イエズイット派の宣教師モリソン初めて朝鮮に入る。
- 一八三九 ストラウス、ツウリヒの教授となる。
- 一八四〇 フリードリヒ、ウィルヘルム四世法王となる(一八六一年迄在位)。支那英國と戦ふ(阿片戦争)。
- 一八四一 ジョージンガ伯林の教授となる。獨逸ルーテル派教會より分離す。
- 一八四三 蘇格蘭自由教會立てらる。
- 一八四四 基督青年會創立せらる。佛國の軍艦天主教の信侶二名を載せて來り、那覇に上陸せしむ。
- 一八四五 ヘンリー、ニウマン羅馬教會に轉す。
- 一八四六 ビュッセル法王となる(一八七八年迄在位)。福音同盟會創立せらる。
- 一八四七 ヘンリー、カールド、ピーチナル、ブルイリン會衆教會の牧師となる。
- 一八四八 佛國再び共和政府となり、ルイ、ナポレオン大統領となる。
- 一八四九 羅馬共和政となる。
- 一八五〇 支那に長髮賊起る。
- 一八五二 ルイ、ナポレオン佛國の帝位に登り、ナポレオン三世と稱す。
- 一八五三 米國提督ハルリ浦賢に來る。
- 一八五四 スゴルウ、倫敦プロドワーニ會衆の牧師となる。日米及び日英條約成る。

- 一八五六 ロッソの『ミクロコスモス』第一巻出づ。
- 一八五七 日佛條約成る。
- 一八五八 佛帝ナポレオン三世勅諭を發して新教の自由を保障す。
- 一八五九 グルウインの『種々の起源』公にせらる。プロテスタント教最初の宣教師日本に來る(米國監督派のロッキンズ、ウィリアム、同長老派のヘッボン、同グッチ、レフォルムド派のブラウン、グルベッキ、シムモンズ是也)。
- 一八六〇 アブラハム、リンカーン米國大統領となる。米國南北戦争始まる。プリモス、ブレズン派起る。スリヤの基督教徒迫害せらる。英佛同盟軍北京を陥れ、天津條約成る。櫻田の變。初めて西洋に國使を發す。露西亞の修道僧ニコライ初めて箱館に來る。
- 一八六一 ヴィクトル、エマヌエル以太利を統一す。
- 一八六二 ヘルベルト、スベンセルの『哲學原理』出づ。ナン『耶穌傳』を著す。ビスマルク獨逸の首相となる。ピウス九世日本最初の殉教者に聖徒號を贈る。
- 一八六四 新島襄箱館より箱に米國に航す。
- 一八六五 米國議會奴隷禁止の議を可決す。長崎に天主教會堂建てらる。
- 一八六七 徳川慶喜政權を奉還し王政復古す。
- 一八六八 今上皇帝即位、明治と改元す。支那長髮賊平ぐ。
- 一八六九 ヴァチカン會議開る。愛蘭國教會廢止せらる。ハルトマンの『無意識哲學』出づ。浦上長崎五島大村等の天主教徒四千八捕らる。アメリカンボールド最初の宣教師來る。
- 一八七〇 支那天津の人民佛人を殺し天主教會堂を燒く。
- 一八七〇 法王無罪説公布せらる。普佛戦争、ナポレオン三世軍に降り、佛國又共和政となる。羅馬以太利の首都となり、法王の實權奪はる。リッパチエリの『稱義及び調和の教義』第一巻出づ。
- 一八七一 新日耳曼帝國建てられ、普王ウィルヘルム一世帝位に登る。
- 一八七二 獨逸政府法廷と争ふ。ニコライ東京に來り傳道す。日本最初のプロテスタント教會横濱に組織せらる。
- 一八七三 舊加特力教會獨逸に組織せらる。耶穌教禁制の高札撤去せらる。太陽曆廢せられ、太陽曆採用せらる。學制改正、小學校起る。米國メソヂスト監督教會、加那太メソヂスト教會、英國傳道會社等日本に傳道を開始す。
- 一八七四 新島襄箱館より箱に米國に航す。
- 一八七五 日本正教會第一布教會議東京に開る。
- 一八七六 同志社學校開校。『七一雜報』發刊せらる。
- 一八七八 レオ十三世法王となる。教皇軍起る。日本福音同盟會起る。
- 一八七九 ヘンリー、ニウマン『カルテナル』となる。日本に民権論興す。
- 一八八〇 新約聖書邦譯成る。『六合雜誌』發刊せらる。『基督教徒共勵會』組織せらる。米國大統領ガフィールド暗殺せらる。虚無黨暴徒を統す。カライル死す。ロベルトソン、スミス異端の告げを受く。中村正直副點『天道溯源』
- 一八八二 獨逸ルーテル派リッナル派と争ふ。ダールヴィン、エマルソン死す。
- 一八八三 ルーテル誕生四百年祭を行ふ。
- 一八八四 プロテスタント教初めて朝鮮に傳道す。
- 一八八五 ハルナック『教義史』第一巻を公にす。『飯橋七士』支那に入る。英語聖書改譯完了出版せらる。歐化主義鼓吹せらる。
- 一八八六 『學生傳道有志運動』米國に起る。
- 一八八七 獨逸政府法廷と和す。獨逸普及福音教會及び米國ユニテリアン派日本に傳道す。
- 一八八八 同志社大學設立の趣意書發表せらる。國粹保存論行はる。舊約聖書邦譯完了す。
- 一八八九 帝國憲法發布せられ、信教の自由保障せらる。
- 一八九〇 新島襄死す。教育勅諭發せらる。内村事件起る。日本に在る天主教第一總會を長崎に開く。
- 一八九一 金澤通倫の『日本現今の基督教並に將來の基督教』出で、信仰漸く動搖す。
- 一八九四 日清戦争始まる。
- 一八九八 カフマンの『組織神學』出づ。
- 一九〇一 ハルナックの『基督教の本質』公にせらる。
- 一九〇三 ビュッセル法王となる。
- 一九〇四 日露戦争始まる。
- 一九〇五 佛國政教分離を行ふ。
- 一九〇六 レギナルド、ジョン、カムベル『新神學』を公にす。信徒傳道運動、米國に起る。
- 一九〇七 ビュッセル法王を出して『近代主義』を罪す。支那政府令を出して宣教師保護教徒迫害防衛の保障を與ふ。支那傳道百年紀念會

附 錄

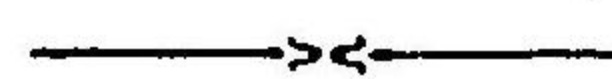
- 一九〇八 上海に開かる。第七回萬國學生青年會大會
東京に開かる。日本に在るメソヂスト三派
合同成る。
- 一九〇九 羅馬教の神學者ロアジ―破門せらる。
日本プロテスタント教傳道開始五十年紀念
會を開く。
- 一九一〇 世界宣教大會エザンバラに開かる。自由基
督教世界會議伯林に開かる。日韓合邦。

附 錄 終

Handwritten marks or initials at the bottom right of the page.

歐
字
索
引

歐 字 索 引



	Page.		Page.
Aaron...	61	Acton, John Emerich Edward Dalberg-Acton,	
Aaron, ben-Asher or bar Moses...	61	Lord ...	13
Abaddon...	26	Acts of Apostles, The ...	574
Abana and Pharpar ...	27	Acts of Peter, The ...	1237
Abarim ...	27	Acts of Uniformity ...	413
Abauzit, Firmin ...	26	Adalbert... ..	19
Abba ...	26	Adalbert, St. ...	19
Abbadie, Jacques ...	26	Adam ...	17
Abbess ...	30	Adam and Eve, The Histories of ...	18
Abbey ...	22	Adamites or Adamiani ...	18
Abbot ...	31	Adams, Sarah Flower ...	18
Abbot, Edwin ...	32	Adams, Thomas ...	18
Abbot, Ezra ...	31	Addison, Joseph ...	22
Abbot, George ...	31	Adler, Felix ...	23
Abbot, Lyman ...	32	Adler, George ...	24
Abbot, Robert ...	32	Adler, Hermann ...	23
Abel ...	31	Adonai ...	23
Abel ...	31	Adonijah ...	23
Abelard or Abelardus, Pierre ...	30	Adoptionism or Adoptionists ...	17
Abelites or Abelonians ...	31	Advocate ...	1261
Aben-Ezra ...	31	Adrammelech ...	23
Abiathar ...	28	Adrian ...	23
Abilene ...	28	Adullam... ..	23
Abimelech ...	28	Adultery... ..	286
Abishag ...	27	Advent ...	22
Abishai ...	27	Adventists or Second Adventists ...	23
Abner ...	29	Affection... ..	290
Abraham ...	29	Affre, Denis Auguste ...	22
Abrahamites ...	30	Africa ...	28
Abraham's Bosom... ..	30	Africanus, Julius ...	20
Absalom... ..	29	Agapetus... ..	12
Absalom ...	29	Agatha, St. ...	11
Absolution ...	597	Agatho ...	11
Abstinence ...	356	Agede, Hans ...	182
Abyssinian Church ...	27	Agnes, St. ...	13
Achaia ...	10	Agnoetoe ...	14
Achaicus... ..	10	Agnosticism ...	1158
Achan ...	11	Agricola, Johann ...	14
Acosta, Gabriel d. ...	14	Agrippa ...	14
Act of Toleration... ..	400	Ahab ...	26
Acta Martyrum and Acta Sanctorum... ..	13	Ahasuerus ...	25

	Page.		Page.
Ahaz	26	Amphilochius, St.	37
Ahaziah	25	Amsdorf, Nikolaus von	37
Alimelech	27	Amyot, Joseph	38
Ahithophel	27	Amyraut, Moise	37
Aidan, St.	3	Anabaptists	24
Ainsworth, Henry	4	Anacletus	24
Akiba, Ben Joseph	12	Anammelech	25
Alacoque, Marguerite Marie	42	Ananias	24
Alb...	54	Anastasis	24
Alban, St.	53	Anastasis, ...	24
Albanenses	53	Anathema	24
Albertus Magnus	55	Ancestor-worship	776
Albigenses	55	Anchieta, Jose de...	61
Albright, Jacob	54	Anchorite or Anachorites...	64
Alcuin	49	Ancillon, David	66
Alesius, Alexander	60	Anderson, John	69
Alexander	58	Anderson, Lars	70
Alexander, Archibald	59	Anderson, Rufus	70
Alexander, Hieronymus	58	Andover Theological Seminary...	71
Alexander, Joseph Addison	59	Andrea, Laurentius	71
Alexander of Hales	59	Andrea, Johann Valentin	71
Alexander, Patriarch of Alexandria...	59	Andreoc, Jacob	71
Alexander the Great	59	Andrews, Elisha Benjamin...	71
Alexander, William	59	Andrews, Lancelot	71
Alexandria	60	Angel	876
Alford, Henry	54	Angelic Brothers	220
Alfred the Great	54	Angelico, Giovanni	64
All Saints' Day, The	636	Angelis, Girolamo...	64
All Souls' Day, The	636	Angelus à Sancto Francisco...	64
Allan, William	45	Angilbert, St. ...	61
Allen, Henry...	61	Anglican Church, The...	62
Alogi or Alogians...	61	Anglo-Saxons...	63
Alombrados, Illuminati	61	Anicetus	25
Alpha and Omega...	52	Animals in the Bible	927
Altar	498	Animal-worship	938
Alypius, St.	48	Animism...	487, 1080
Alzog, Johann Baptist...	50	Anna	72
Amakusa Riot, The	33	Annas	72
Amalek	37	Annihilationism	1333
Amalric	36	Anniversarius	1025
Amasa	36	Anselm or Anselmus	66
Amaziah...	36	Angarius, St.	66
Ambrose or Ambrosius, St.	37	Anthony...	70
Amen	41	Anthropology	691
Amianus Marcellinus	37	Anthropomorphism and Anthropopatheism	566
Ammon, Ammonites	72	Antimarians or Antidicomarianites	68
Ammon, Christof Friedrich von	38	Antinomianism	68
Ammonius, Saccas...	38	Antioch	68
Ammonius of Alexandria	38	Antioch, The School of	69
Amorites	42	Antipope	68
Amos	41	Antitrinitarianism	68, 1123
Amos, The Book of	42	Antonelli, Giacomo	70

	Page.		Page.
Antonians	71	Arimathæa	49
Antoninus Pius	70	Aristarchus	47
Antoninus, St.	70	Aristeas	47
Anton, Paul	70	Aristobulus	47
Antony or Anthony, St.	70	Aristobulus	48
Apocalypse of Abraham, The	30	Aristoteles (Aristotle)...	48
Apocalypse of Bartholomew, The	1077	Arius	45
Apocalypse of Baruch, The...	1075	Ark, The...	1036
Apocalypse of Elias, The	1343	Ark of the Covenant, The	427
Apocalypse of John, The	210	Arkites	49
Apocalypse of Paul, The	1105	Ar-mageddon, or Har-magedon...	55
Apocalypse of Zephaniah, The...	773	Armenia...	57
Apocrypha	365, 415	Armenian Version of the Bible...	58
Apollinaris, Claudius	32	Arminianism	55
Apollinarianism	32	Arnaud, Henrie	50
Apollinaris	32	Arnaud, Angélique	51
Apollonia, St.	33	Arnaud, Antoine...	51
Apollo	32	Arnaud, Henri	51
Apologetics	490, 1226	Arnoldi, Bartholemæus	51
Apologists	490, 1227	Arnoldists	52
Apology of the Augsburg Confession, The	9	Arnold, Matthew	52
Apostasy...	1033	Arnold of Brescia...	51
Apostles	573	Arnold, Thomas	51
Apostles' Council of Jerusalem, The	574	Arnold, Thomas	52
Apostle's Creed, The	577	Arnot, William	51
Apostles' Day, The	576	Arnold, Marie Angélique	51
Apostolic Brothers, The	33	Arnulphus or Arnulfus, St.	50
Apostolic Fathers...	577	Arphaxad	53
Apostolic Succession	577	Arsenius	49
Apotactici	33	Artaxerxes	50
Aquaviva, Claudius	12	Arteman or Artemas	50
Aquila	13	Arundel, Thomas	45
Aquila and Priscilla	13	Asa	14
Aquila, Johannes Kaspar	13	Asbury, Francis	15
Arabia	43	Ascension	594
Arabians...	44	Ascension of Isaiah, The	110
Arabic Gospel of the Childhood, The	42	Asceticism	361
Aram, Aramacans...	45	Asherah	15
Ararat	45	Ashtoreth	14
Archaeology	465	Ash-Wednesday	1033
Archangels	879	Asia in the Bible	15
Archbishop	792	Asmodeus	16
Archdeacon	50	Assonians	16
Archelaus	14	Assebury, Rosamunde Juliane von	22
Archimandrite	50	Assumption (or Departure) of Mary, The	1306
Architecture	453	Assumption of Moses, The...	1351
Archoatici	49	Assyria	19
Arceimboli, Giovanni Angelo	49	Astruc, Jean	15
Aretas	60	Atargatis	17
Argentine Republic, The	50	Athanasian Creed, The	17
Argyll, Duke of	49	Athanasius	16
Arianism...	46	Atheism	1324

	Page.		Page.
Athens	16	Bartholomites	1077
Atonement, The Day of	11	Bashan	1062
Atonement, The Doctrine of	614	Basilians... ..	1061
Atterbury, Francis	22	Basilica Architecture, The... ..	1061
Anberlen, Karl August	10	Basilides... ..	1061
Auburn Declaration, The	10	Basillus or Basil	1061
Auburn Theological Seminary	10	Bathsheba	1065
Aufklärung	10	Bathurst, William Hiley	1061
Augusti, Johann Christian Wilhelm	8	Bauer, Bruno... ..	1059
Augustin or Austin, St.	4	Baur, Ferdinand Christian	1079
Augustin or Augustinus, Aurelius, St.	4	Bautain, Louis	1271
Augustinian Monks and Nuns	8	Bavaria	1060
Aurelian... ..	10	Baxter, Richard	1063
Auricular Confession	682	Bayle, Pierre... ..	1222
Aurifaber, Johann	10	Beal, Samuel... ..	1130
Australia	9	Beaton, David	1129
Austria	10	Beattie, James	1129
Authorized Version of the Bible, The	361	Beausobre, Isaac de	1271
Avitas, Alcimus Ecdidius	10	Beck, Johann Tobias	1217
B		Becket, Thomas	1214
Baader, Franz Xaver... ..	1065	Bede or Beda the Venerable	1217
Baal... ..	1057	Beecher, Henry Ward... ..	1128
Baalbek	1058	Beecher, Lyman	1129
Babylon	1067	Beecher Stow, Mrs. Harriet Elizabeth	1129
Babylonia	1065	Beelzebub	1223
Babylonish Captivity, The... ..	1067	Bel	1222
Baccanarists	1063	Belgic Confession, The... ..	1223
Bach, Johann Sebastian	1065	Belgium	1223
Bachelor of Divinity (B.D.)	645	Belial	1222
Bacon, Francis	1215	Bellamy, Joseph	1221
Bacon, Roger... ..	1216	Benedict XIV. (<i>Prospero Lambertini</i>)	1220
Balrdt, Karl Friedrich	1076	Benedict of Aniane	1219
Bajus (<i>De Bay</i>) Michel	1074	Benedict of Nursia	1220
Backewell, John	1211	Benedictines	1220
Balaam	1075	Benediction	600
Balmes, Jaime Lucio	1078	Bengel, Johann Albrecht	1225
Bampton Lectures	1074	Benjamin	1219
Ban	1049	Benson, Edward White	1227
Baptism	1070	Bentham, Jeremy... ..	1225
Baptism with Fire	1124	Berengarius of Tours	1225
Baptist Church, The	1068	Berkeley, George	1060
Barabbas... ..	1075	Bernard of Clairvaux	1224
Barbauld, Anna Letitia	1078	Bernard of Cluny... ..	1224
Barclay, Robert	1060	Bernard of Mentone	1224
Baring-Gould, Sabine	1076	Bethabara	1217
Barnabas... ..	1077	Bethany	1217
Barnabas, The Epistle of	1078	Bethel	1219
Barnabites	1078	Bethesda	1219
Barnett, Samuel Augustus	1078	Bethlehem	1218
Baronius, Caesar	1079	Bethphage	1217
Bartholomew	1076	Bethsaida	1217
		Beyschlag, Wilibald	1058

	Page.		Page.
Beza, Theodore	1216	Buridan, Jean	1127
Bible, The	740	Burma	1130
Bible Animals	927	Burnet, Gilbert	1078
Bible Christians, The	1059	Burns, Robert	1079
Bible Societies	741	Burns, William Chalmers	1078
Bible Versions	748	Burnt Offerings	1055
Biblical Genealogy	422	Burritt, Elihu	1076
Biblical History	749	Burton, Robert	1077
Biblical Theology... ..	743	Bushnell, Horace	1181
Biddle, John... ..	1129	Butler, Joseph	1064
Bingham, Joseph	1130	Byron, George Gordon Noel, Lord	1059
Binney, Thomas	1130	Byzantium Architecture, The	1127
Birgitta, St.	1130	C	
Bishop	295	Cabbala	249
Bishop, Nathan	1127	Caecilia, St.	440
Bishopric	297	Caedmon... ..	446
Bochart, Samuel	1270	Caerularius, Michael	451
Boehme, Jakob	1221	Caesarea	238
Boethius, Anicius Manlius Severinus	1270	Caesarea Philippi... ..	238
Bohemia... ..	1272	Caïaphas... ..	272
Bohemian Brethren, The	1273	Cain... ..	239
Bonaventura or Giovanni di Fidenza	1271	Cainites	239
Boniface	1272	Caird, Edward	449
Boniface I.	1271	Caird, John	449
Boniface VIII.	1271	Cajetan, Jacopo	246
Bonner, Edmund	1274	Calamy, Edmund	273
Bossuet, Jacques Bénigne	1270	Calderwood, David	282
Booth, William	1181	Calderwood, Henry	282
Bora, Catharina von	1273	Caleb	286
Borromeo, Carlo	1274	Calender Brethren, The	286
Borrow, George	1273	Calf, the Golden Calf	462
Bourne, Francis	1274	Calixtus	273
Bourne, Hugh	1274	Calixtus, George	274
Bowne, Borden Parker	1050	Calmet, Augustine	285
Bowring, Sir John	1059	Calvary	285
Brace, Charles Loring... ..	1184	Calvin, John	274
Brazil	1182	Calvinism	278
Brethren of Common Life, The... ..	333	Calvinistic Methodist Church	159
Brethren of the Free Spirit, The	687	Camaldules	256
Breviary	329	Cambridge	448
Broad Church	390	Cambridge Platonists	448
Brooks, Phillips	1183	Cameronians	272
Browning, Elizabeth Barret	1182	Camisards	266
Browning, Robert	1182	Campanella, Tomaso	269
Brully or Brusly, Pierre	1183	Campbell, Alexander	270
Bruno, Geordano	1184	Campbell, John M'Leod	270
Bryant, William Cullen	1182	Campbell, Reginald John	271
Buchanan, George	1181	Campegius	271
Buck, Charles	1063	Camp-Meeting	298
Bude, Guillaume	1129	Cana of Galilee	252
Bullinger, Heinrich	1183	Canaan, Canaanites	253
Bunyan, John	1082		

	Page.		Page.
Canada, The Dominion of	252	Cenchreae	452
Cananean or Canaanite	254	Censer	245
Candace	291	Censorship of Books	452
Candlemas	298	Census	464
Cardlish, Robert Smith	297	Centurion	1125
Canisius, Peter	254	Chaldea	283
Canon	255	Chalmers, Thomas	823
Canon Law	255	Chamier, Daniel	597
Canonical Hours	254	Chancellor	825
Canstein, Karl Hildebrand	291	Chandler, John	825
Canterbury	291	Channing, William Ellery	825
Capernaum	256	Chapel (<i>Capella</i>)	823
Capistranus	255	Chapin, Edwin Hubbell	806
Capito, Wolfgang	256	Chaplain	822
Cappalocia	255	Chapter-House	822
Cappel, Louis	249	Chapters	774
Captivity of Israel, The	1163	Chapters and Verses of the Bible	594
Capuchins	256	Chariot	102
Carchemish	281	Charlemagne	597
Cardinal	283	Charles, V.	285
Carey, William	452	Charnock, Stephen	823
Cargill, Donald	281	Chancer, Geoffrey	826
Carlstadt, Andreas Rudolphus Bodenstein	281	Cheke, Sir John	808
Carlyle, Thomas	272	Chemnitz, Martin	447
Carmel	285	Chemosh	448
Carmelites	285	Cherub, Cherubim	450
Carpenter, Lant	285	Cheyne, Thomas Kelly	806
Carpenter, Mary	285	Childhood Gospel of Thomas, The	910
Carpoerations	285	Children of God	268
Carstares, William	282	Chili	827
Carus, Paul	450	Chillingworth, William	827
Carthage	282	China	578
Cartusians	283	Choir	592
Cartwright, Thomas	284	Chokmah	1261
Cary, Henry Francis	450	Chorazin	468
Cassianus, Johannes	218	Chorazin	753
Casuistry	445	Chrisom	771
Castell, Edmund	246	Christ	334
Catacombs	247	Christ, the Offices of	352
Catechism	437, 1365	Christ, The Order of	353
Catechumen	251	Christian	333
Cathari	248	Christian Catholic, The	383
Catharina, St.	248	Christian Church, The	338
Catharina of Sienna	248	Christian Endeavour Society	347
Cathedral	246	Christian Schools	344
Catholic	251	Christian Science, The	384
Catholic Apostolic Church, The	251	Christian Union Church, The	384
Catholic Epistles	252, 463	Christianity	334
Catholic Truth Society, The	252	Christians, or Christian Conuection, The	383
Celestines, The	768	Christians of St. Thomas	769
Celibacy	939	Christmas	384
		Christo Sacrum	347

	Page.		Page.
Christology	353	Clovis	304
Chronicles, The First Book of	1501	Cobham, Lord	405
Chronicles, The Second Book of	1501	Cocceius, Johannes	463
Chronology of the N. T.	669	Codex Sinaiticus, The	583
Chronology of the O. T.	319	Coins	358
Chrysostom, Joannes	385	Coke, Thomas	463
Chubb, Thomas	822	Colenso, John William	475
Church	429	Coleridge, Samuel Taylor	474
Church and State, The Relation of	434	Colet, John	475
Church Army, The	433	Coligny, Gaspard de	473
Church Association, The	823	College of Cardinals, The	1016
Church Congress, The	823	Collier, Jeremy	469
Church Discipline	432	Collins, Anthony	469
Church Fathers, The	439	Cölln, Daniel Georg Conrad von	451
Church Fathers, The Period of the	440	Cologne or Köln	451
Church Government or Polity	433	Colossae	476
Church History	437	Colossians, The Epistle to the	476
Church of Africa, The	28	Colours	130
Church of England, The	177	Columba, St.	468
Church of God, The	268	Columbanus	478
Church of United Brethren in Christ, The	347	Comenius	468
Church Property	433	Commodianus	467
Church Rates	824	Commodus	467
Church, Richard William	823	Common Prayer, The Book of	328
Church Union, The	824	Communion of Saints	732
Church Wardens	825	Communism	332
Churching of Women	523	Compostella	468
Churchmen's Union, The	823	Compton, Henry	467
Cilicia	333	Comte, Auguste	467
Circumcision	250	Conceptualism	299
Cistercians	570	Conclave	1045
Clare, St.	382	Concomitance	504
Clarke, Adam	380	Concord of Wittenberg, The	153
Clarke, Francis Edward	381	Concordance	741
Clarke, Samuel	381	Concordat	482, 551
Clarkson, Thomas	381	Condillac, Etienne Bonnet	487
Class-Meeting	380	Conditional Immortality Mission, The	486
Claudius of Turin	380	Conference	487
Clean and Unclean Things	333	Conference of Jerusalem, The	212
Clemangs, Nicolas de	390	Confession and Confession of Faith	642
Clemens Romanus	391	Confession, or Confession of Sins	841
Clemens Titus Flavius	391	Confession of Augusburg, The	8
Clement III	392	Confession of Basel, The	1063
Clement IV	392	Confessor	539
Clement V	392	Confirmation	453
Clement VII	392	Congregationalism	483
Clement VIII	393	Congregationalist or Congregational Church	397
Clement XI	393	Consolvi, Ercole	486
Clement XIII	393	Consecration	753
Clement XIV	393	Consecration (or Dedication) of Church	458
Clergy	433	Consensus Genevensis	486
Cloister	774	Consensus Tigurinus	486

	Page.		Page.
Consistory	483	Cross	675
Constantine the Great... ..	484	Cruden, Alexander	388
Constantinople	485	Crusades... ..	676
Consubstantiation... ..	780	Crusius, Christian August	388
Constarini, Gasparo	486	Crypto-Calvinism	386
Convent	483	Cudworth, Ralph	249
Conventicle	483	Culdees	283
Conversion	238	Cumberland Presbyterian Church	271
Convocation	483, 774	Cumberland, Richard	271
Convulsionists	482	Cummins, George David	271
Conybeare, William John	405	Cuneiform Inscriptions	376
Cook, Charles	377	Cunningham, William... ..	298
Cook, Frederick Charles	377	Curio, Caelius Secundus	383
Cook, Henry... ..	377	Cusanus, Nicolaus... ..	376
Copts	466	Cuthbert, St... ..	246
Coquerel, Athanase Laurent Charles	463	Cynic or Cynicism	330
Corfau	474	Cyprianus, Thascius Caecilus	379
Cordova	474	Cyrenaics	356
Corinth	469	Cyril Lucar	387
Corinthians, The First Epistle to the	469	Cyril of Alexandria	386
Corinthians, The Second Epistle to the	469	Cyril of Jerusalem	387
Cotton, George Edward Lynch... ..	465	Cyrus	394
Cotton, John... ..	404		
Council (<i>Councilum</i>)	550	D a Costa, Isaak	793
Council of Basel, The	1062	Dach, Simon	793
Council of Chalcedon, The... ..	282	Dagon	793
Council of Constance, The... ..	483	Dale, Robert William... ..	891
Council of Ferrara Florence, The	1155	Dalmatia... ..	802
Council of Frankfurt, The	1169	Dalmatic... ..	802
Council of Trent, The... ..	917	D'Alviella, Eugène Goblet, Count	800
Councils of Ephesus, The	203	Damascus	798
Councils of Nicaea, The	963	Damianus	799
Court of Gentiles	129	Damianus or Damiani, Peter	799
Cousin, Victor	377	Damien, Joseph	799
Covenanters	246	Dan... ..	802
Coverdale, Miles	245	Daniel	794
Cowper, William	244	Daniel, The Book of	795
Crabb, George	382	Dante Alighieri	804
Cradock, Samuel	390	Darbois, Georges	798
Craig, John	389	Darby, John Nelson	801
Craig, John	389	Darham, William... ..	801
Cramer, Johann Andreas	382	Darius	800
Cranmer, Thomas... ..	382	Dark Age, The	64
Crashow, Richard... ..	381	Darwin, Charles Robert	800
Crato, von Crafftheim... ..	382	Dathe, Johann August	794
Crawford, Thomas J.	395	Daub, Karl	792
Creation... ..	499	Davenport, John	782
Creationism	1497	David	797
Creed	641	David, St.	884
Crespin, Jean... ..	389	David, St.	884
Crete	389	David, Thomas William Rhys... ..	884
Cromwell, Oliver	395	Davidson, Andrew Bruce	885

	Page.		Page.
Davidson, Randal Thomas	885	Diognetus, The Epistle to	881
Davidson, Samuel... ..	885	Dionysius Areopagita	880
Davies, Samuel	884	Dionysius of Alexandria	880
Day... ..	1121	Dionysius of Rome	880
Deacon	572	Dionysius the Carthusian	880
Deaconesses	1542	Disciples of Christ, The	348, 886
Dean	883	Discipline, The Book of	434
Dead Sea, The	566	Dispensation	907
Death	123	Divine Trinity and Triunity	519
Deborah... ..	887	Doan, George Washington... ..	953
Decalogue	682	Doctor of Divinity (D.D.)	645
Decapolis	885	Doctrine or Dogma	428
Decius, Cajus Messius Quintus Trajanus	886	Doctrines, History of	428
Dedication	458	Doddridge, Philip	941
Defender of the Faith, The	642	Dodds, Marcus	941
Deism	571	Dodge, William Earl	940
Delitzsch, Franz	891	Dodwell, Henry	941
Delitzsch, Friedrich	891	Doederlein, Johann Christof	886
Demetrius	887	Dogmatic Theology	775
Demiurge	887	Dogmatics	429
Democritus	887	Dojin Kyokwai, The	927
Demon, Devil	12	Doketism or Docetism... ..	940
Dempster, John	887	Döllinger, Johann Joseph Ignaz von	939
Denarius... ..	886	Dominicans	943
Denck, Johann or Hans	892	Dominics, St... ..	942
Denis, St.	886	Domitilla	942
Denison Eucharist Case, The	887	Donaldson, John William	942
Denmark	903	Donatists	941
Denominations	552	Donne, John	953
Descartes, René	885	Donnel, Robert	954
Determinism... ..	845	Donoso-Cortes, Juan	942
Deuteronomy, The Book of... ..	654	Dora, Sister (Drothy Wyndlow Pattison)	943
Devay Mityás Biro	885	Doreau (Sarah Platt Haines) Mrs. Thomas C.	952
De Wette Wilhelm Martin Leberecht	883	Dorner, Isaak August	948
Diatessaron	879	Dorothea	953
Diaz, Juan	879	Dort, The Synod of	948
Dick, John	882	Dositheus	940
Dick, Thomas	882	Douglas, Sir Robert Kennaway... ..	793
Dickinson, Jonathan	881	Dow, Lorenzo	918
Dictionary of the Bible	744	Dowie, John Alexander	926
Didache (The Teaching of the Twelve Apo- stles)	677	Doxology	612
Diderot, Denys	882	Drachma... ..	944
Didymis	882	Drelincourt, Charles	953
Diepenroock, Melchior	882	Dresden Council, The	952
Diessel, Ludwig von	881	Driver, Samuel Rolles... ..	944
Digby, Sir Kenelm	881	Drummond, Henry	944
Dillman, Christian Friedrich August	882	Drummond, James	944
Diocletianus, Caius Aurelius Valerius	879	Dualism	964
Diodati, Giovanni	879	Dubourg, Anne	888
Diodorus... ..	879	Du Cange, Charles Dufresne Sieur	888
Diogenes... ..	879	Duff, Alexander	793
		Dukhobors	926

	Page.		Page.
Du Moulin, Charles	889	Election	206
Du Moulin, Pierre	890	Eli	207
Duncan, John	802	Eli Eli Lama Sabachthani	207
Dunin, Martin von	843	Elijah	209
Dunkers or Dunkards	953	Elim	209
Duns Scotus, Johannes	803	Elliot, George	207
Dunstan, St.	804	Elliot, John	208
Dunster, Henry	804	Elisha	209
Dupanloup, Felix Antoine Philippe	888	Elizabeth	209
Duperron, Jacques Davy	889	Elizabeth, St.	209
Du Plessis-Morney	889	Elkesaites	210
Durand of St. Pourquin	890	Ellicot, Charles John	216
Dury, John	890	Elliot, Charlotte	216
Dutoit or Dutoit-Membrim, Jean Philippe	888	Ellis, William	216
Duvergier De Hauranne, Jean	888	Ellwood, Thomas	210
Dwight, Timothy	953	Elohim	220
Dyophysites	353, 1480	Elohism or Elohim Document, The	220
Dyothelism	1480	Embury, Philip	204
E		Emerson, Ralph Waldo	205
Eardley, Sir Culling	50	Emmaus	204
Easter	1163	Emmons, Nathaniel	205
Eastern Church, The	1122	Empedocles	204
E'bal	109	Empericism	421
Ebel, Johannes Wilhelm	201	Encratites	220
Ebionites	199	Encyclopedistes	66
Ecce Homo	182	Engedi	220
Ecclesiastes	900	England	132
Ecclesiasticus	636	English Versions of the Bible	179
Eck, Johann Maier von	189	Enoch	198
Eckhart	100	Enoch, The Book of	198
Eclecticism	764	Enoch, The Book of Secrets of	198
Ecstasy	182	Ephesus	201
Eddy, Mrs. Mary Baker Glover	192	Ephesians, The Epistle to the	202
Eden	195	Ephraem Syrus	201
Eden	196	Epicurianism	200
Edersheim, Alfred	195	Epicouros (Epicurus)	200
Edessa	195	Epiphanius	200
Edmund, St.	196	Epiphany	200, 462
Edrei	196	Episcopal Church, The	297
Edwards, Jonathan	197	Episcopal Church of Scotland, The	705
Edwards, Jonathan, the younger	198	Episcopius, Simon	200
Egglston, Edward	190	Epistles	613
Egypt	183	Epworth Leagues	201
Egypt Exploration Fund	186	Era	323
Egyptian Versions of the Bible	187	Erasmus, Desiderus	205
Egyptians, The Gospel according to the	186	Erastianism	205
Eliloque Controversy	759	Erdmann, Johann Eduard	216
Elam	207	Erigena, Scotus	208
Elath or Eloth	206	Eraskine, Ebenezer	216
Eldad and Modad, The Book of	216	Erskine, Thomas	216
Elentics	216	Esarhaddon	183
		Eschatology	554

	Page.		Page.
Escorial	187	Feast of Circumcision, The	251
Esdras, The First Book of	194	Feast of Conception, The	399
Esdras, The Second Book of	194	Feast of Seven Dolours of the B. V. M., The	572
Essays and Reviews, The	191	Feast of Tabernacles, The	1274
Essenes	191	Feast of the Annunciation, The	834
Esther	187	Feast of the Dedication, The	1319
Esther, The Book of	187	Fechner, Gustav Theodore	1155
Eternal Life	246	Fénelon, Françoise de Salignac the la mothe	1153
Eternal Punishment	246	Fergusson, David	1145
Ethical Teachings of Christianity	1481	Festivals	599
Ethiopia	195	Fetichism or Fetishism	1033
Ethiopic Versions	195	Feuerbach, Ludwig Andreas	1156
Eunomius	1379	Fichte, Immanuel Hermann	1146
Euodia	1376	Fichte, Johann Gottlieb	1146
Euphrates	1394	Fiji Islands	1146
Eusebius, Bishop of Caesarea	1378	Finland	1150
Eusebius, Bishop of Emesa	1378	Finney, Charles Grandison	1150
Eusebius of Nicomedia	1378	Fiske, John	1145
Eusebius of Thessalonica	1378	Flacius, Matthias	1168
Eutyches	1379	Flavianus	1168
Eutychianism	1379	Fletcher, Giles	1178
Evangelical	1162	Fletcher, John William	1178
Evangelical Alliance, The	1162	Fliedner, Theodor	1175
Evangelical Association, The	1161	Flint, Robert	1176
Evangelist	181, 1162	Flood, The	463
Eve	130	Fogazzaro, Antonio	1156
Evilmerodach	199	Font	771
Excommunication	1049	Foot-Washing	769
Exegesis	742	Formosus	1158
Exodus, The Book of	600	Formula of Concord	127
Exorcism	245	Fowcett, John	1156
External Unction	561, 1299	Fox, George	1157
Ezekiel	188	Foxe (or Fox), John	1158
Ezekiel, The Book of	188	France	1169
Ezion-geber	183	Francis of Assisi	1172
Ezra	193	Francis of Paula	1174
Ezra, The Book of	193	Francis of Sale	1174
		Franciscans	1174
F		Francke, August Hermann	1169
Faber, Frederick William	1154	Frankincense	239, 961
Faber, George Stanley	1155	Frederick III, the Pious	1176
Faber, Stapulensis Jacobus	1144	Frederick III, the Wise	1175
Facundus	1144	Free Church, The	687
Fairbairn, Andrew Martin	1150	Free Church Federation, The	687
Faith	640	Free Church of Scotland, The	705
Fall of Man	800	Free Congregations, The	687
Farrar, Frederic William	1145	Free Religious Association, The	687
Fasting	802	Free Thinkers	687
Fatalism	845	Free Will	686
Faustus Rejensis or Regiensis	1144	Free-Will Baptists, The	686
Faydm Gospel Fragment, The	1145	Freeman, James	1176
Feast	599	French Versions	1172

	Page.		Page.
Freylingshausen, Johann Anastasius	1167	General Assembly... ..	774
Friends, The Society of	1179	General Conference	774
Friends of God, The	269	Genesaret	460
Friends of Light, The... ..	1122	Genesis, The Book of	501
Frith or Fryth, John	1175	Geneva	679
Froment, Antoine... ..	1180	Genevieve, St.	679
Froude, Richard Hurrel	1168	Gennadius	681
Fry, Elizabeth	1166	Gentiles	129
Fuller, Andrew	1177	Gentilis, Giovanni Valentino	680
Fuller, Thomas	1178	Gentillet, Innocent	681
Funeral Rites	499	Geoffrey of Monmouth	679
Future Life	1819	George, St.	690
		George III.	459
G able, Johann Philipp	303	Georgian Versions	690
Gabriel	303	Georgius... ..	690
Gabriel Sionita	303	Gerhardt, Paul	461
Gad... ..	303	Gerizim	461
Gad	303	Germain De Auxerre, St.	680
Gadara, Gadarenes	302	Germain De Paris, St.... ..	680
Galatia, Galatians	303	German Catholics... ..	920
Galatians, The Epistle to the	303	German Reformed Church... ..	926
Galaudet, Thomas Hopkins	309	German Theology... ..	920
Galileo, Galilei	308	German Versions of the Bible	925
Gallican Church, The	307	Germany	918
Gallican Confession, The	307	Gerson, Jean Charlier... ..	680
Gallilee	307	Gesenius, Wilhelm	459
Gallilee, The Sea of	308	Gethsemane	459
Gallio	307	Gibbon, Edward	367
Gallitzin, Demetrius Augustine... ..	307	Gibbons, James	367
Gamaliel... ..	303	Gideon	367
Gardiner, Stephen	302	Gieseler, Johann Karl Ludwig... ..	366
Garnet, Henry Highland	309	Gifford Lectures	367
Gasparin Agénor, Comte de	302	Gilbert of Sempringham	373
Gataker, Thomas	302	Gilead	374
Gaul	491	Giles, St.... ..	685
Gausson, François Samuel Robert Louis	489	Gilgal	373
Gavazzi, Alessandro	299	Gill, John	373
Gaza	302	Gillet, Ezra Hall	374
Gebhard II., Truchsess von Waldburg	460	Gilpin, Bernard	373
Gebhardt, Osker von	461	Ginsbury, Christian David... ..	374
Geddes, Alexander	459	Giovanni di Capistrano	255
Geddes, Janet or Jenny	459	Gladstone, William Ewart... ..	402
Gehenna... ..	461	Glanvil, Joseph	405
Geiger, Abraham	298	Gnosticism	1029
Geiler, Johann	299	Gobat, Samuel	490
Gelasius I.	679	God (in O. T.)	257
Gelasius II.	679	God (in N. T.)	260
Gellert, Christian Fürchtgott	462	God (in the Church)	262
Gemara	461	Godet, Frédéric	490
Genealogy, Biblical	422	Godfrey of Bouillon	490
Genealogy of Jesus Christ	423	Goerres, Johann Joseph	461
		Goethe, Johann Wolfgang	459

	Page.		Page.
Goeze, Johann Melchior	459	Grundtwig, Nicolai Frederick Severin	406
Gog... ..	487	Grynneus, Simon	405
Gogerly, Daniel John	488	Gualbert, Giovanni	309
Goldsmith, Oliver	493	Guilt Offering	453
Golgotha	491	Guise, François de and Charles de	366
Golham Case, The	494	Guise, Henry de	366
Goliath	490	Guizot, François Pierre Gillaume	366
Gomorrah	490	Guthrie, Thomas	302
Good Friday... ..	737	Gutzlaff, Karl Friedrich August	368
Goodel, William	401	Guyon, Jeanne Marie Bouvier de la Mothe	368
Goodwin, John	401	Gypsy Smith... ..	685
Gordon, Charles George	492		
Gore, Charles... ..	487	H abakkuk	1038
Gorton, Samuel	401	Habakkuk, The Book of	1038
Goshen	489	Hackett, Horatio Balch	1035
Gospel, Gospels	1161	Hadrrian	1038
Gossner, Johannes Evangelista	488	Haeckel, Ernst Heinrich	1196
Goth	488	Hagar	1035
Gothic Architecture, The	489	Hagenbach, Karl Rudolf	1035
Gothic Versions	489	Haggi	1035
Gottschalk	489	Haggi, The Book of	1035
Gouge, William	299	Hagiographa, The	1035
Gounod, Charles François	401	Hahn, Johann Michael	1054
Grace	1325	Hahn-Hahn, Ida Countess... ..	1056
Graf, Karl Heinrich	401	Haldane, James Alexander and Robert	1050
Graham, Isabella	404	Hale, Edward Everett... ..	1206
Gratian	402	Hall, Charles Cuthbert	1267
Gratry	404	Hall, Christopher Newman	1266
Graul, Karl	401	Hall, John Vine	1267
Gray, Asa	407	Hall, Joseph... ..	1267
Gray, Thomas	407	Hall, Robert	1267
Greece	368	Hallelujah	1053
Greek Church, The	369	Halley, Robert	1053
Greek Versions	371	Hallock, William Allen	1053
Green, Ashbel	405	Ham	1048
Green, Thomas Hill	405	Hamann, Johann Georg	1046
Greg, William Rathbone	407	Hamilton, Patrick	1048
Grégoire, Henrie	408	Hamilton, Sir William	1047
Gregor von Heimbury... ..	411	Hammond, Henry	1048
Gregorius Neo-Caesarensis Thaumaturgus	411	Hammurabi, The Code of	1049
Gregory of Nazianzen	408	Hampden, Renn Dickson	1048
Gregory of Nyssa... ..	408	Händel, Georg Friedrich	1212
Gregory of Tours... ..	408	Hanna, William	1055
Gregory I, the Great	409	Hannah	1055
Gregory VII... ..	410	Hannington, James	1056
Gregory XIII	411	Harbaugh, Henry... ..	1052
Gregory XVI	411	Hare, Julius Charles	1192
Greswell, Edward... ..	407	Harmony of the Gospels	1162
Griesbach, Johann Jakob	405	Harms, Claus... ..	1052
Grimthorpe, Edmund Beckett	405	Harms, Georg Ludwig Detlev Theodor	1053
Grossetest, Robert	411	Harnack, Adolf	1051
Grotius, Ifugo	412		

	Page.		Page.
Harper, William Rainey	1039	High Priest	498
Harris, James Rendel... ..	1050	Higher Criticism	240
Harris, Thomas Lake	1050	Hilary	1126
Hart, Joseph... ..	1037	Hildebrand	1127
Hartley, David	1038	Hill, Rowland	1127
Hartmann, Karl Robert Eduard von	1050	Hillel	1127
Hasting, Thomas	1195	Hincmar of Rheims	1127
Hatch, Edwin	1037	Hinnom, The Valley of	1127
Hatfield, Edwin Francis	1037	Hippolytus	1124
Haug, Martin	1034	Hittites, The... ..	1196
Havelock, Henry, Sir	1034	Hizig, Ferdinand	1123
Havergal, Francis Ridley	1034	Hoarly, Benjamin	1205
Havilah	1034	Hobbes, Thomas	1205
Hawaiian Islands	1054	Hodge, Charles	1263
Heber, Reginald	1124	Hodgson, Shadworth Hollway	1264
Hebrew Language, The	1198	Hofmann, Johann Christian Karl	1264
Hebrew Poetry	1198	Hoffmann, Ludwig Friedrich Wilhelm	1264
Hebrews... ..	1205	Hoffmann, Melchior	1264
Hebrews, The Epistle to the	1198	Holiest Place, The	570
Hebrews, The Gospel according to the	1205	Holiness... ..	650
Hebron	1206	Holland	1268
Hedonism	399	Holtzmann, Heinrich Julius	1268
Hefele, Karl Josef von	1197	Holy Alliance, The	652
Hegel, Georg Wilhelm Friedrich	1193	Holy Fire	737
Hegesippus	1195	Holy Land, The	750
Heidelberg Catechism... ..	1033	Holy Numbers	749
Hell... ..	828	Holy Orders	614
Helmholz, Hermann Ludwig Ferdinand von... ..	1208	Holy Place, The	741
Helvetic Confessions	1206	Holy Sepulchre, The	753
Helvetius	210	Holy Spirit	753
Henderson, Alexander... ..	1212	Holy Week, The	739
Hengstenberg, Ernst Wilhelm	1211	Homiletics	763
Henotheism	791	Homousian, Homousian	1266
Henry, Matthew	1213	Honorius	231
Herbart, Johann Friedrich	1208	Honorius I	231
Herder, Johann Gottfried	1207	Hooper, John	1165
Heresy	125, 1209	Hope	1030
Hermas	1208	Hopkins, Samuel	1266
Hermeneutics	593	Hopkinsianism	1266
Hermon	1209	Horeb	1269
Herod	1209	Horsley, Samuel	1268
Herrmann, Wilhelm	1208	Hort, Fenton John Anthony	1268
Herzog, Johann Jakob	1206	Hosanna... ..	1261
Heterodoxy	1196	Hosea	1261
Heusser, Mrs. Meta	1256	Hosea, The Book of	1261
Hexateuch	1352	Howard, John	1034
Hezekiah	1196	Hughes, Hugh Price	1121
Hilbert Lectures... ..	1123	Hugo of St. Victor	1379
Hieroglyphics	594	Huguenots	1376
Hieronymus	102, 1122	Humanitarians	692
High Church... ..	240	Humanists	692
High Places	782	Hume, David	1121

	Page.		Page.
Humility	453	" XI... ..	143
Hungary... ..	1055	" XII.	143
Hupfeld, Hermann	1166	" XIII.	143
Hus or Huss, John	1163	Inquisition	551
Hussites	1165	Inspiration	136, 1499
Hutcheson, Francis	1037	Intercession	912
Hutton, Richard Holt... ..	1037	Intermediate State, The	805
Huxley, Thomas Henry	1036	Introduction to the Books of the Bible	744
Hymns	527	Introduction to the Books of the N. T.	662
Hyssop	1123	Introduction to the Literature of the O. T.	317
Iceland	3	Intuitionism	826
Iconium	107	Irenaeus	131
Idealism... ..	1536	Irenical Theology or Irenics	131
Idolatry and Image Worship	401	Irving, Edward	53
Ignatius	103	Isaac	107
Ignatius, Father	103	Isaiah	107
Ignatius Loyola	104	Isaiah, The Book of	108
Ignatius of Antioch	103	Ishbosheth	112
Ignorantines	104	Ishmael	112
Illuminati	131	Israel	112
Illumination	131	Issachar	127
Illumination Period, The	426	Italy	124
Image of God... ..	267	Itinerancy	688
Immaculate conception of Virgin Mary	1324	Iturza	128
Immanence	954	Jacob	1367
Immanuel	143	Jacob Baradaeus	1374
Immersion	671	Jacob of Edessa	1369
Immortality of the Soul	1497	Jacobi, Friedrich Heinrich... ..	1367
Incarnation, The	440	Jacobites... ..	1373
Incense	239	Jacob's Well	1373
Incumbent	132	Jacopone Da Todi... ..	1374
Independents	939	Jah	1367
Index Librorum Prohibitorum vel Expurgan- dorum... ..	361	James	1368
India or Hindustan	138	James, The Epistle of	1370
Infallibility of Pope	1016	James, William	679
Infant Baptism	594	Jannes and Jambres	1375
Infrahumanism... ..	143	Jansen, Cornelius... ..	1374
Ingham, Benjamin	132	Jansenism	1375
Innocent I.	141	Japan	973
" II.	141	Japanese Versions of the Bible... ..	1017
" III... ..	141	Japeth	1374
" IV... ..	142	Jaweh	1367
" V.	142	Jeanne D'Albert	686
" VI... ..	142	Jebus	201
" VII.	143	Jebusite	201
" VIII.	143	Jehoiachin	204
" IX.	143	Jehoiada... ..	201
" X.	143	Jehoiakim	204
		Jehoram or Joram	204
		Jehovah... ..	203

	Page.		Page.
Jehovah Document or Jahwist, The...	203	Joppa	1410
Jehu	199	Jordan, The	1454
Jephthah	200	Joris, Johann David	690
Jeremiah	216	Joseph	1407
Jeremiah II.	219	Joseph II.	1409
Jeremiah, The Book of	217	Joseph, The Husband of Mary	1408
Jeremiah, The Epistle of	219	Joseph of Arimathæa	1408
Jericho	208	Joseph the Carpenter, The History of	783
Jeroboam	1374	Josephs, Flavius	1409
Jerome	220	Joshia	1404
Jerome (Jeronymus) von Prague	680	Joshuah, The Book of... ..	1404
Jerusalem	210	Jovianus, Flavius Claudius	1396
Jerusalem Chamber, The	213	Jubilees, The Book of (or Little Genesis)	1454
Jesuits	75	Judah	1381
Jesus Christ	79	Judaism	1383
Jesus, The Teaching of	96	Judaizers	1382
Jesus, The Son of Sirach	102	Judas Iscariot	1381
Jew, Jews	1385	Judas of Galilee	1382
Jewell, John	687	Jude, The Lord's Brother	1382
Jewish Christians or Judaizers	1383	Jude, The Epistle of	1384
Jews' Religion or Judaism, The... ..	1383	Judges	568
Jezebel	124	Judges, The Book of	568
Jezreel	188	Judgment	511
Joan of Arc	688	Judith, The Book of	1383
Job, The Book of... ..	1449	Judson, Adonirum	685
Joel, The Book of... ..	1396	Julian (Flavius Claudius Julianus)	1395
Johannes Krafft	382	Julius Africanus, Sextus	1396
John	690	Julius II.	1396
John IV.	1425	Justification	592
" VIII.	1425	Justin Martyr	1380
" X.	1425	Justinian I.	1380
" XII.	1425		
" XXII.	1425		
" XXIII.	1425		
John, Frederick	1449	K adesh	251
John, Nepomuk	1449	Kaftan, Julius	256
John of Chur (Coir)	689	Kahnis, Karl Friedrich August... ..	254
John of Damascus... ..	1424	Kaldi, Georg... ..	283
John of Monte Corvino	681	Kalteisen, Heinrich	282
John of Salisbury... ..	691	Kant, Immanuel	293
John the Apostle	1415	Kapff, Sixt Karl	249
John the Constant	1448	Keats, John	329
John the Baptist	1422	Keble, John	330
John, The Gospel according to... ..	1430	Keckerman, Bartholomäus... ..	445
John, The First Epistle of... ..	1425	Kedron or Kidron	446
John, The Second Epistle of	1428	Keikyo	419
John, The Third Epistle of	1429	Keim, Karl Theodor	238
John, The Revelation of	1441	Keith, Alexander	323
Johnson, Samuel	691	Keith, George	324
Jonah, The Book of	1413	Kells, The Book of	450
Jonas, Justus... ..	1414	Kempis, Thomas &	447
Jonathan... ..	1415	Ken, Thomas... ..	452
		Kennicott, Benjamin	458

	Page.		Page.
Kenosis Theory,	447	Lamentations	2
Kenrick, Francis Patrick	458	Landerer, Maximilian Albert von	1469
Ketteler, Wilhelm Emanuel Baron von	446	Lanfrance	1469
Khammurabi, The Code of... ..	1049	Lange, Johann Peter	1468
Khles, Melchior	389	Langton, Stephen... ..	1468
Kidd, Benjamin	320	Language of the O. T.	318
Kierkegard, Sören Aaby	356	Lansdell, Henry	1468
Kilham, Alexander	356	Laodicea... ..	1457
Kimichi or Kimhi, David	331	Lardner, Nathaniel	1468
King, Jonas	356	Lasco, Johannes à, or Jun Laski	1461
King, Thomas Starr	356	Lateran Councils	1463
Kingdom of God, The... ..	287	Latimer, Hugh	1462
Kingdom of Heaven, The	875	Latin Versions	1463
Kingdom of Israel, The	122	Latitudinarians	1462
Kingdom of Judah, The	1386	Latter-Day Saints, The	1299
Kings, The First Book of the	1505	Laud, William	1524
Kings, The Second Book of the	1505	Lavater, Johann Kasper	1466
Kingsley, Charles... ..	356	Law... ..	222
Kirk, Edward Norris	281	Law, William	1514
Kirkland, Samuel... ..	281	Law of Guaranty, The	791
Kitto, John	329	Lazarus of Bethany	1460
Klarenbach, Adolf	382	Leathes, Stanley	1475
Klopstock, Friedrich Gottlieb	395	Lebanon... ..	1509
Knapp, Albert	378	Lebbaeus	1505
Knipstro, Johann... ..	379	Lecky, William Edward Hartpole	1504
Knobel, Karl August	379	Lee, Ann	1470
Knollgs, Hanserd	1032	Lee, Samuel	1470
Knox, John	1030	Legend of Abgar, The... ..	29
Kohlbrügge, Hermann Friedrich	475	Legendary Theory	464
Kohler, Christian and Hieronymus	476	Leibniz, Gottfried Wilhelm	1455
Köln	451	Leighton, Robert... ..	1507
Komander (Dorfmann), Johann	466	Leo I, the Great	1499
König, Samuel... ..	446	Leo III	1500
Königsberg Religious Movement, The	446	Leo IX	1500
Konrad, of Marburg	487	Leo X	1501
Korea	287	Leslie, Charles	1504
Krell or Crell Nikolaus	393	Lessing, Gotthold Ephraim	1504
Krüdener, Barbara Juliane Baroness von	386	Levi	1509
Krummacker, Friedrich Wilhelm	388	Leviticus, The Book of	1510
Kuener, Abraham	376	Liberius	1479
Kunze, John Christopher	400	Libertines	1480
		Life and Death	128
		Lightfoot, John	1455
		Lightfoot, Joseph Barber	1455
L a Chaise, François de	1460	Liguori, Alfonso Maria da	1474
La Salle, Jean Baptiste de	1460	Limborck, Philipp van	1480
Labadie, Jean de	1465	Lipsius, Richard Adelbert	1479
Lachmann, Karl	1465	Liturgics	1499
Lacordaire, Jean Baptiste. Henrie	1460	Liturgy	1499
Lactantius Firmianus	1457	Livingston, David	1472
Ladd, George Trumbull	1462	Livington, John Henry	1472
Lamb of God, The	289	Llorente, Don Juan Antonio	1480
Lamennais, Hugues Felicite Robert de	1467		

	Page.		Page.
Local Preachers	844	Mammon	1301
Locke, John	1521	Man... ..	1124
Lodge, Sir Oliver Joseph	1522	Manasseh	1300
Logos	1515	Mani	1300
Loisy, Alfred	1514	Manichæism	1301
Lollards, The	1513	Manna	1300
Lombardus, Petrus	1535	Manning, Henry Edward	1313
Longfellow, Henry Wadsworth	1535	Mansel, Henry Longueville	1312
Lord	598	Manuscripts of the Bible	744
Lord of Hosts, The	1081	Marcion	1306
Lord's Day	605	Marcion, The Gospel of	1307
Lord's Prayer	602	Marcus Aurelius	1307
Lord's Supper	603	Marheineke, Philipp Konrad	1312
Lorenzo Campeggi	271	Mariolatry	1306
Lot	1523	Mark	1287
Lots... ..	377	Mark, The Gospel according to... ..	1288
Louis, St. or Louis IX... ..	1483	Marnix, Philipp von	1311
Love	1	Marriage... ..	479
Love Feasts	3	Marsden, Samuel	1308
Lower Criticism	251	Marshman, Joshua	1308
Loze, Hermann Rudolf	1522	Martensen, Huns Lassen	1311
Lucian of Samosata	1487	Martin I.	1311
Lucian the Martyr	1487	Martin IV.	1311
Lücke, Gottfried Christian Friedrich	1474	Martin V.	1311
Ludovicius Cappellus	249	Martin, Sarah	1310
Luke, The Gospel according to... ..	1484	Martin of Tours, St.	1309
Luke the Evangelist	1484	Martineau, James... ..	1309
Lullus, Raymundus	1489	Martyn, Henry	1310
Luthardt, Christoph Ernst... ..	1488	Martyrdom, Martyr	688
Luther, Martin	1490	Marx, Heinrich Karl	1308
Luthran Church, The	1494	Mary	1303
Lycaonia	1484	Mass, The	1291
Lycia	1487	Massacre of St. Bartholomews	752
Lynch, Thomas Toke	1481	Massillon, Jean Baptiste	1298
Lyon, Mary	1454	Materialism	1538
Lystra	1487	Mather, Cotton	1290
Lyte, Henry Francis	1454	Mather, Increase	1290
		Mather, Richard	1290
M abillon, Jean... ..	1301	Matheson, George... ..	1292
Maccabees	1294	Matthew, The Gospel according to	1293
Maccabees, The Book of	1295	Matthew the Apostle	1292
Macedonia	1286	Matthias... ..	1299
Maclod, Norman... ..	1298	Maurice, John Frederic Denison	1360
Madonna	1300	Maurice of Saxony, Prince... ..	1361
Magdalen, The Order of	1286	Max Müller, Friedrich	1297
Magi	1035, 1282	Maximus Confessor	1282
Magic, Magician	1291	Maxmillian II.	1281
Magog	1290	McCrie, Thomas	1298
Maimonides, Moses	1281	McIlvaine, Charles Pettit	1296
Malachi, The Book of... ..	1301	McMillan, John	1297
Malebranche, Nicolas	1312	McCosh, James	1290
		Meal Offering... ..	775

	Page.		Page.
Means of Grace	237	Moabite Stone, The	1343
Mechanical View of the World	322	Modernism	360
Medes	1333	Mohammed	1358
Medhurst, Walter Henry	1334	Mohammedanism	397
Mediator, Mediation	806	Moloch	1364
Medley, Samuel	1334	Molinos, Miguel de	1362
Melanchthon, Philip	1334	Moloch	1364
Melchizedek	1338	Monarchianism	1357
Meletius of Antioch	1339	Monastery and Monasticism	674
Meletius of Lycopolis	1339	Monastery of Clugny, The... ..	388
Melita	1337	Moncreiff, Sir Henry Wellwood	1364
Melville, Andrew... ..	1337	Money, Coins... ..	358
Mendelssohn, Moses	1339	Monica	1358
Mendicant	782	Monism	126
Menno Simons	1340	Monk	552
Mennonites	1340	Monophysites	127
Merodach	1339	Monothelism	1536
Messiah	1331	Monothelites... ..	126
Methodism or Methodist Church	1325	Monsell, John Samuel Bewley	1365
Methodist Protestant Church	1319	Montaign, Michel Eyquem... ..	1366
Metropolitan	792	Montanism	1365
Mexico	1325	Montesquieu, Charles de Secondat	1366
Meyer, Heinrich August Wilhelm	1280	Montgomery, James	1366
Micah	1316	Moody, Dwight Lyman	1324
Micah, The Book of	1316	Moore, Thomas	1342
Michael	1317	Moral Argument	927
Michael VII (Palaeologus)	1318	Moravian Church	1360
Michaelis, Johann David	1317	More, Hannah, Miss	1342
Middleton, Congers	1318	More, Henry... ..	1342
Midian, Midianites	1319	More, Sir Thomas... ..	1341
Midrash	1319	Morgan, Thomas	1362
Miletus	1322	Moriah	1360
Milicz of Kremzier	1320	Mormons, Mormonism... ..	1362
Miltiades	1320	Morrison, Robert	1361
Mill, John Stuart... ..	1320	Moses	1344
Millenarianism, Millennium	770	Mosheim, Johann Lorenz von	1343
Mills, Samuel John	1320	Mount of Olives, or Olivet... ..	298
Milman, Henry Hart	1321	Mozley, James Bowling	1356
Milton, John... ..	1321	Mühlenberg, Heinrich Melchior	1315
Minerals in the Bible	399	Mühlenberg, William Augustus	1315
Minister... ..	438	Müller, George	1314
Minor Prophets, The	595	Müller, Julius	1314
Minucius Felix, Marcus	1319	Münzer, Thomas	1316
Miracles	324	Muratorian Bible, The	1324
Mishna	1318	Music	236
Miss, The	1318	Myrrh	1356
Mission Schools	344	Mysticism	653
Missionary	768	Mythical Theory	673
Missionary Societies	900		
Missions	892	N aaman	958
Mizpah	1319	Nahor	958
Moab	1343		

	Page.		Page.
Nahum, The Book of	957	Nicodemus, The Gospel of	965
Nain	954	Nicolai, Philip	965
Nante, The Edict of	958	Nicolai Krypffs, or Krebs	376
Naphthali	957	Nicolaitans	966
Nard	958	Nicolas	965
Nasmith, David	956	Nicoll, William Robertson	966
Nathan	957	Nicopolis	965
Nathanael	956	Niedner, Christian Wilhelm	972
Nature Worship	572	Niezche, Friedrich Wilhelm	967
Nazarene	956	Nightingale, Florence	954
Nazareth	955	Nihilism	333
Nazarite	955	Nihon Kirisuto Kyokwai (Japan Christian Church), The	995
Neal, John Mason	1018	Nihon Kuriai Kyokwai (Japan Congregational Church), The	999
Neander, Johann August Wilhelm	1019	Nihon Methodist Kyokwai (Japan Methodist Church), The	1011
Neapolis	1019	Nihon Sei-ko-kwai (Episcopal Church of Japan), The	1007
Nebo	1023	Nihon Sei-Kyokwai (Greek Catholic Church of Japan), The	1003
Nebo	1023	Niishima, Jo (Neesima, Joseph Hardy)	959
Nebuchadnezzar	1022	Nile, The	1018
Neco	1020	Nimrod	1018
Nectarius	1020	Nineveh	973
Nehemiah	1023	Nisan	967
Nehemiah, The Book of	193	Nitschman, David	972
Nemesius	1023	Nitzsch, Karl Immanuel	972
Nennius	1025	Noah	1025
Neo-Platonism	654, 1020	Noah, The Book of	1027
Nergal	1024	Nominalism	1538
Neri, Philipp de	1023	Nonconformity	1122
Nero	1024	Nordheimer, Isaac	1033
Nerses Clayensis	1024	North, Brownlow	1032
Nerses Lambronensis	1024	Norton, Andrews	1033
Nestor	1022	Norway	1032
Nestrians	1021	Notre Dame	1032
Nestorius	1020	Nott, Eliphale	1032
New Birth	650	Novalis, Friedrich von Hardenberg	1027
New England Theology, The	638	Novatianus	1027
New Jerusalem Church, The	640	Nowell, Alexander	1028
New Moon	616	Numbers, The Book of	1322
New Testament, The	657	Nun, Nunnery	33
New Testament History	662		
New Testament Theology	661		
New Testament Times, The	663		
New Year	653		
Newell, Samuel and Harriet	960		
Newman, John Henry	961		
Newton, John	961		
Newton, Sir Isaac	961		
Nicene Creed and Nicaeno-Constantinopolitan Creed, The	963		
Nicholas de Cusa	376		
Nicholas I	966		
Nicholas V	966		
Nicolemus	964		
		Oates, Titus	230
		Oath	807
		Obadiah, The Book of	231
		Oberlin, Jean Frédéric	232
		Oberlin Theological Seminary	233
		Oberlin Theology	233
		Occam, William	227

	Page.		Page.
Occasionalism	323	Pachomius	1107
Ochino, Bernardino	225	Paganism	104
Oecolampadius, Johann	182	Paine, Thomas	1254
Ecumenical Councils	761	Palestine	1118
Oehler, Gustav Friedrich	219	Paley, William	1252
Oettinger, Friedrich Christoph	192	Palissy, Bernard	1116
Offering	506	Palladius	1113
Olaf, St.	233	Palm	612
Old Catholics, The	309, 464	Palm Sunday, The	612
Old Testament, The Text of	317	Pamphilus	1111
Old Testament Canon	319	Pamphylia	1112
Old Testament History	319	Pantaenus	1020
Old Testament Theology	317	Pantheism	1080
Olearius	235	Papacy and Papal System	1044
Olevianus, Caspar	235	Papal States	1046
Olga St.	235	Papias	1110
Olier, Jean Jacques	233	Parables	784
Olin, Stephen	235	Paraclete	954
Olivers, Thomas	233	Paradise	1112
Olivetari, Pierr Robert	233	Parish	429
Olivi, Pierr Jean	233	Parker, Joseph	1105
Ollivant, Alfred	233	Parker, Matthew	1106
Olshausen, Hermann	235	Parker, Theodore	1105
Onderdonk, Henry Ustic	238	Parthians	1117
Oneida Community, The	231	Pascal, Blaise	1108
Onesimus	231	Paschalis II	1107
Onkelos	238	Passion Play	688
Ontological Argument	684	Passion Week, The	688
Oosterzee, Jean Jakob van	226	Passover	697
Optatus	232	Pastor	1270
Optimism, Pessimism	1458	Pastral Epistles, The	1270
Ordination	64	Pastral Theology	1270
Origen	233	Patmos	1109
Original Sin	462	Patriarch	439
Orosius, Paulus	236	Patrick, St.	1110
Orthodoxy and Heterodoxy	752	Patricians	1109
Osgood, Samuel	226	Patristics and Patrology	439
Osiander, Andreas	226	Paul the Apostle	1086
Osmond, St.	226	Paulicians	1083
Oswald, St.	226	Paulinus, Pontius Meropius Amicius	1083
Otfried of Weissenburg	230	Paulus, Heinrich Eberhard Gottlob	1084
Otho of Bamberg	230	Paulus III	1084
Otho of Freising	230	Paulus IV	1085
Otterbein, Philip William	230	Paulus V	1086
Oudin, Casimir	173	Paulus, Sergius	1104
Owen, John	221	Pazmany, Peter	1109
Owen, Robert	222	Peabody, George	1136
Owen, Robert Dale	222	Peace of Augsburg, The	8
Oxford	228	Peace of Westphalia, The	160
Oxford Movement, The	228	Peace Offering	540
Ozanam, Antoine Frédéric	226	Pelagianism	1246

	Page.		Page.
Pelagius	1244	Pilate	1137
Penance	833	Pilgrim Fathers, The	1141
Penitential Psalms	539	Pilgrimage	750
Penitentiales	832	Pillar-Saints	806
Penn, William	1252	Pisgah	1135
Pentateuch	1351	Pisidia	1135
Pentecost	1254	Pius I	1131
Perfectionism	291	Pius II	1131
Pergamus or Pergamum	1248	Pius IV	1132
Perowne, John James Stewart	1252	Pius V	1132
Perrone, Giovanni	1251	Pius VI	1132
Persia	1249	Pius VII	1133
Pessimism	1122	Pius IX	1133
Pestalozzi, Johann Heinrich	1227	Platon or Plato	1187
Petavias, Dionysius	1228	Plotinus or Plotinos	1192
Peter, Martyr Vermighli	1134	Plymouth Brethren, The	1188
Peter, The First Epistle of	1238	Poiret, Pierre	1274
Peter, The Second Epistle of	1242	Poland	1275
Peter, The Gospel of	1243	Pole, Reginald	1277
Peter, The Teaching of	1243	Polemics	1536
Peter the Apostle, Simon	1228	Polycarp	1276
Peter the Hermit	1135	Polygamy	783
Peter the Venerable	1135	Polyglot Bible	701
Pew	537	Polytheism	783
Pleiderer, Otto	1167	Pontius, Pilate	1278
Pharaoh	1119	Pope	1039
Pharisees	1114	Pope, Alexander	1275
Philadelphia	1125	Pordage, John	1278
Philaster	1146	Portage, Noah	1277
Philemon	1143	Portugal	1277
Philemon, The Epistle to	1143	Positivism	684
Phillip, The Gospel of	1140	Potter, Alonzo	1274
Philip II	1155	Practical Theology	684
Philip the Apostle	1140	Pragmatism	684
Philip the Evangelist	1141	Prayer	325
Philip the Fair	1147	Preaching or Sermon	762
Philip the Magnanimous	1146	Predestination, The Doctrine of	1410
Philip the Tetrarch	1141	Presbyter	809
Philippi	1137	Presbyterian Church, The	812
Philippians, The Epistle to	1138	Presbyterianism	809
Philippists	1148	Priest	494
Philistine	1246	Primitive Methodist Connection, The	1190
Philo	1149	Probabilism	299
Philosophy	853	Procopius	1190
Philosophy of Religion	552	Prophecy and Prophet	1398
Phoenicia	1151	Propitiation	957
Phoenix or Phenice	1136	Proselyte	1152
Photius	1156	Prosper of Aquitania	1191
Phrygia	1176	Protagoras	1192
Picture Worship	413	Protestant Episcopal Church, The	1192
Pictures of Christ	348	Protestant Episcopal Church in America, The	1214
Pietism	420	Protestantism	1192

	Page.		Page.
Protevangelium of James, The	1369	Repentance	375
Proverbs, The Book of	646	Reuben	1497
Providence	764	Reuchlin, Johann	1514
Prussia	1191	Reuss, Edward Guillaume	1514
Psalms, The Book of	583	Revival of Religion	1470
Psalter of Solomon, The	780	Revelation	422, 874, 1343
Psychical Research	650	Revelation of John the Divine, The	1441
Psychology of Religion	552	Revelation of Peter, The	1244
Psychology of the Bible	671	Rhegius, Urbanus	1503
Publican	1318	Ricci, Matteo	1475
Pulleyn, Robert	1100	Richelieu, Armand Jean Duplessis de	1474
Punishments	424	Richmond, Legh	1475
Punshon, William Morley	1120	Ridley, Nicholas	1479
Purgatory	1514	Riehm, Edward	1480
Purim	1190	Righteousness	361
Puritans	737	Rippon, John	1477
Purvey, John	1117	Ritschl, Albrecht	1475
Pusey, Edward Bouverie	1134	Ritschlianism	1477
Puseyites	1194	Ritual	365
Pythagoras	1135	Ritualism, Ritualist	365
Quakers	376	Robertson, Frederick William	1525
Quesnel Pasquier	446	Robertson, James Craigie	1525
Quietism	685	Robinson, Edward	1526
Quirinius	390	Robinson, John	1527
Rabanus Maurus	1466	Rogers, Henry	1521
Rabbi, Rabboni	1466	Rogers, James Guinness	1521
Radhertus, Paschasius	1464	Roman Catholic Church, The	1528
Rahab	1465	Romanesque Architecture, The	1535
Raikes, Robert	1504	Romans, The Epistle to the	1531
Rainy, Robert	1503	Rome	1527
Ramsay, William Mitchell	1467	Rose, Henry John	1521
Ramus, Petrus	1467	Rose, Hugh James	1521
Raphael	1466	Rothie, Richard	1523
Rationalism	1540	Rous, Francis	1457
Rea, Andrew	1477	Rousseau, Jean Jaques	1487
Realism	1538	Ruskin, John	1461
Reformation, The	543	Russell, Charles William	1461
Reformed Church, The	1512	Russia	1517
Regeneration or New Birth	650	Ruth	1488
Reid, Thomas	1477	Ruth, The Book of	1489
Reimarus, Hermann Samuel	1457	Rutherford, Samuel	1400
Religion	540	Ruysbrock or Rusbrock	1484
Religion of Humanity, The	691	Ryle, Herbert Edward	1457
Religious Liberty	645	Saadia Ha Gaon, Den Joseph	508
Religious Peace of Nuremberg, The	1019	Sabbath	67
Renaissance, The	1184	Sabbath Day's Journey	67
Renaissance Architecture, The	1497	Sabbath School	67
Renan, Ernst	1508	Sabbatical Year	67
		Sabellianism	512
		Sabellius	511

	Page.		Page.
Sachs, Hans	538	Scaff, Philip	596
Sack, August Friedrich Wilhelm	537	Scepticism	396
Sack, Karl Heinrich	538	Schaftesbury, Antony Ashley Cooper, Third Earl of	596
Sacrament	760	Schauffler, William Gottlieb	595
Sacramentarians	506	Schelling, Friedrich Wilhelm Joseph von	563
Sacred Heart of Jesus, The Society of	749	Schenkel, Daniel	565
Sacrifice	104	Schiller, Johann Christoph Friedrich von	636
Sadducees	508	Schlatter, Michael	611
Sagittarius, Kaspar	505	Schleiermacher, Friedrich Daniel Ernst... ..	608
Sailer, Johann Michael	534	Schmalcaldic League, The	607
Saint	751	Schmalcaldic War, The	606
Saint-Martin, Louis Claude de	534	Schmid, Christian Friedrich	607
Saint-Simson, Claude Henrie Comte de	523	Schmiedel, Paul Wilhelm	607
Saint-Worship	752	Schmolke, Benjamin	608
St. Isidore	112	Schmucker, Samuel Simon... ..	607
St. Paul's Cathedral	769	Scholasticism... ..	707
St. Peter's Cathedral	770	Scholten, Jean Hendrik	636
Salamis	517	Schools in Theology	301
Salem	518	Schopenhauer, Arthur... ..	612
Salmon, George	518	Schrader, Eberhard	611
Salmone... ..	518	Schröckh, Johann Matthias	612
Salome	519	Schultens, Albert	611
Salt... ..	588	Schürer, Emil	561
Salvation, Saviour... ..	698	Schwartz, Christian Friedrich	612
Salvation Army, The	311	Schwegler, Albert	598
Samaria	512	Schwenkfeld, Kasper von	599
Samaritan Pentateuch... ..	513	Science of Religion	549
Samos	517	Scotland... ..	702
Samothrace	517	Scott, Elizabeth	702
Samson	516	Scott, Thomas	702
Samuel	513	Scott, Walter	702
Samuel, The First Book of... ..	514	Scottus Erigena, John	706
Samuel, The Second Book of	514	Scribes	301
Sancroft, William... ..	523	Scripture Union, The	748
Sanctification... ..	750	Scrivener, Frederick Henry Ambrose	701
Sanctuary	740	Scudder, John	696
Sanday, William	525	Seythians	698
Sandeman, Robert	526	Seabury, Samuel	588
Sandys, Edwin	526	Seagrave, Robert	568
Sandys, George	525	Seal, Sealing	132
Sanhedrin	526	Seamon, Bazarus	589
Saukey, Ira David	522	Sears, Barnabas	539
Santa Claus	525	Sears, Edmund Hamilton	539
Sapphira... ..	508	Sebastian, St... ..	766
Sarah, also Sarai	517	Second Coming of Christ, The	349
Sardis	518	Sects or Denominations	552
Sargon	517	Secularism	780
Sarpi, Paolo	518	Sedgwick, Daniel... ..	761
Satan	506	Seeley, John Robert	637
Saul... ..	504	Selah	767
Saul, Joshua	504	Selencia	768
Savonarola, Hieronymus	505		

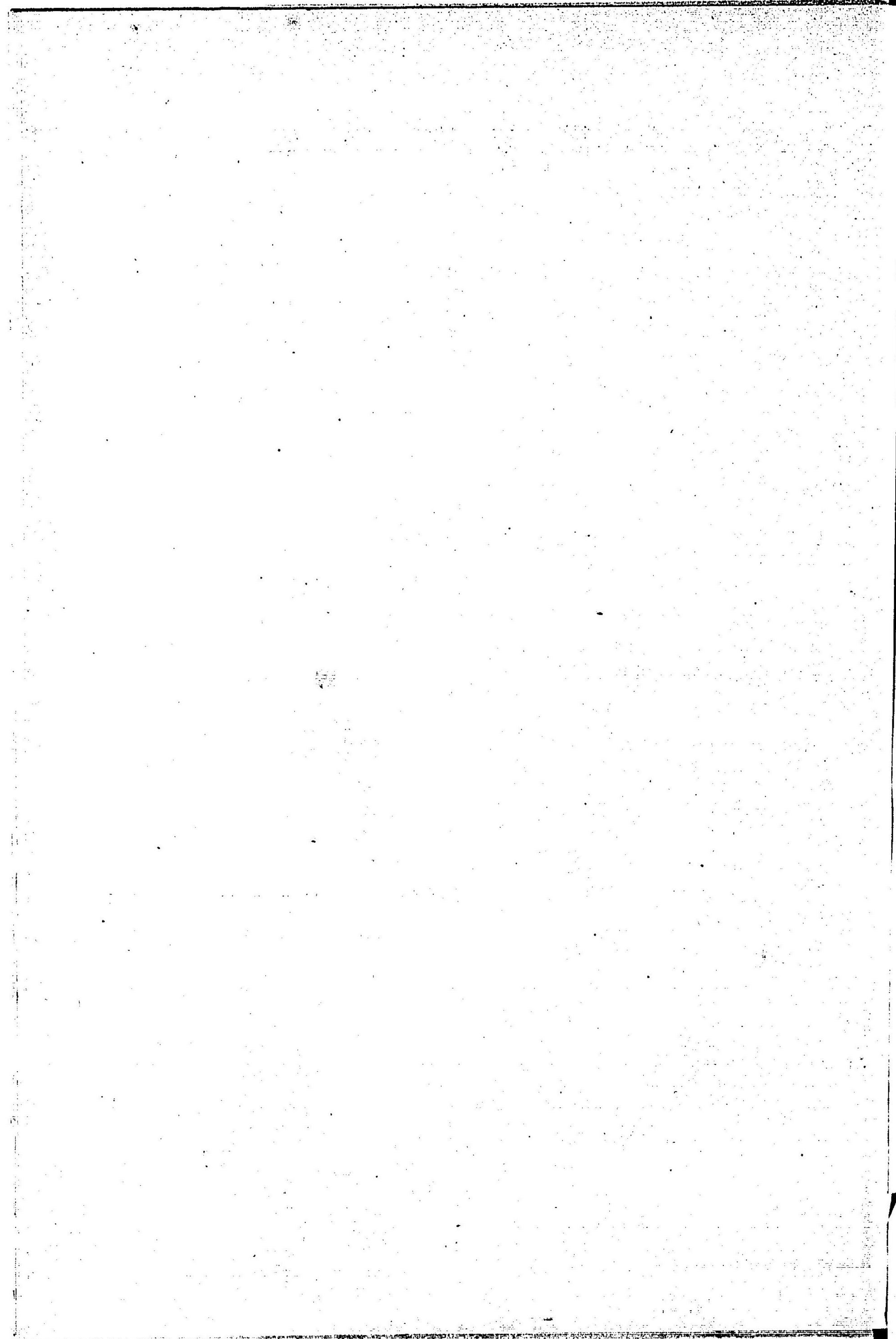
	Page.		Page.
Self-Realization, The Theory of	681	Simon Ben Yockai	590
Selwyn, George Augustus	767	Simon Magus... ..	590
Semi-Pelagianism... ..	1056	Simon of Tournay	590
Semites	766	Sin	834
Semler, Johann Salomo	773	Sin Offering	534
Seneca, Lucius Annaeus	765	Sinai Mount	582
Sennacherib	765	Sixtus IV	567
Septuagint	572	Sixtus V... ..	567
Sermon	762	Slavery, Slave Trade	948
Sermon on the Mount, The	525	Slavonic Version	733
Servant of Jehovah, The	203	Smalcaldic League, The	729
Servetus, Michael... ..	767	Smalley, John	729
Seth... ..	761	Smith, Adam... ..	729
Seton, Elizabeth Ann	578	Smith, Eli	730
Seven Champions of Christendom	572	Smith, George	732
Seventh-day Adventists	761	Smith, George Adam	731
Seventh-day Baptists	761	Smith, Goldwin	730
Severus, Alexander	760	Smith, Henry Boynton	732
Severus, Septimius	761	Smith, John Cotton	732
Sewall, Samuel	599	Smith, John Pye	732
Shakers	561	Smith, Sidney	732
Shakespeare, William	561	Smith, Sir William	730
Shalmaneser	597	Smith, William Andrew	730
Shammai	597	Smith, William Robertson... ..	730
Sharp, James... ..	596	Smyrna	733
Sharp, Grunville	597	Smyth, John... ..	729
Sharpe, Samuel	597	Socialism	595
Shechem... ..	568	Socinians	776
Shekel	568	Socinus, Faustus	776
Shekinah	562	Sociology	595
Shelley, Percy Bysshe... ..	562	Socrates	774
Sheol	1454	Socrates	775
Shepard, Thomas... ..	562	Sodom	778
Sherlock, William	598	Solomon	779
Sheshach	570	Song of Songs, The	299
Shewbread	778	Song of the Holy Three Children, The	523
Shushan	600	Sons of God	268
Sibylline Oracles, The... ..	654	Sophia	778
Sickingen, Franz von	684	Sophists	330
Sidney, Sir Philip	578	Sosthenes	776
Sidgwick, Henry	572	Soteriology	311
Sidon or Zidon	578	Soto, Dominicus de	777
Sieveking, Amalie	685	Soto, Petrus de	778
Sigebert of Gemblours	570	Soule, Joshua	504
Sigismund, Johann	567	South, Robert	500
Sigourney, Lydia Howard Huntley... ..	567	Southwell, Robert	501
Silas or Silvanus	636	Sozomenos, Salamanes Hermias... ..	776
Siloam	637	Spain	723
Simeon	589	Spangenberg, Augustus Gottlieb	720
Simeon	589	Sparrow, William	719
Simon	589	Spencer, Herbert	727
Simon, Richard	591	Spener, Philip Jakob	725

	Page.		Page.
Spenser, Edmund...	727	Suso, Heinrich ...	710
Speratus, Paulus ...	727	Swedenborg, Emanuel...	695
Spinola, Christval Rozas de ...	722	Switzerland ...	692
Spinoza, Baruch de ...	721	Sychar ...	696
Spiritualism ...	298, 759	Synagogues ...	1386
Spitta, Karl Johann Philip ...	720	Synergism ...	650
Sprague, William Buell ...	722	Synoptic Gospels, The...	331
Spring, Gardiner ...	723	Syntyche... ..	733
Spring, Samuel ...	723	Syracuse ...	733
Spurgeon, Charles Haddon...	728	Syria ...	733
Stanhope, Hester Lucy ...	711	Syriac Versions ...	736
Stanislaus ...	710	Syrophenicia... ..	499
Stanley, Arthur Penryhn ...	711	Systematic Theology ...	775
Stapfer, Phillip Albert ...	710		
States of the Church ...	1046	T abernacle	1283
Staudenmeier, Franz Anton ...	710	Tabor, The Mount of ...	785
Staudlin, Karl Friedrich ...	717	Tait, Archibald Campbell ...	858
Staupitz, Johann von ...	710	Talmage, Thomas De Witt...	791
Steel, Sir Richard... ..	713	Talmud	790
Steele, Anne	716	Tancred of Bolgna... ..	791
Stennett, Joseph	516	Tappan, Henry Philip... ..	784
Stennett, Samuel	715	Targum	786
Stephan, Martin	715	Tarshishi	788
Sterry, Peter	715	Tarsus	788
Sternhold, Thomas	711	Tate, Nahum... ..	853
Studel, Johann Christian Friedrich ...	717	Tatian	783
Stewart, Dugald	712	Tatian, The Gospel of... ..	783
Stiekna, Conrad	713	Tauler, Johannes	782
Stier, Rudolf Ewald	714	Tausen, Hans... ..	782
Stilling (Johann Heinrich Jung) ...	714	Taylor, Dan	872
Stillingfleet, Edward	714	Taylor, Isaac... ..	871
Stirling, James Hutchison	711	Taylor, Jeremy	873
Stoicism	716	Taylor, Nathaniel William... ..	872
Stolberg, Friedrich Leopold Count von ...	719	Taylor, William	872
Story, Robert Herbert	718	Tell-el-Amarna	870
Strauss, David Friedrich	717	Teller, William Abraham	871
Strigel, Victorinus	719	Temperance and the Temperance Movement ...	357
Strong, Nathan	719	Temple, Friedrich	862
Stuart, Moses... ..	713	Temple at Jerusalem	213
Sturm	713	Temple Society	862
Sturm, Johann	713	Tendency Theory... ..	413
Stylites	806	Tenison, Thomas	862
Summers, Thomas Osmond... ..	516	Tennent, Gilbert	876
Sumner, John Bird	516	Tennent, William... ..	875
Sun and Sun-worship	781	Tennent, William... ..	875
Sunday	967	Tennyson, Alfred	861
Sunday Schools	967	Tersteegen, Gerhard	870
Supererogation, The Doctrine of Works of ...	1184	Tertullian	870
Supernaturalism	808	Tetrarch... ..	1536
Supralapsarianism	696	Tetzl, Johann	858
Susanna, The History of	700	Textual Criticism... ..	414

	Page.		Page.
Thaddaeus	783	Torquemada (Turrecremata) Thomas de... ..	913
Theiner, Augustin... ..	781	Tower of Babel, The	1074
Theism	773	Townbee, Arnold	904
Theocracy	653	Trachonitis	911
Theodore of Mopsuestia	848	Tract Societies	594
Theodoret	848	Tractarians	594, 911
Theodosius the Great	847	Trajanus, Marcus Ulypius	912
Theological Seminary	644	Transcendence, Transcendent, Transcendental..	808
Theology	643	Transcendentalism	808
Theresa, St.	871	Transfiguration	1213
Thessalonians, The First Epistle to the ...	849	Transubstantiation	444
Thessalonians, The Second Epistle to the ...	852	Trappists, The	911
Thessalonica	849	Tregelles, Samuel Pridcaux	916
Theudas	805	Trinity and Triunity, The Divine.	519
Thirlwall, Connop	518	Trithemius, Johann	912
Thirty-nine Articles, The	523	Troas	918
Thirty Years' War, The	524	Tübingen School, The... ..	806
Tholuck, Friedrich August... ..	915	Tüloch, John... ..	806
Thomas	909	Tunkers	913
Thomas Aquinas	909	Turkey	913
Thomas, The Gospel of	910	Turner, Samuel Hulbeart	789
Thompson, Joseph Parrish	911	Turretini, Jean Alphonse	842
Thorndike, Herbert	778	Turretini, Francois	842
Thornton, Robert H.	779	Twelve Apostles, The Gospel of the... ..	678
Thornwell, James Henley	778	Twelve Apostles, The Teaching of the ...	677
Tiberias, The Sea of	862	Twelve Patriarches, The Testaments of the ...	678
Tiglath-Pileser	849	Twiss, William	904
Tille, Cornelis Petrus	846	Tyler, Bennet	781
Tillemont, Louis Sébastien... ..	826	Tyndale, Willam	828, 846
Tillemont, Louis Sébastien, Le Nain De... ..	845	Tyre	842
Tillotson, John	828, 843	Tzschirner, Heinrich Gottlieb	827
Time in the Bible... ..	905		
Timothy... ..	862	U bbonites or Ubbenites	174
Timothy, The First Epistle to	863	Ubertinus, de Casali	174
Timothy, The Second Epistle to	868	Ubiquity	1393
Tindal, Matthew	828, 847	Ueberweg, Friedrich	1395
Tischendorf	808, 844	Ullmann, Karl	176
Tithes	678	Ulphilas... ..	176
Titus	859	Ultramontaniam	176, 1270
Titus	859	Umbreit, Friedrich Wilhelm	174
Titus, The Epistle to	859	Unigenitus	174
Tobit, The Book of	907	Unitarianism... ..	1390
Todd, Henry John	907	United Free Church of Scotland, The ...	705
Todd, James Henthorn	907	United States of America	38
Todd, John	907	Universal Evangelical Protestant Church, The	1160
Toland, John... ..	912	Universalists... ..	1388
Tolet, Francis	917	Unleavened Feast, The	785
Tolstoi, Count Lyov Nikolaievitch	914	Ur of Chaldees	175
Tombs, John	841	Urban	176
Tonsure	845	Uriah	175
Toplady, Augustus Montagnus	908	Urim and Thummim	174
Torah	911		

	Page.		Page.
Uralsperger, Johann August	177	Waldo, Peter	147
Ursula	175	Wales Presbyterian or Calvinistic Methodist Church, The	159
Ursulines	176	Wallace, Alfred Russel	172
Utilitarianism	468	Wallace, Robert	172
Uz	174	Wallace, William	172
Uzziah	173	Wallin, Johann Olof	172
V		Walpurga	148
Vadianus, Joachim von Watt	146	Walton, Brian	147
Valdes, Juan de	149	Warburton, William	148
Valens	150	Warburtonian Lectures	148
Valentine, St.	150	Ward, James	148
Valentinian III	150	Ward, Wilfrid Philip	148
Valentinus	150	Wardlaw, Ralph	148
Valerian	150	Ware, Henry	159
Vallombrosa	150	Warham, William	148
Van Dyke, Henry	150	Watson, John	147
Vandals	150	Watson, Richard	147
Vatican, The Palace of	148	Watts, Isaac	146
Vatican Codex	149	Weeks	539
Vatican Council, The	149	Weights and Measures in the Bible	944
Vatke, Wilhelm	147	Weir, Duncan Harkness	144
Vaughan, Herbert	148	Weismann, August	146
Vegetables in the Bible	625	Weiss, Bernhard	145
Veni, Creator Spiritus	167	Weisse, Christian Herman	146
Veronica	167	Weizsäcker, Karl	145
Vespasian, Titus Flavius	167	Weitbrecht, Gottlob Friedrich	145
Vestry	161	Wellhausen, Julius	166
Vicar	158	Wendt, Hans Heinrich	167
Vicarious Atonement, The Theory of	792	Wernx, Francis Xavier	167
Victor	158	Wesley, Charles	165
Vigilantius	158	Wesley, John	161
Vigilius	158	Wesley, Samuel	166
Vincent de Paul	159	Wesley, Susannah	166
Vincent, St.	159	Wesley Endeavour Society, The	166
Vinet, Alexandre Rodolphe	158	Wesleyan Methodist Church	161
Virgin	231	Wessel, Johann	166
Visitants or Nuns of Visitation	158	Westcott, Brooke Foss	159
Vitalian	158	Western Theological Seminary	159
Vitus	158	Westminster Abbey	160
Voltaire	172	Westminster Assembly, The	160
Vow	737	Westminster Standard, The	161
W		Wetzer, Heinrich Joseph	166
Wace, Henry	159	Whately, Richard	1200
Wainwright, Jonathan Mayhew	167	Whichcote, Benjamin	1257
Wake, William	159	Whiston, William	1257
Wakefield, Edward Gibbon	159	Whitby, Daniel	1258
Walch, Christian Wilhelm Franz	148	White, William	1269
Walch, Johann Georg	148	Whitefield, Gerge	1259
Wald, William George	147	Whitegift, John	1258
Waldenses	147	Whitsuntide	759
		Wichern, Johann Heinrich	152

	Page.		Page.
Wielit, John	151	Wordsworth, Christopher	169
Wilberforce, Samuel	158	Wordsworth, John	169
Wilberforce, William	157	Wordsworth, William	168
Wilderness of Judaea, The	1386	Works	226, 378
Wilfrid	158	Worms	170
Will	110	Wotton, William	167
Willard, Francis Elizabeth	154	Wundt, Wilhelm Max	177
William, Prince of Orange	154	Wuttke, Karl Friedrich Adolf	174
William, Wykeham	155		
William of Champeaux	154	X	
William of Malmesbury	155	Xavier, Francisco	535
William of Shoreham	154	Ximenes De Césneros, Francisco	1124
William of Tyre	154	Y	
Williams, Isaac	155	Year	907
Williams, John	155	Year of Jubilee, The	1454
Williams, John	155	Young Men's Christian Association (Y.M.C.A.)	314
Williams, Rawland	157		
Williams, Roger	157	Z	
Williams, Samuel Wells	155	Zaccheus	535
Williams, Sir George	155	Zacharias	535
Williams, Sir Monier Monier	157	Zadok	538
Wilson, John	157	Zanchi, Hieronymus	539
Wilson, Thomas	157	Zarephath	518
Winebremerians	153	Zealots	773
Winer, George Benedict	154	Zebedeo	773
Wisdom Literature	807	Zebulun	773
Wisdom of Jesus, the Son of Sirach or Ecclesiasticus, The	636	Zechariah	535
Wisdom of Solomon, The	780	Zechariah, The Book of	535
Wiseman, Nicholas Patrick Stephen	146	Zedekiah	771
Wishart, George	152	Zeisberger, David	828
Wishart, George	153	Zell, Matthäus	834
Witherspoon, John	151	Zenon (Zeno) of Cyprus	834
Witsius, Hermann	153	Zenon (Zeno) of Elea	834
Wodrow, Robert	168	Zephaniah	772
Wolf, Christian	169	Zephaniah, The Apocalypse of	773
Wolf, Johann Christoph	170	Zephaniah, The Book of	772
Wolf, Joseph	170	Zerubabel	772
Wolfenbüttele Fragments	170	Zidon	578
Wolfe, Johannes	172	Zimri	828
Wolsay, Thomas	168	Zinzendorf, Nicolas Ludwig, Count von	829
Woman	1540	Zion	565
Woods, Leonard	174	Zionist Movement, The	566
Woods, Leonard, Jun	174	Zionists	534
Woolstone, Thomas	177	Zollikofer, Georg Joachim	834
Worcester, Samuel	168	Zschokke, Johann Heinrich Daniel	827
Wordsworth, Charles	169	Zwingli, Huldreich or Ulrich	830
Wordsworth, Christopher	169		



明治四十四年十一月十日印刷

基督教大辭典與附

明治四十四年十一月十三日發行

定價金拾五圓

著者 神學博士 高木壬太郎

發行者 東京市京橋區尾張町二丁目十五番地 福永文之助

印刷者 橫濱市太田町五丁目八十七番地 村岡平吉

印刷所 橫濱市山下町八十一番地 福音印刷合資會社

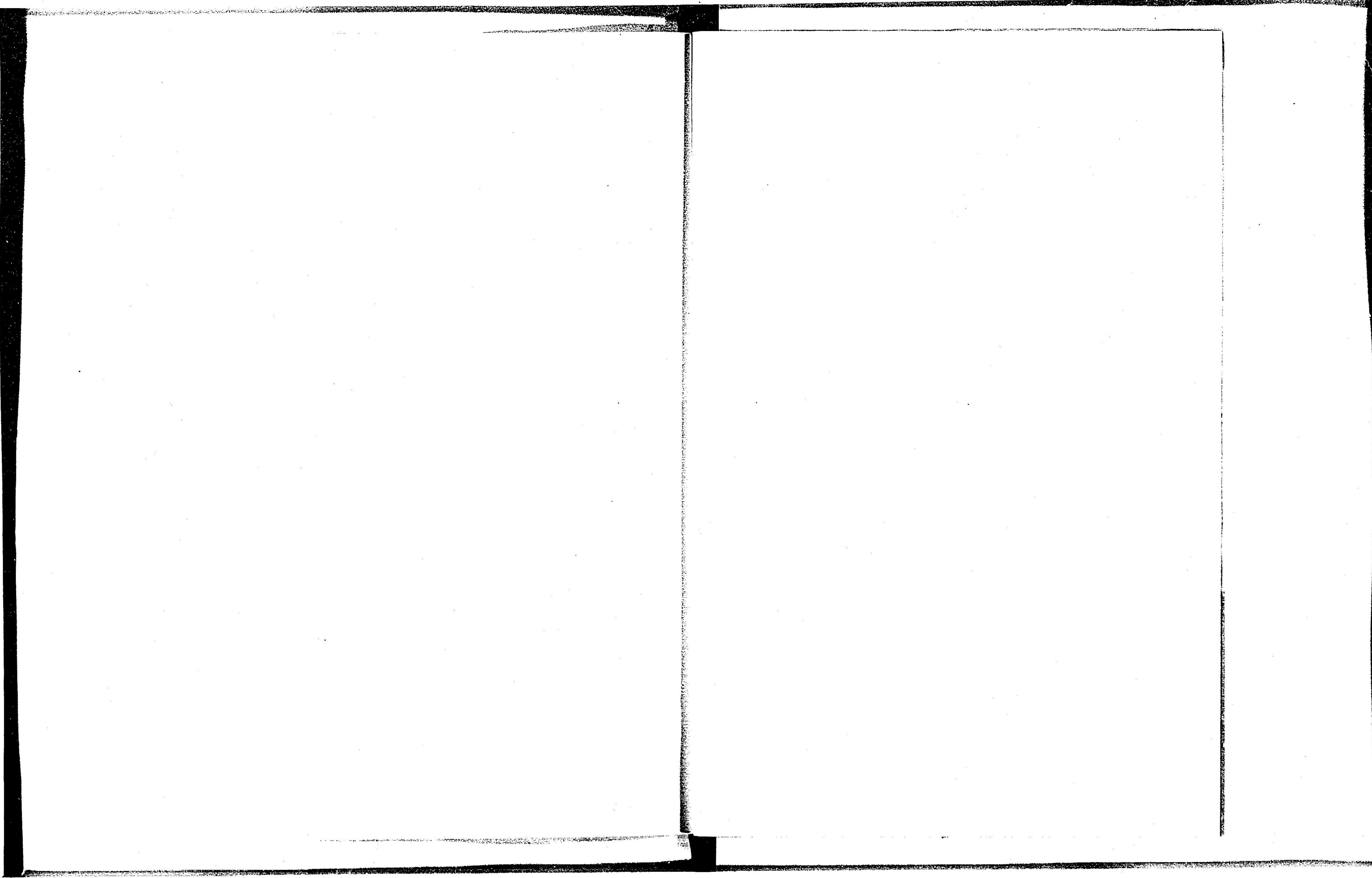
著作權所有

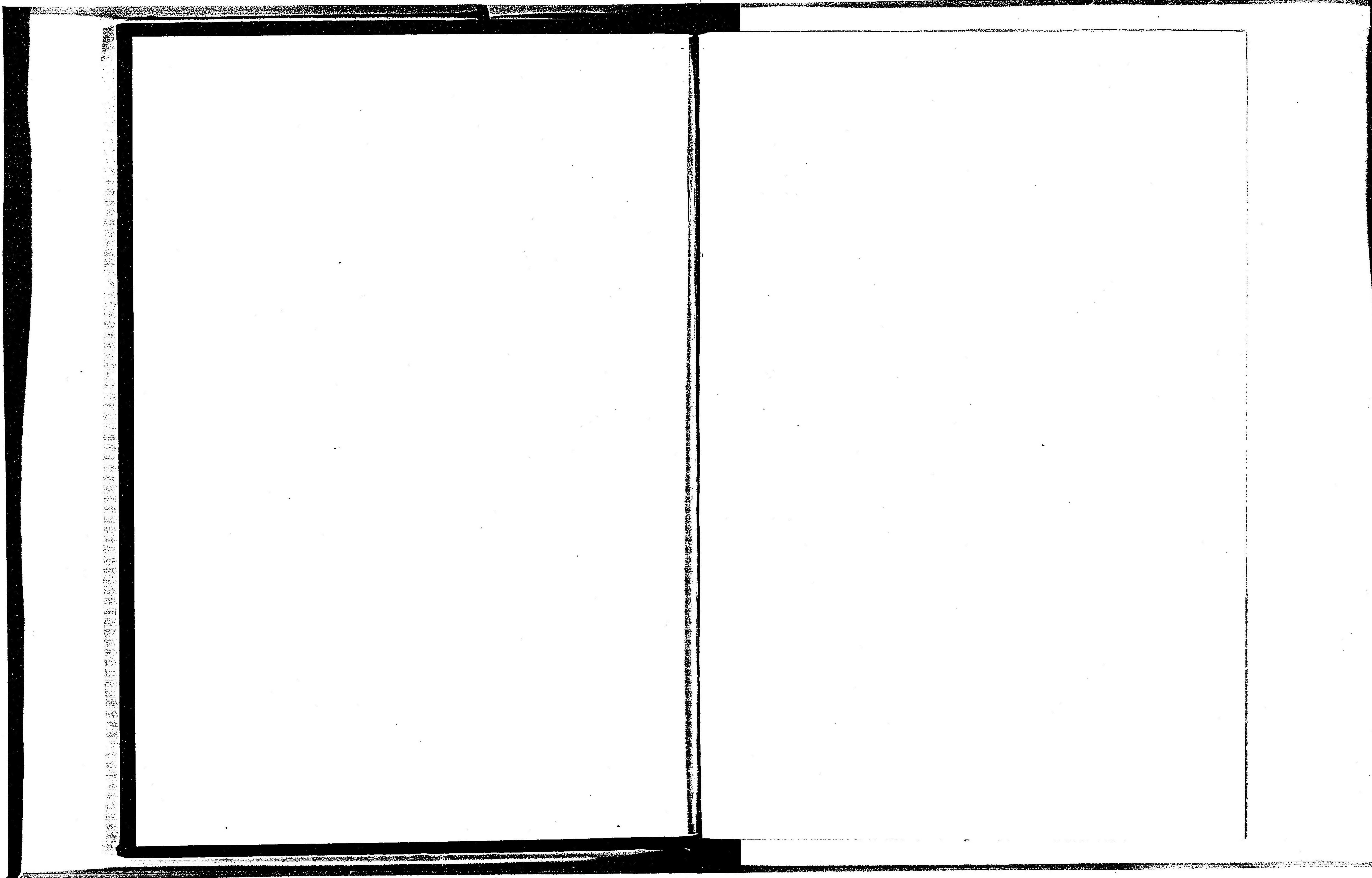
發行所 東京市京橋區尾張二丁目十五番地 (電話新橋一五八七) 振替貯金東京五五三) 警醒社書店

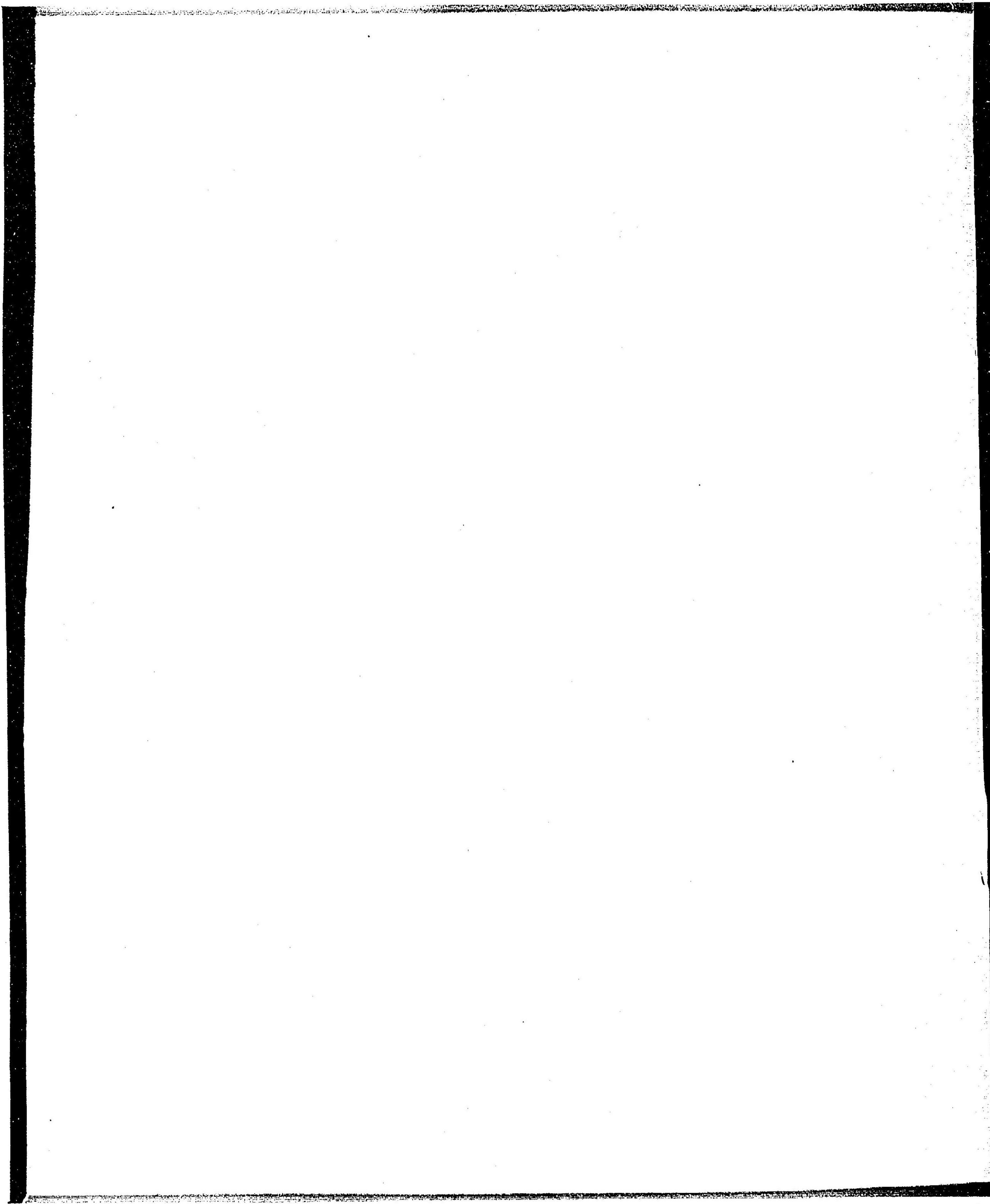
同 東京市本郷區春木町二丁目二十三番地 警醒社支店

大賣捌所 大 阪市北久寶寺町 福音社書店
神戶市元町通鯉川筋 福音社書店
橫濱市壽町龜ノ橋通 福音社書店

4192 2/







170.33
Ta.212K

020463-000-8

190.33-Ta212k

基督教大辞典

高木 壬太郎/編

M44

ABI-0273



